小学館版 少年少女 学習まんが

日本の歴史

監修/児玉幸多 学習院大学名誉教授

⑨ 立ちあがる民衆 ●室町時代後期

決定版

●まんが

あおむら　純

1941年、山口県に生まれる。アニメーションの作画などをへて現在にいたる。歴史まんがの分野で大活やくし、少年少女のファンも多い。

9巻にご協力いただいた方がた

●監修
児玉幸多（学習院大学名誉教授）

●まんが
あおむら純
●シナリオ
横井　清（元桃山学院大学文学部教授）
西原和海
高橋千劔破

●考証
石井謙治（日本海事史学会名誉会長）
小泉和子（生活史研究所代表）
鈴木友也（日本美術刀剣保存協会専務理事）
高田倭男（高田装束研究所所長）
玉井哲雄（千葉大学名誉教授）

●指導（教育現場の立場から）
高山博之（京都教育大学名誉教授）

●指導・執筆・協力
岡田威夫（共立女子高校）
川上　貢（京都大学名誉教授）
高橋康夫（京都大学名誉教授）
鈴木正司（広島県立歴史博物館）
横井　清（元桃山学院大学文学部教授）
高橋千劔破
斎藤公男（日本大学名誉教授）
柳田聖山（京都大学名誉教授）

●取材協力
大阪城天守閣　岡田利兵衛　角川書店　京都国立博物館　幸節静彦　サントリー美術館　慈照寺　酬恩庵　真珠庵　真正極楽寺　関ヶ原町歴史民俗資料館　大仙院　退蔵院　東京国立博物館　中村富次郎　奈良県立博物館　㈶根津美術館　広島県草土千軒町遺跡調査研究所　広島県立歴史博物館　宝鏡寺　㈶防府毛利報公会　竜安寺　鹿苑寺

●イラスト
角愼作　中西立太　深山のぼる
●作画協力
伊藤光男　大岡龍二　小井土繁　小杉彰　小山春夫　阪上吉英　芝知照　坪井幸一　馬場秀夫　山本貴久雄
●装丁・レイアウト
功野真矢　佐野恒雄（ＣＳＪ）　篠原忠彦　成澤哲夫（ＮＥＤ）

●版下
大山デザイン　昭和ブライト　タナカデザイン
●編集協力
エディトリアル・プランニング　銀杏社　真英社　鈴木悦子　橋森紀夫　風人社
●編集担当
柏原順太　宮部良雄　八巻孝夫

（五十音順・敬称略）

小学館版 少年少女 学習まんが

日本の歴史

9

立ちあがる民衆

●室町時代後期

監修/児玉幸多　まんが/あおむら純

この巻の歴史年表

巻数	時代	年代
1	旧石器（岩宿）	前3万
	縄文（紋）	前1万
	弥生	前1000
2	古墳	紀元1
	飛鳥	100
3	奈良	200
4	平安	300
5		400
6		500
7	鎌倉	600
8	南北朝	700
9	室町	800
10	戦国	900
11	安土桃山	1000
12	江戸	1100
13		1200
14		1300
15		1400
16		1500
17	明治	1600
18		1700
19	大正	1800
20	昭和・前期	1900
21	昭和・後期～平成	

●この巻には、青色の部分の時代・年代が、かかれています。

時代・文化

室町時代の文化

西暦 ●1440 ●1439 ●1438 ●1431 ●1428 ●1423 ●1416 ●1408

日本のおもなできごと

ゾウなどをのせた南蛮船が若狭国の小浜に漂着する。

鎌倉公方との対立、土一揆などのために幕府が不安定となる。

上杉氏憲（禅秀）らが鎌倉府を攻撃し、関東の混乱がふかまる。（上杉禅秀の乱）

幕府が鎌倉公方足利持氏の討ばつを命ずる。

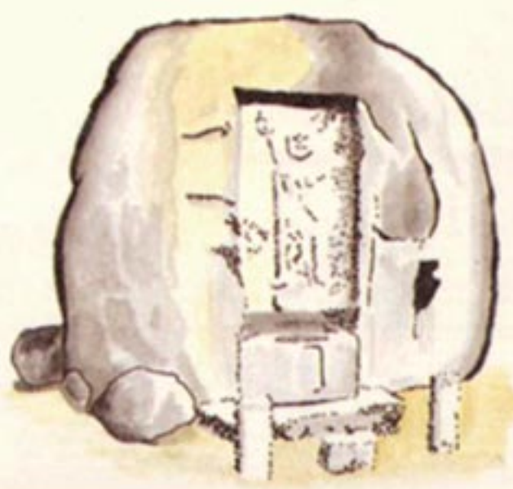
正長の土一揆がおこる。

このころから**守護大名の対立**がしきりにおこる。

足利持氏が上杉憲実を攻撃しようとするが、やぶれて翌年自殺する。（永享の乱）

上杉憲実が足利学校を再興する。

結城氏朝が持氏の子安王丸・春王丸をおしたてて挙兵する。（結城合戦）



西暦 ●1434 ●1429 ●1419

世界のおもなできごと

フスのキリスト教に共鳴した人びとが反乱をおこす。

百年戦争でジャンヌ＝ダルクの活やくがはじまる。

フィレンツェのメディチ家がさかえ、ルネサンスをおしすすめる。

（～1492）

室町時代

東山文化

1490 1488 1486 1485 1482 1481 1477 1473 1467 1457 1455 1449 1441

将軍義教が赤松満祐にころされる。（嘉吉の乱）
持氏の子足利成氏が鎌倉公方となる。
前年より関東動乱。足利成氏が下総国古河にのがれる。
将軍義政が、弟政知を伊豆堀越におき関東をおさめさせる。
このときから、成氏（古河公方）と政知（堀越公方）の対立がはじまる。

応仁の乱がおこり、下剋上の世となる。

応仁の乱がおこる。
山名宗全、細川勝元が死ぬ。
京都での戦いはおわり、地方に広まる。
義政が勘合船を朝鮮におくり、「大蔵経」をもとめる。
義政が東山に山荘の造築をはじめる（→史跡クローズアップ）。
山城国一揆がおこり、以後八年間一揆の衆が南山城の自治を行う。
江戸城をたてた太田道灌が上杉定正にころされる。
雪舟が「山水長巻」を完成させる。
このころ、多量の明銭が輸入され、流通する。
宗祇らにより「水無瀬三吟百韻」（連歌）ができる。
加賀一向一揆の衆が守護の富樫政親をほろぼし、加賀国を支配する。
足利義政が死ぬ。

1488 1480 1479 1455 1453

●このころ、グーテンベルクが活版印刷術を発明する。
東ローマ帝国がほろぶ。
百年戦争がおわる。
イギリスで王位をめぐり、ばら戦争がおこる。（～1485）
スペイン王国が成立する。
モスクワ大公国が自立する。
バーソロミュー＝ディアスが喜望峰にたっする。（新航路発見の幕あけ）

はじめに

応仁の乱から戦国時代へ

◆一休と雪舟

第九巻では、15世紀なかばの時代を見ていくことにします。みなさんは、一休さんを知っていますか。そう、とんちの名人として、あまりに有名なお坊さんですね。

では、雪舟という人については、どうでしょうか。

こどものころ、しかられて柱にしばられた雪舟が、床にたまった涙で、足先をつかい、ネズミの絵をかきました。そのネズミが今にも動きだすかのようで、見る人をびっくりさせたというお話は、みなさんも、きっと聞いたことがあるでしょう。雪舟は、水墨画の画家として、後世に名をのこしました。

一休も雪舟も、この15世紀なかばを生きた人たちなのです。

◆応仁の乱

三代将軍・足利義満の死後、全盛をほこった室町幕府は、しだいに力がおとろえていきました。幕府と守護大名とのたえまない争い、全国的なききんなどが、その原因でした。

ことに、一四六七年から始まった「応仁の乱」は、幕府の土台を大きくゆるがせました。この乱は、将軍家のあとつぎ争いに、守護どうしの対立がからんでおこったものです。

合戦につぐ合戦は、十一年もの長い間つづき、戦場となった京都は、焼け野原とかしてしまいました。

公家や僧たちは京都をのがれ、地方にうつりすみました。そのため、周防（山口県）の山口など、地方の都市に文化が広がることになりました。

先の雪舟も、山口などで活やくした一人なのです。

◆名もない民衆

歴史を動かしていくのは、すぐれた政治家や武将だけではありません。歴史に一人一人の名をとどめない民衆こそが、社会を大きく変えていく、ほんとうの力だといえるのです。

この本を第一巻から読みとおしてきたみなさんには、そのことがよく理解していただけるでしょう。

とりわけこの時代は、民衆の力が歴史の表面におどり出てきたことで、いっそう注目されます。幕府や領主の支配、ききんなどに苦しむ人びとが、ついに「土一揆」をおこして立ちあがりました。

――そして、世の中はさらに大きな動乱、戦国時代をむかえるのです。

もくじ

- この巻の歴史年表
- はじめに
- おもな登場人物

第1章 ゆらぐ室町幕府

- 足利義持の政治
- 大画面・ききんに苦しむ庶民
- くじ引きでえらばれた将軍
- 将軍暗殺される（嘉吉の乱）

第2章 土一揆と民衆

- 立ちあがる農民たち
- 手をむすぶ馬借の衆
- 大画面・正長の土一揆
- 大画面・村に平和がもどる

第3章 応仁の乱

- 足利義政、将軍になる
- 政治から遠ざかる義政
- 細川勝元と山名宗全
- 畠山家の争い

9 立ち上がる民衆

●室町時代後期

第4章 東山文化

- 御霊林の戦い
- 大画面・応仁の乱
- 義政の山荘づくり
- 大画面・東山山荘
- 雪舟の旅
- 山城国一揆
- 義政の死

おもな登場人物

※この巻に登場するおもな人物を紹介します。登場人物をくわしく知るための事典として、役立たせてください。

第1章

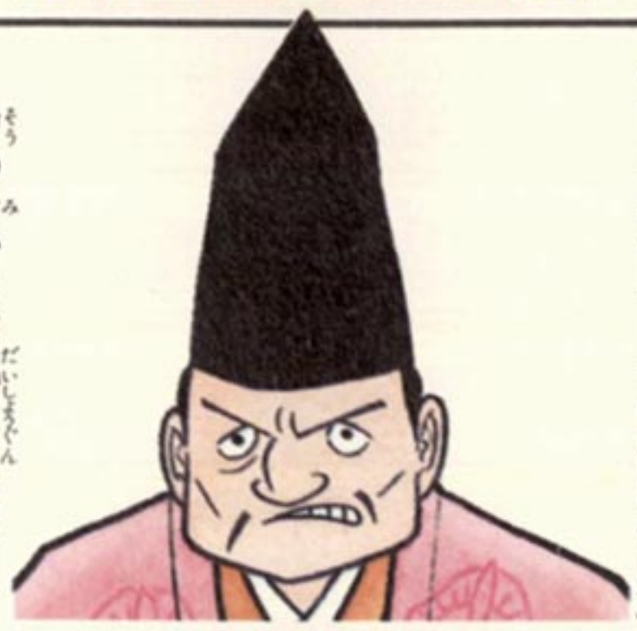
足利持氏（一三九八～一四三九年）

鎌倉公方。関東に勢力をはって幕府に対抗、関東管領上杉憲実をうとうとして、敗れる。

足利義持（一三八六～一四二八年）

四代将軍、父義満の死後幕府をかため、日明貿易の中止など、父の政策をあらためる。

足利義教（一三九四～一四四一年）



僧の身から六代将軍になり、幕府の力を高める。嘉吉の乱で赤松満祐にころされる。

赤松満祐（一三八一～一四四一年）

将軍義教に所領をうばわれたのを憎み、将軍を暗殺して、嘉吉の乱をひきおこす。

第2章

野武士

特定の主人を持たず、山野にかくれていて、村や商人をおそった武士や土民。

馬借

馬の背中に物資をつんで、京や奈良への輸送にあたった運送業者。

農民

このころ農業生産は拡大し、農民の生活にゆとりができ、自治自営組織が発達する。

土倉・酒屋

高利貸し業者。庶民に高い利子でお金をかし、大もうけをして反発をまねく。

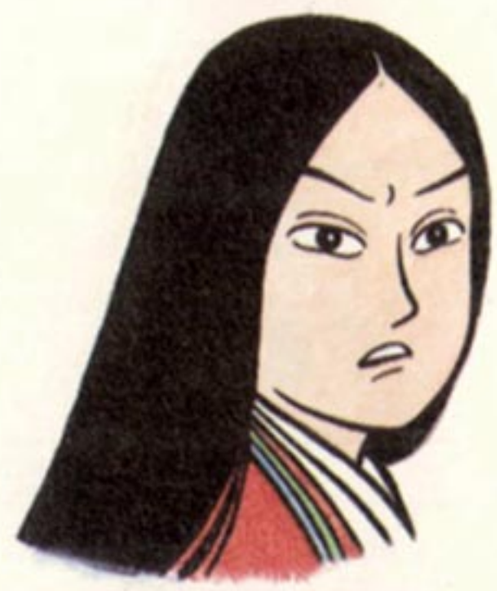
⑨ たちあがる民衆

●室町時代後期

春王丸　安王丸

第3章

日野富子（一四四〇～一四九六年）

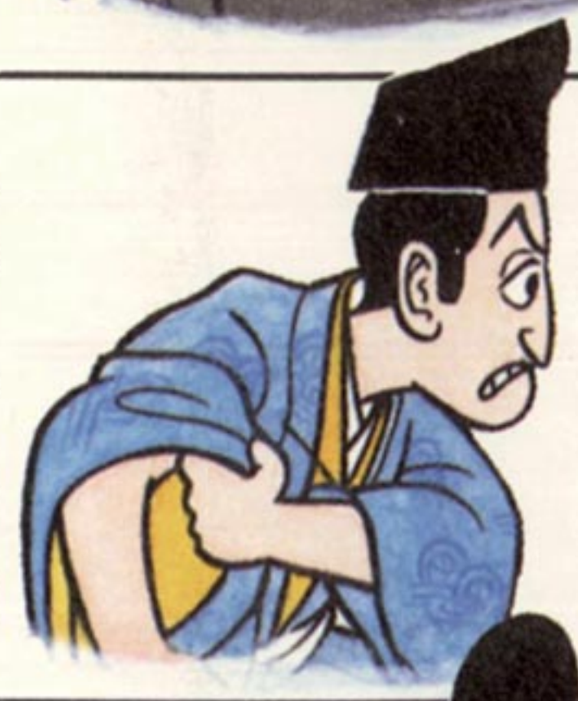


八代将軍義政の妻。将軍のあとつぎ問題で山名宗全と結び、応仁の乱の原因をつくる。

山名宗全（一四〇四～一四七三年）

嘉吉の乱で赤松満祐をうつ。日野富子の子義尚を後継に押し、応仁の乱をひきおこす。

細川勝元（一四三〇～一四七三年）



管領職に三度もついた有力守護大名。山名宗全と対立し、幕府を二分する乱をおこす。

足利義政（一四三六～一四九〇年）

六代将軍義教の子。妻は有名な日野富子。後継者をめぐり、応仁の乱の原因をつくる。

第4章

足利義政（一四三六～一四九〇年）

朝鮮や明との貿易を行う。義尚に将軍をゆずり、後世にのこる東山文化をいとなむ。

狩野正信（一四三四～一五三〇年）

絵師で狩野派の祖。将軍家の御用絵師となり、「布袋図」などの名作をのこす。

雪舟（一四二〇～一五〇六年）

水墨画を大成させた画僧。中国でも高い評価を受ける。代表作は『山水長巻』。

宗祇（飯尾宗祇）（一四二一～一五〇二年）

旅をしながら連歌を広め、「旅の詩人」といわれる。『新撰菟玖波集』などをのこす。

小学館 eBooks

第一章

ゆらぐ室町幕府

――室町時代後期――

一四〇八年五月、*花の御所

ブルルル

ドドッ

*花の御所（室町殿）…足利将軍家の住まい。京都府京都市上京区。

義満さまがなくなられたという。

武家や公家をしたがわせる力をもっていたのは、義満さまだけじゃった。

おいたわしや…。

それで、あとつぎは？

四代将軍は義持さまだとか…。

しかし、義満さまは、次男の義嗣さまに将軍職をゆずられるつもりだったらしいぞ。

足利氏の系図

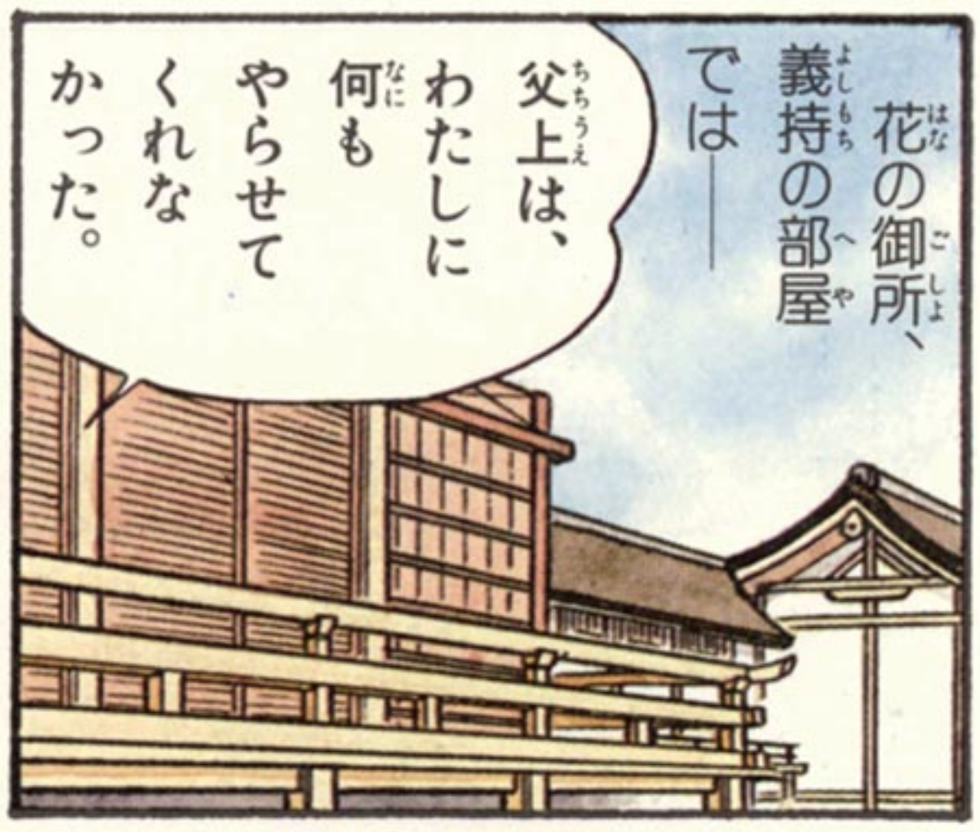
義詮

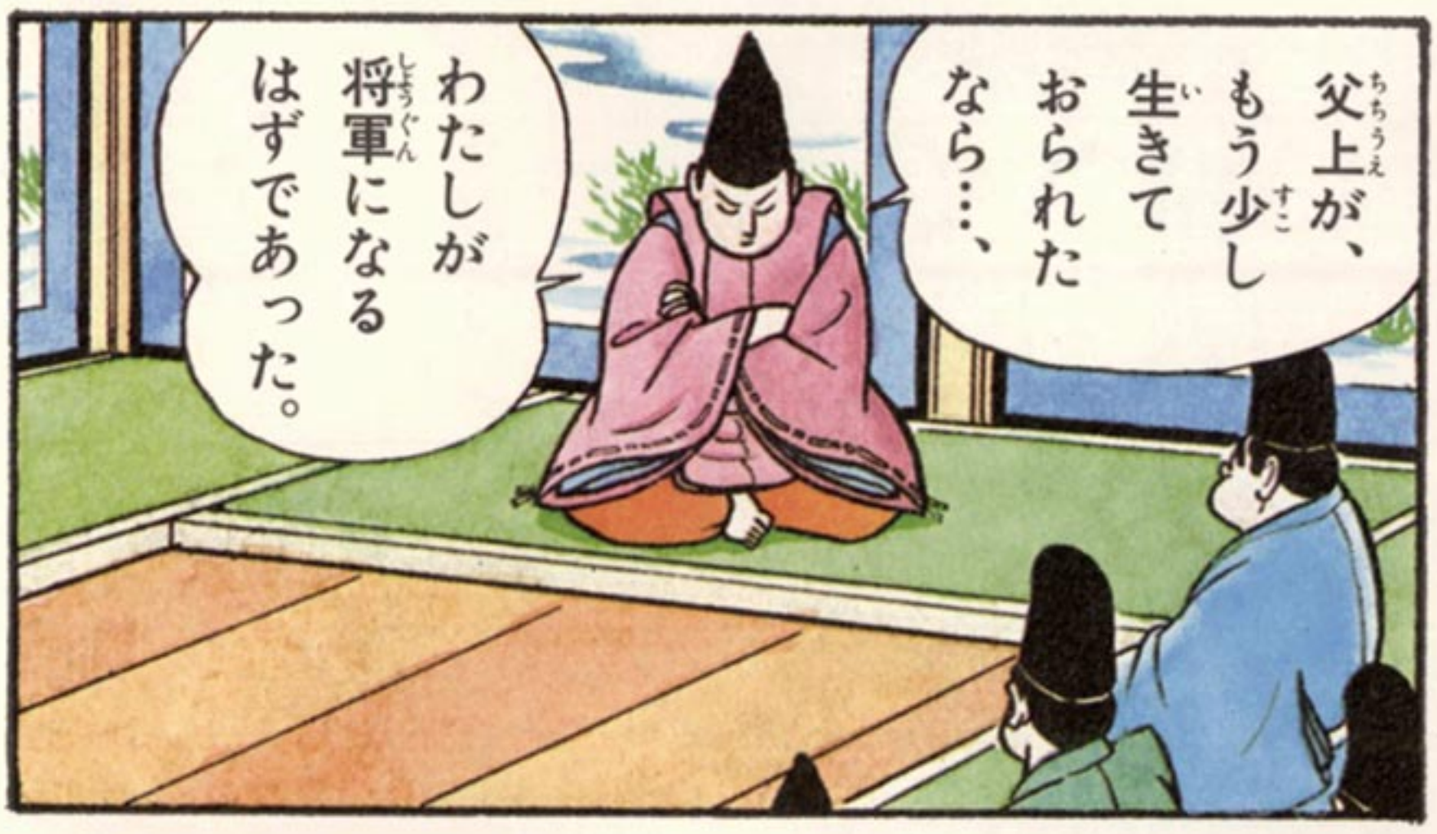
義満

義持

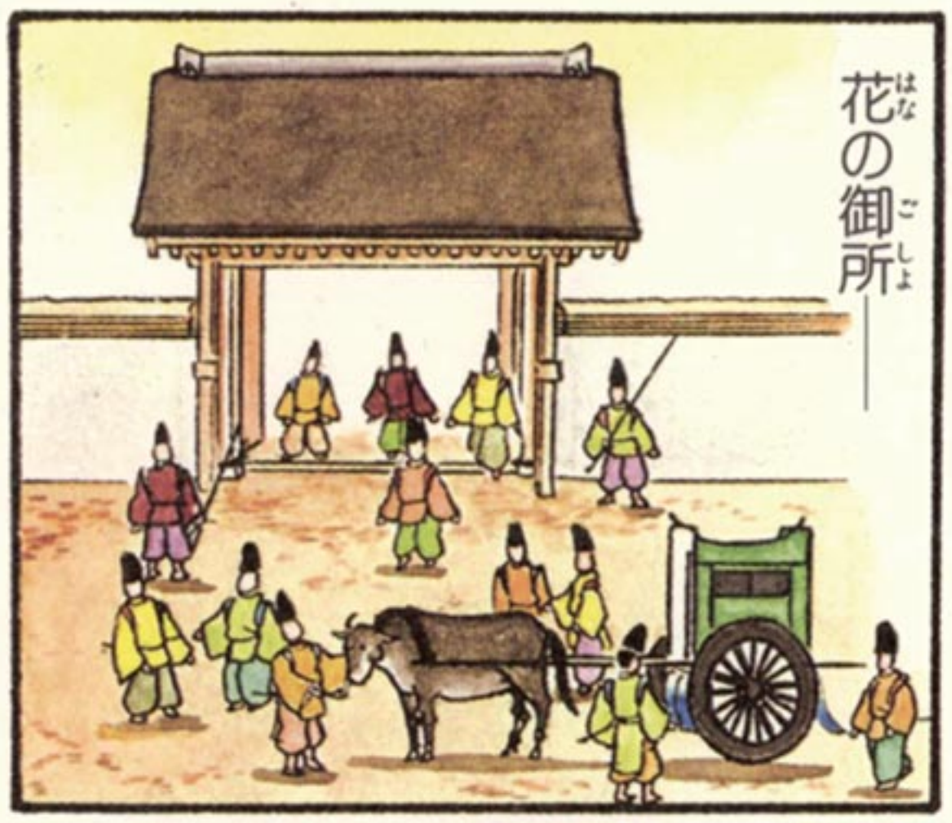
義嗣

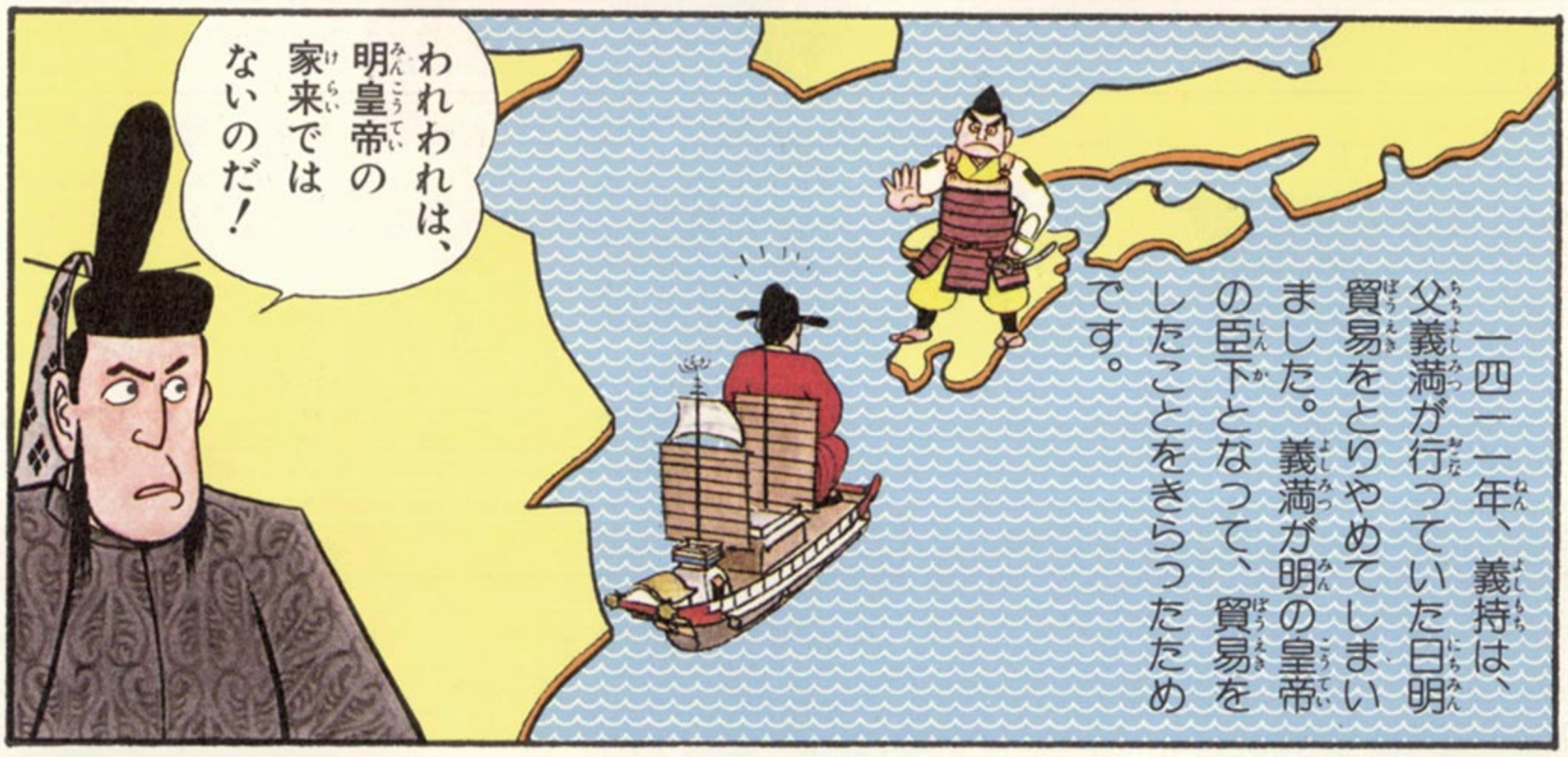
その他の兄弟





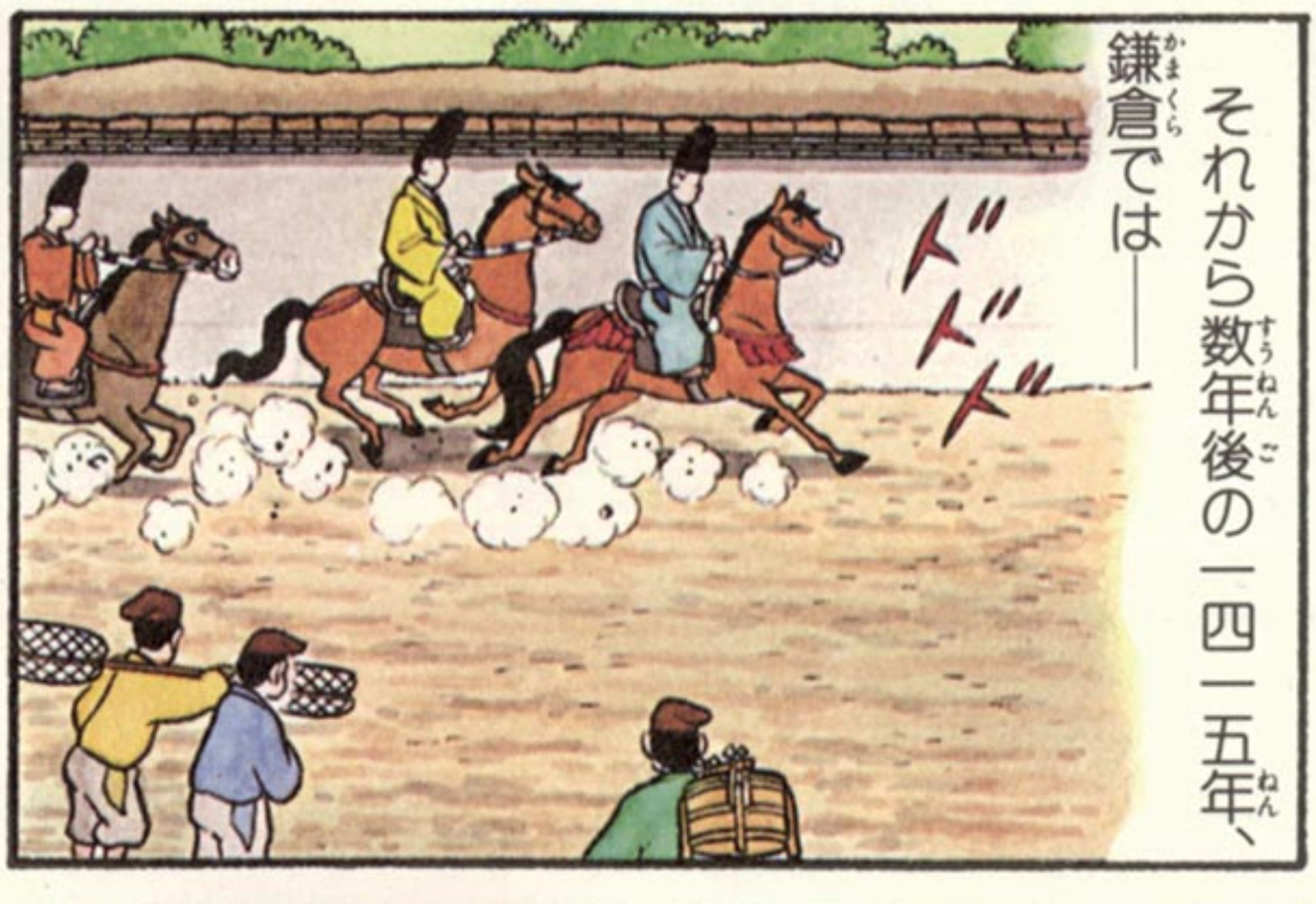
*北山山荘…義満が、京都府京都市北区衣笠山のふもとにたてたりっぱな山荘。今の金閣寺の一帯。

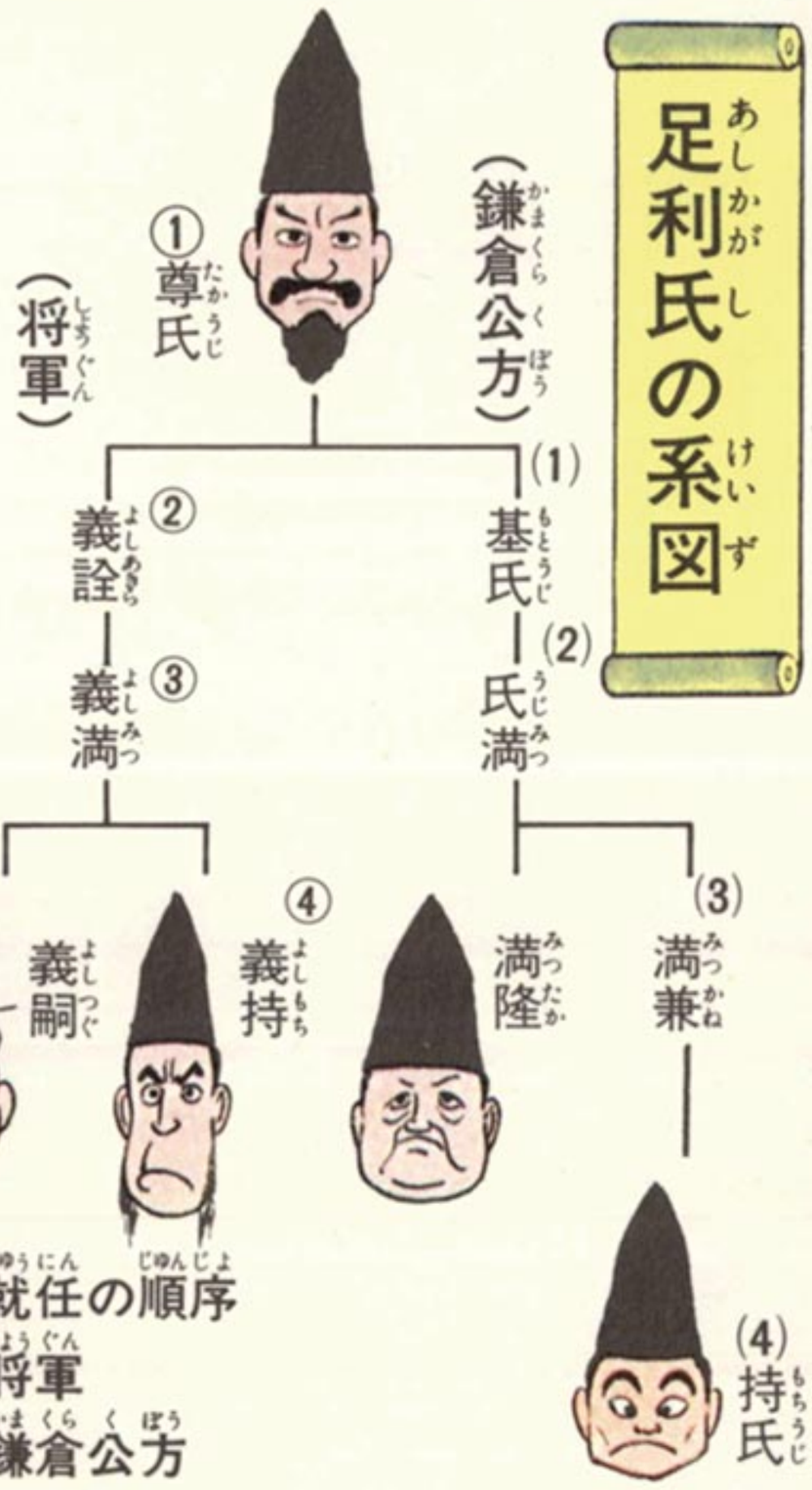


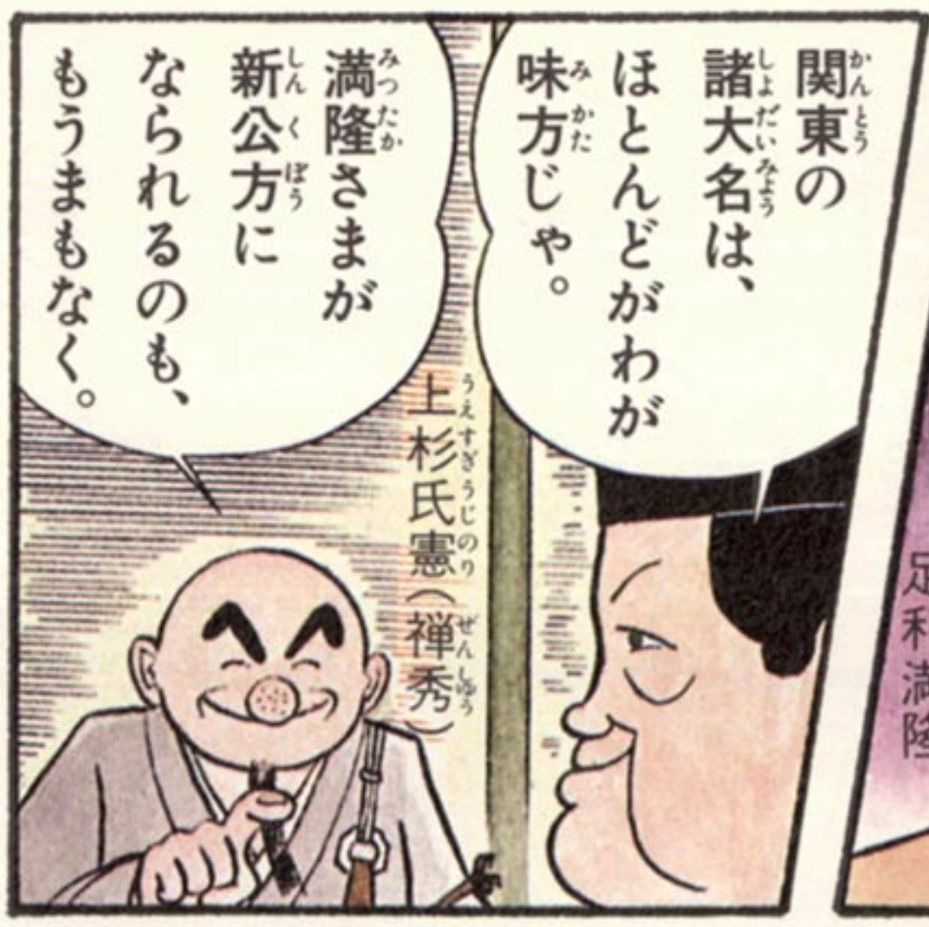


一四一一年、義持は、父義満が行っていた日明貿易をとりやめてしまいました。義満が明の皇帝の臣下となって、貿易をしたことをきらったためです。

*太上法皇…位をゆずり、僧になった天皇(法皇)におくられた尊称。だから、天皇でなかった義満におくろうとしたのは異例のこと。







＊鎌倉公方…室町幕府のもとで、関東をおさめる鎌倉府の長官。関東公方ともいう。

＊関東管領…室町幕府の職名。鎌倉府において、鎌倉公方をたすけて政治を行った。

＊出家…僧になること。

ありがたいことに、京の義嗣さまもわれわれに味方してくださるというし…。

成功したならば、義嗣どのを将軍におしたてて…、

われわれが関東をいただく。

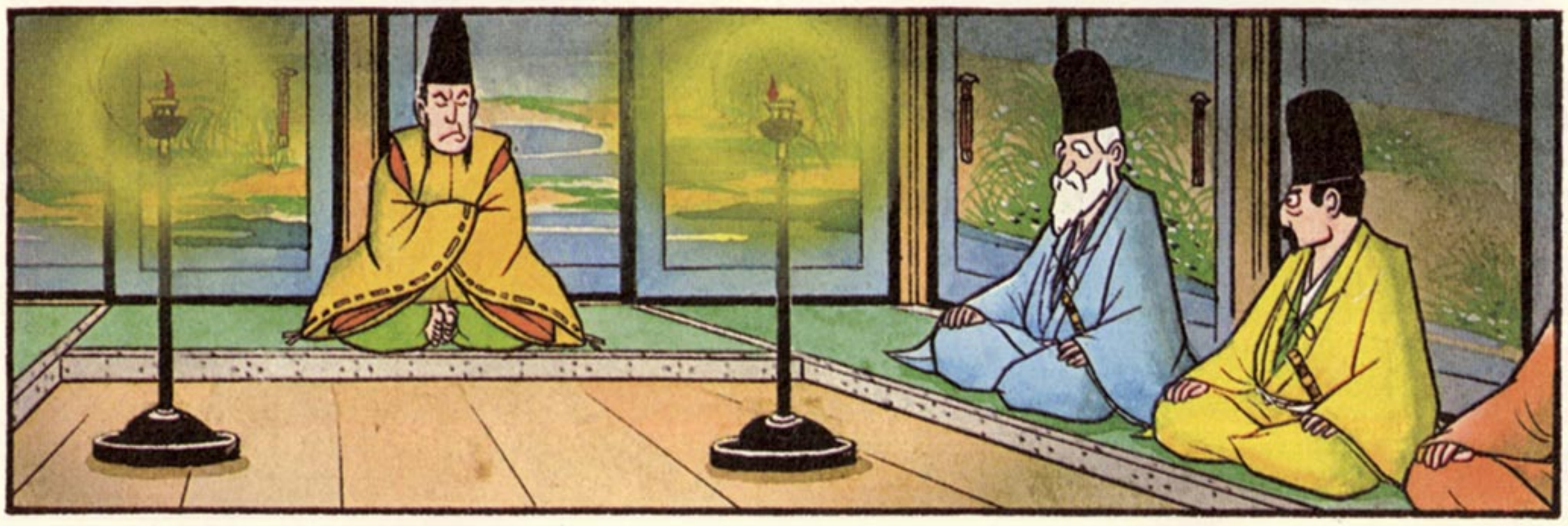
わっはっはっ

京では――

ドドド

鎌倉公方の持氏さまが、満隆と上杉氏憲の軍勢におそわれました!!

なにっ!!



新しい鎌倉公方をみとめるか……。

だんじてうつべきだ!上杉氏憲が関東を支配すると、かならず幕府に反抗するにちがいない。

細川満元

*管領

……。

義嗣さまが、かげで糸を引かれているらしいですぞ。

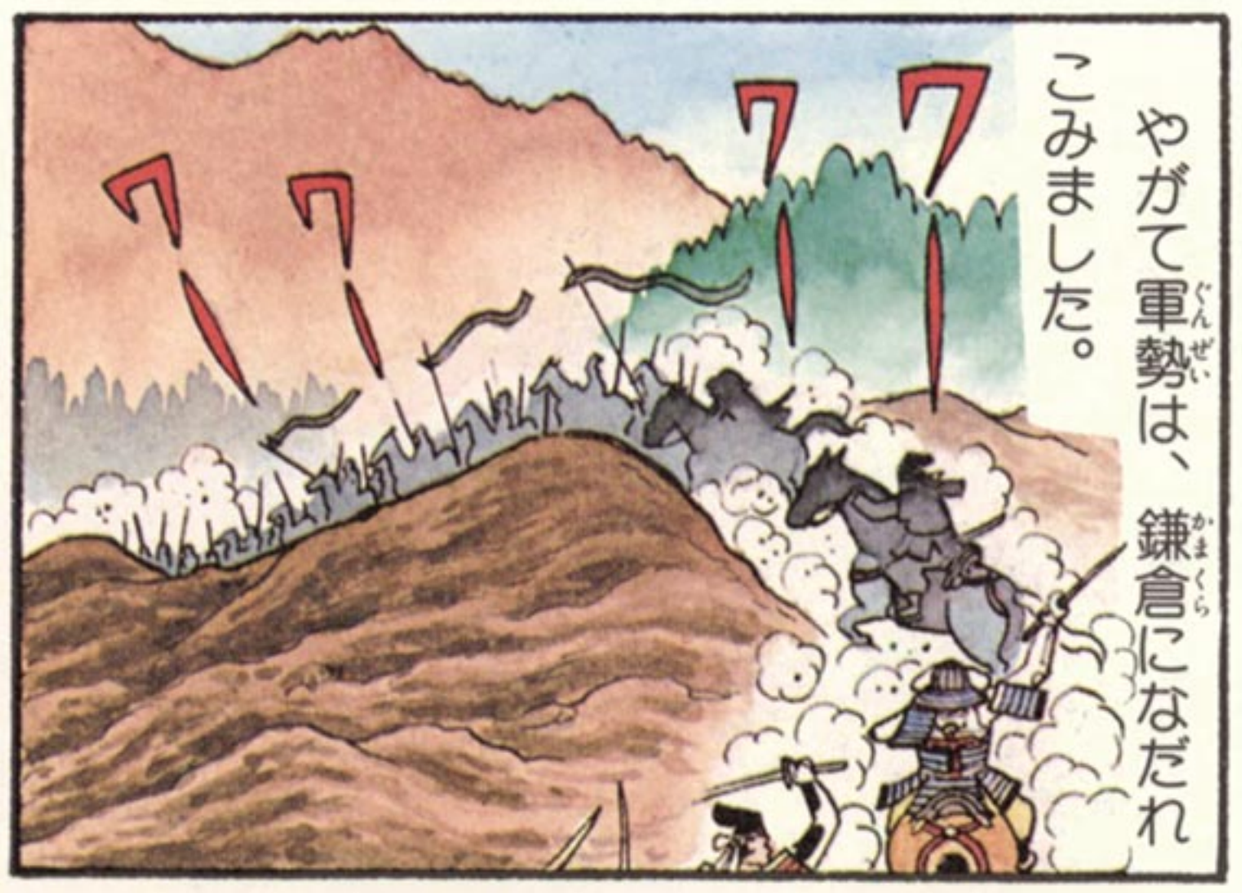
*管領…室町幕府の重要な職名。将軍をたすけて政治を行った。

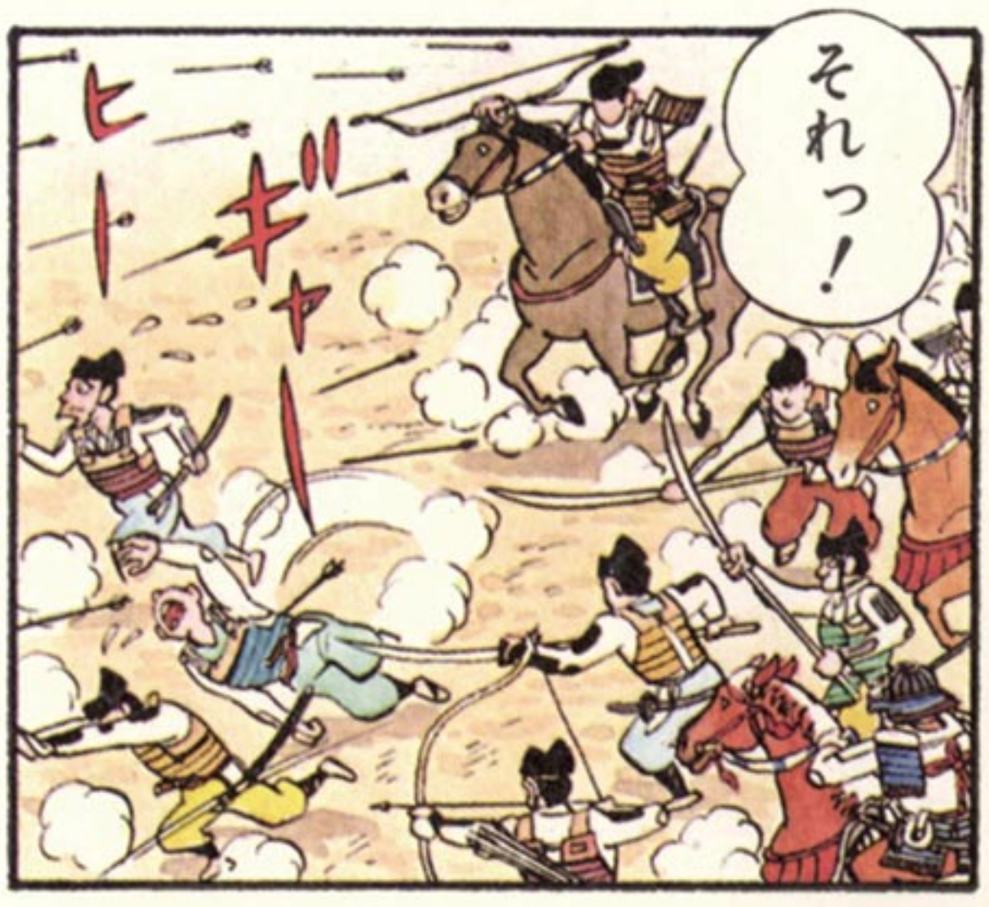
*相国寺…京都府京都市上京区にある禅宗の寺。

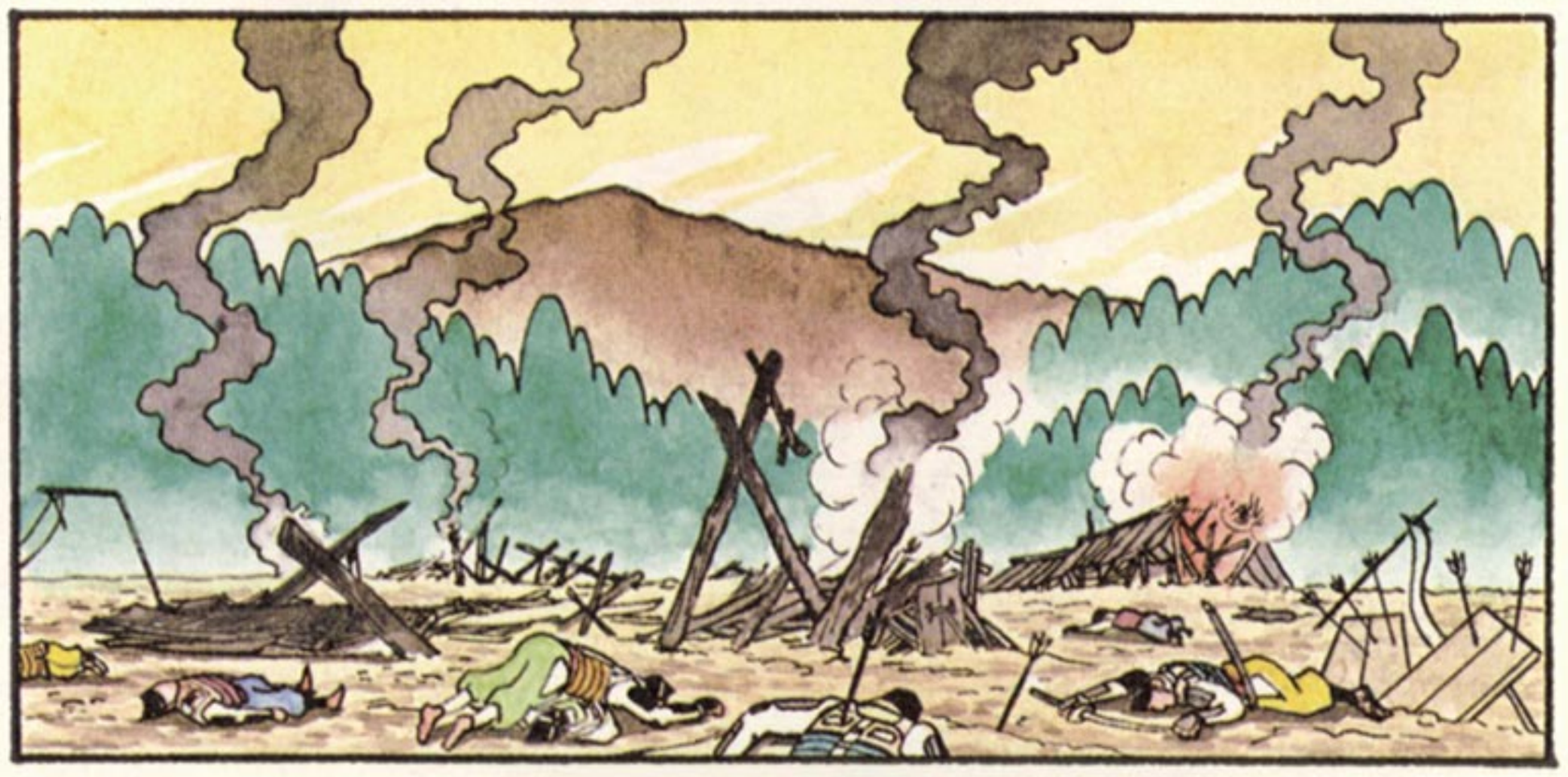
*駿河…静岡県中央部

*守護…諸国におかれ、刑罰や軍事をうけもつ役職。

*越後…佐渡をのぞく新潟県。







この戦いで義嗣はとらえられ、氏憲（禅秀）と満隆は敗死しました。これを「上杉禅秀の乱」といいます。この後、足利持氏と上杉憲基は、それぞれ鎌倉公方と関東管領にもどりました。

義持は、弟の義嗣をころし、義嗣に味方した者たちをも処罰しました。

ゴオゴゴ

一四二二年、義持は、北山山荘をとりこわすよう命じました。

ゆっくりたおせよおっ。

ベリリ

ソーレ ソーレ

まったく、むだなことをするもんだ。

エーンヤコーラ

せっかく何年もかけてつくったものを……。

義満さまや義嗣さまにつながる建物だから、お気にめさんのだろう。

わしらがたてた建物なのに……。

去年は各地で大かんばつ。今年はききんの年じゃというに……。

そういえば、近ごろ、都に地方からながれてくる者がふえた……。

都へ来たとて、食えるわけでもないのにな……。

京をめざす難民たちは――

おなかがすいたよう。

がまんしなさい。もうすぐ都だよ。

都につきさえすれば、なんとかなる。

ソロ

ソロ

ソロ

ついたぞ!!

キョロキョロ

あんた、どうしよう。

……。

あそこへ行ってみよう!

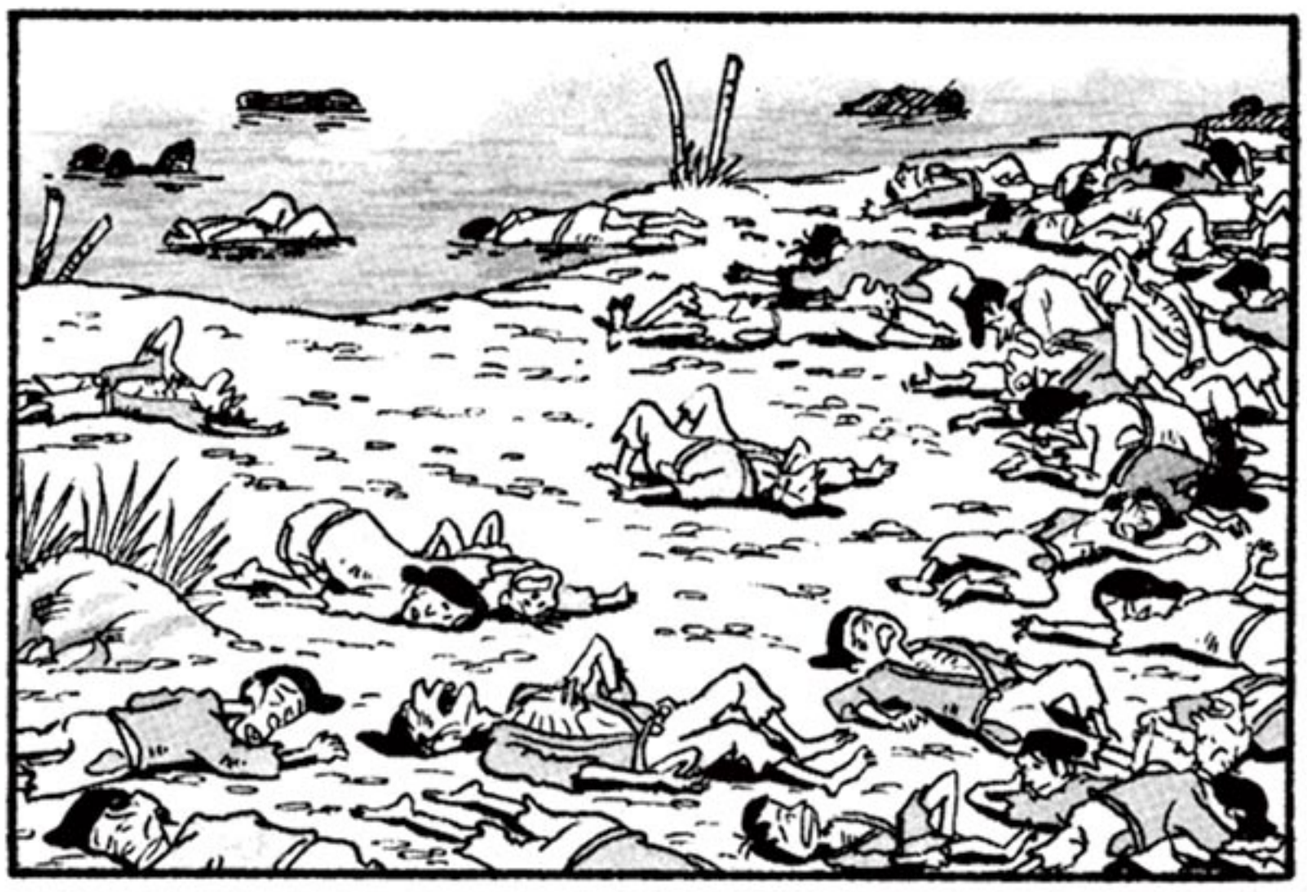
*五条の河原…京をながれる鴨川の河原で、今の松原橋、五条大橋がかかっているあたり。

*丹波…京都府の中部と兵庫県の東部　*播磨…兵庫県の西南部　*年貢…荘園の持ち主におさめる租税。

この年の夏、鴨川の河原から発生した疫病は、京を中心に大流行し、多くの人が死にました。

ギラギラ…

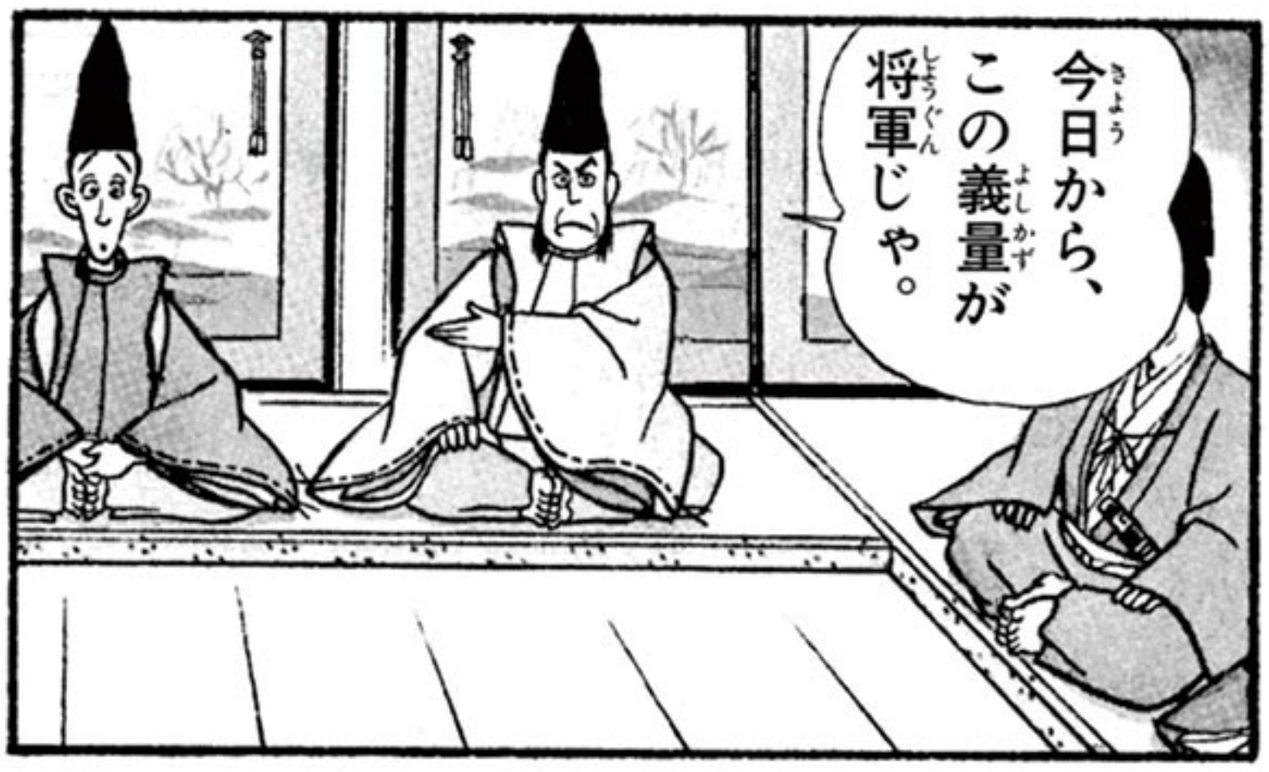
おとう！わあん。



こうした情勢のなかで、将軍義持は、しだいに政治にたいする情熱をうしなっていきました。

一四二三年三月、義持は、むすこ義量に将軍職をゆずりました。

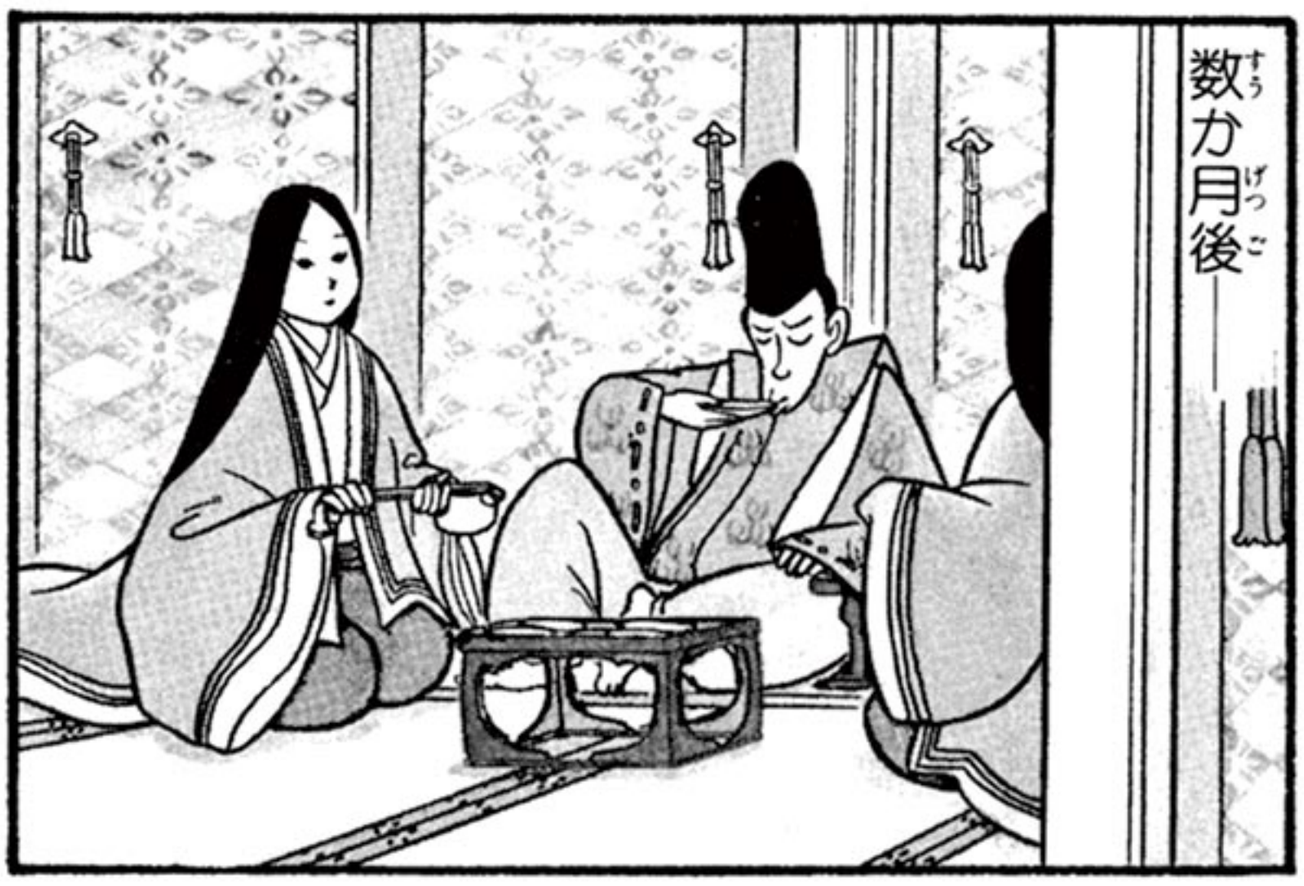
今日から、この義量が将軍じゃ。



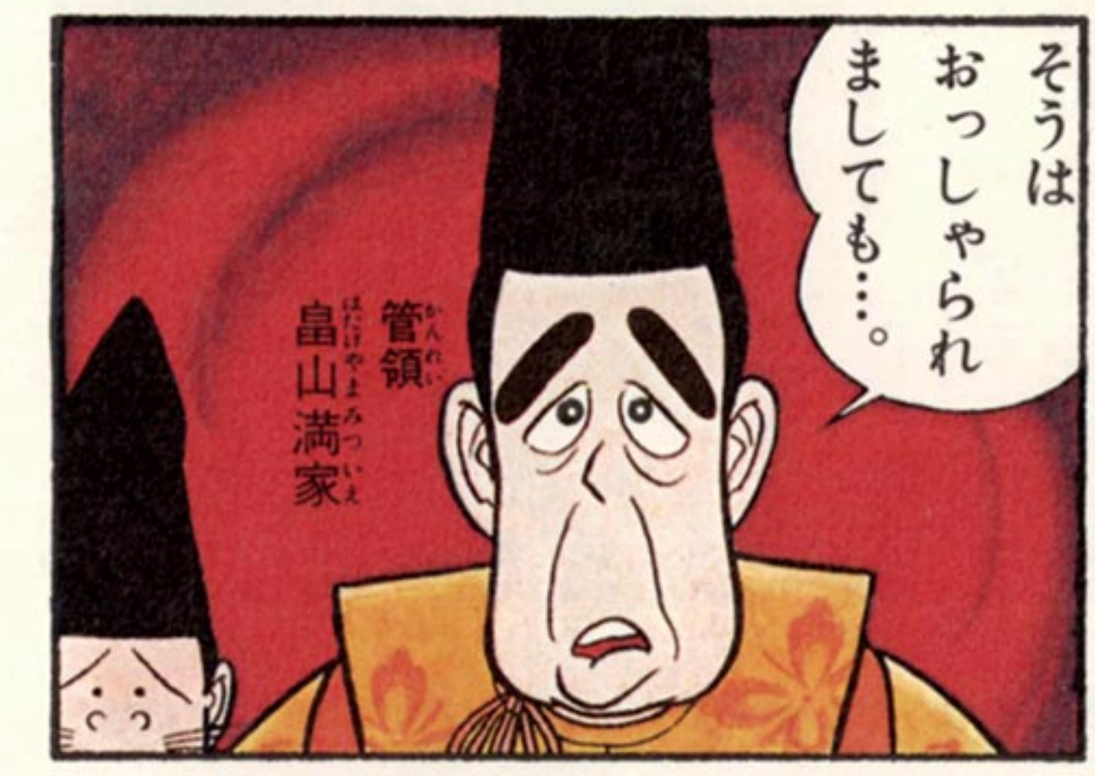
だいじょうぶかな……、あんなたよりないので!?

しっ！われわれが話し合って、やりたいようにやろうぞ。

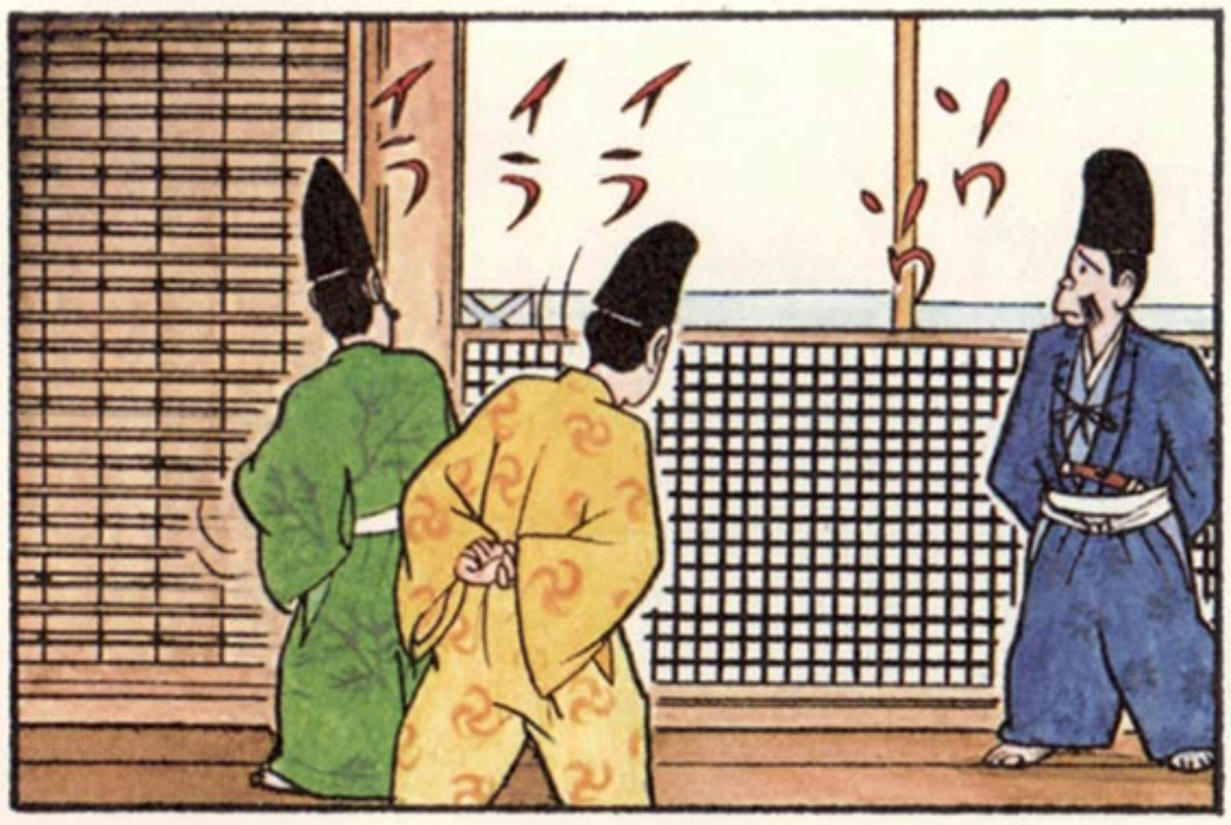
……。



*等持院…京都府京都市北区にある禅宗の寺。尊氏以来、代だい足利氏の墓所となる。



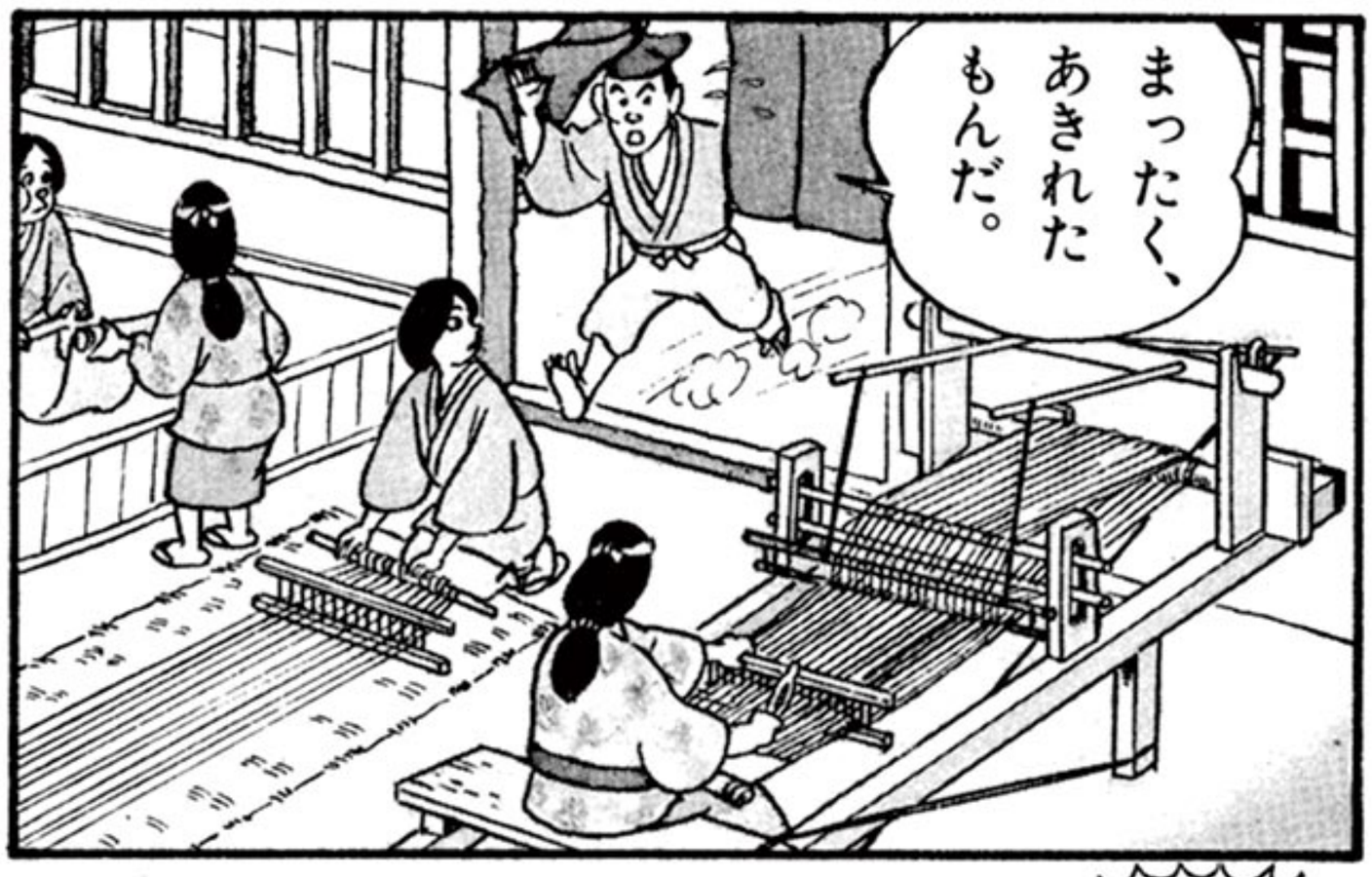
この後数年間、義持はだれも将軍につけようとしませんでした。そうこうしているうちに、一四二八年一月、義持は急に病気になり、重体となってしまいました。

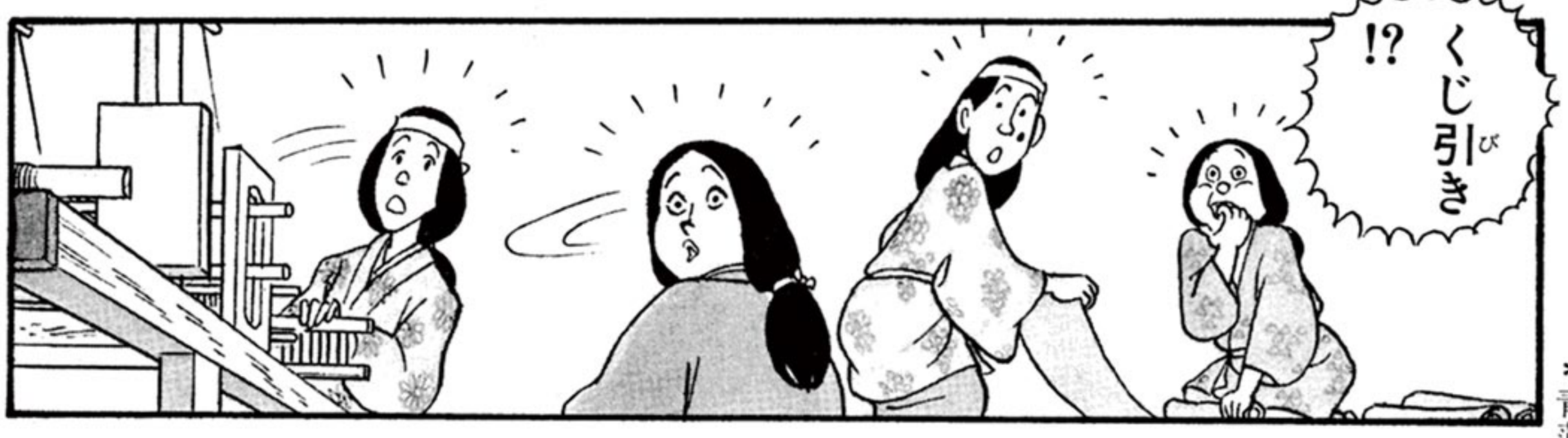


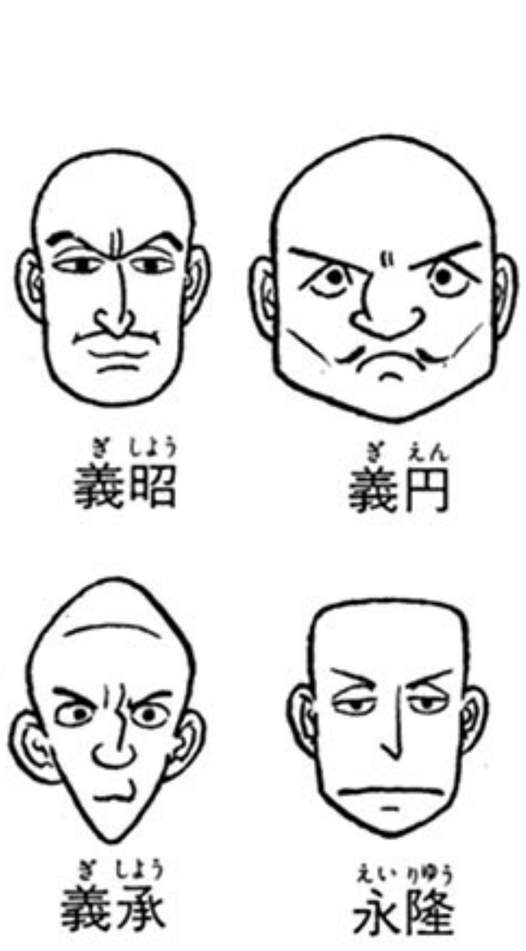
*守護大名…守護の役職を利用して力をつけ、その土地の支配者になった武士のこと。*満済…醍醐寺の最高職で、義持の側近の一人。

翌日、義持はなくなりました。四十三歳でした。

おおいっ、聞いたか！聞いたか！

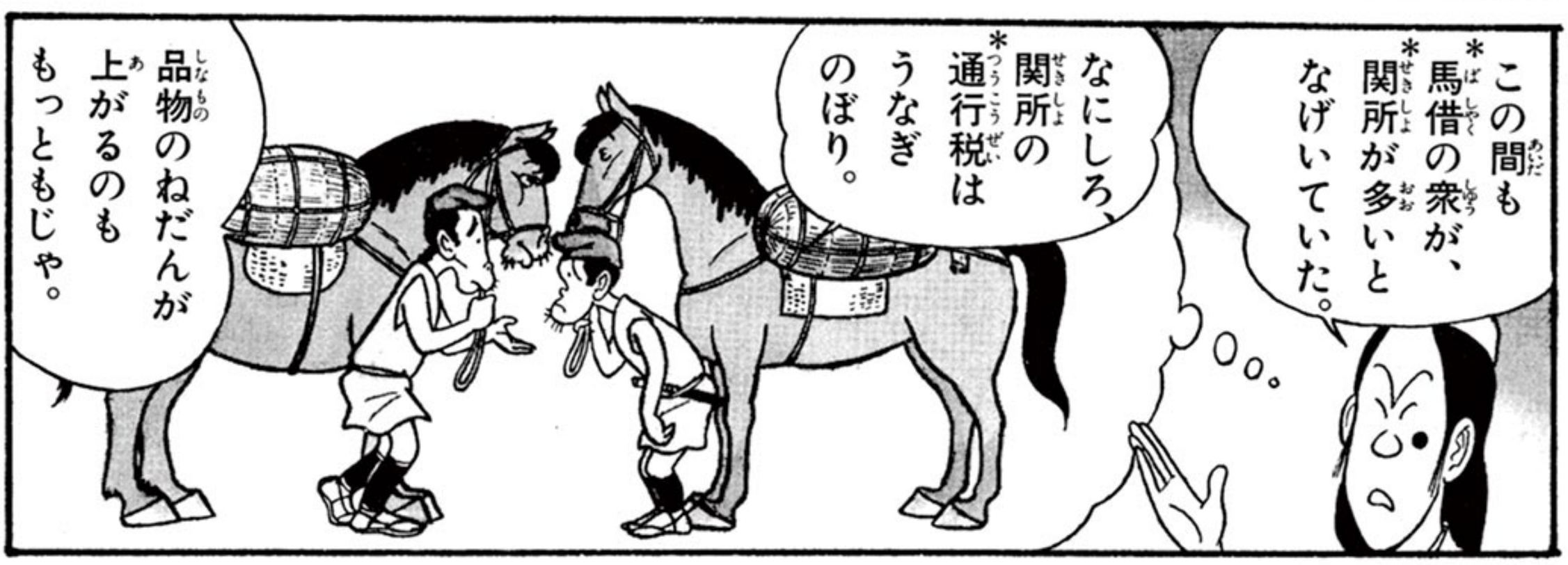






将軍候補は次の四人

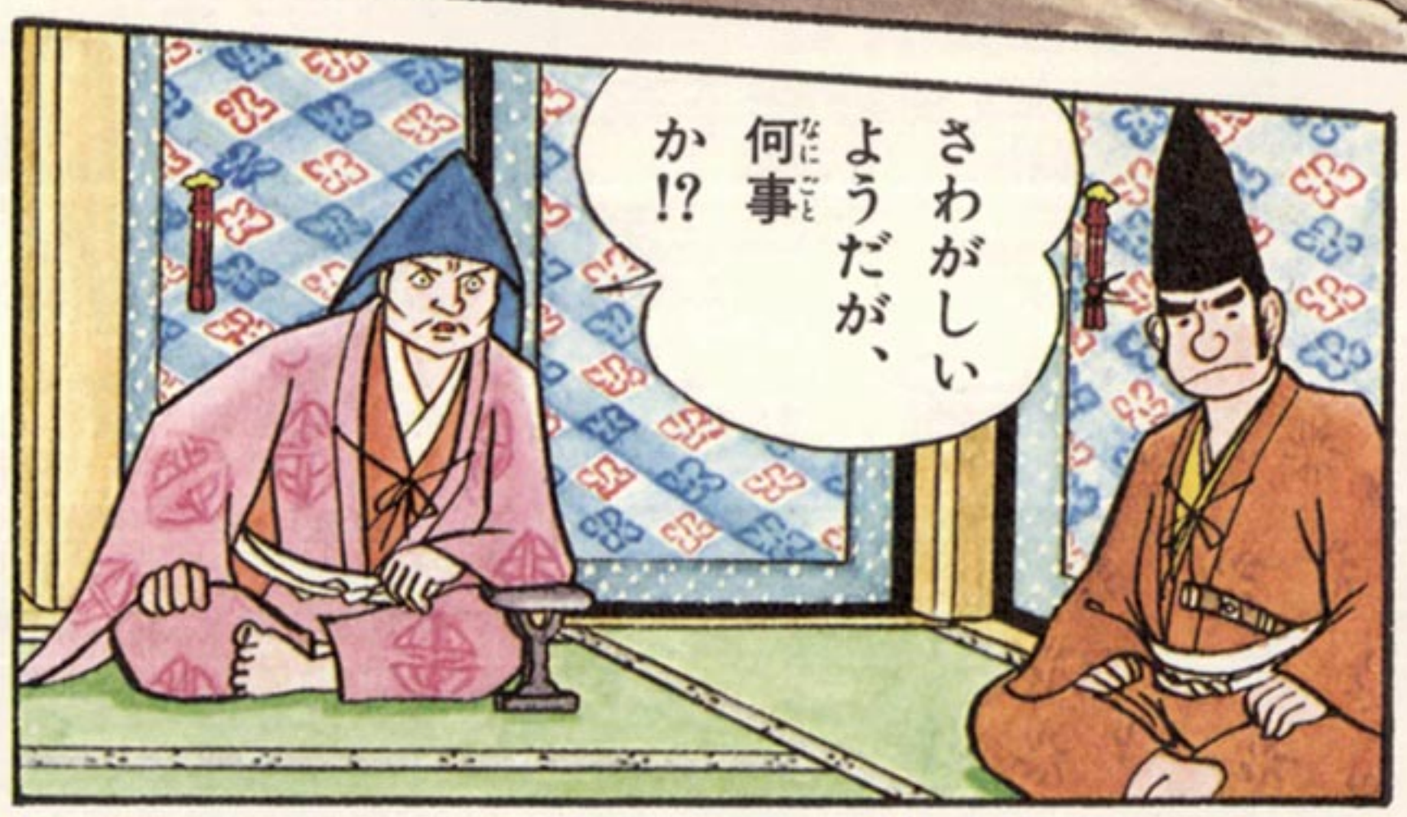
*青蓮院…京都府京都市東山区にある天台宗の寺。



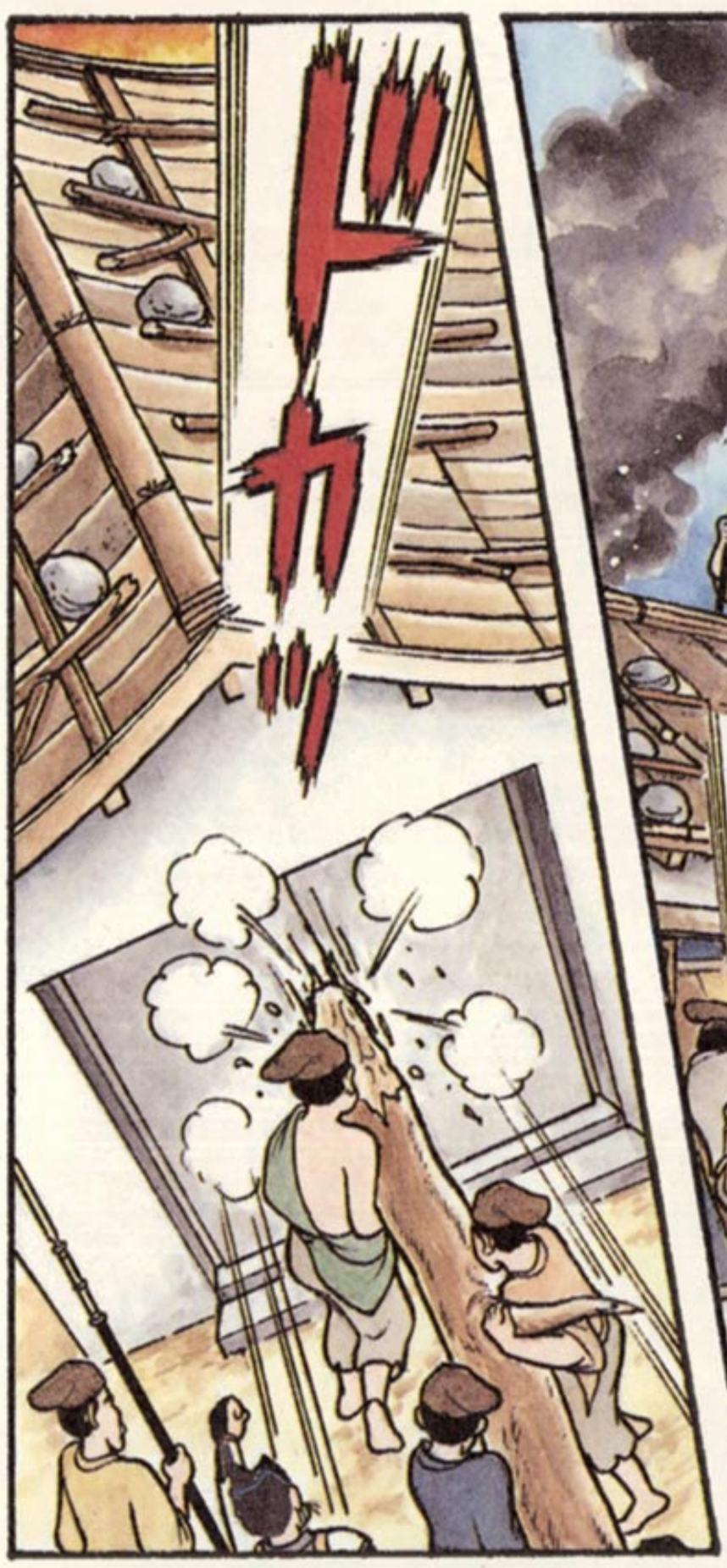
*馬借…馬で品物をはこぶ仕事をした人びと。

*関所…交通の要所において、通行者をしらべたり、通行税をとりたてたりした役所。 *通行税…関所などを通行する人からとりたてる税。

こうして義円は、*還俗して義宣（後に義教）と名のりました。



*還俗…僧や尼が俗人（普通の人）にもどること。　*一揆…領主に不満をもつ農民や武士などがおこす暴動。



*洛中…京の町中。町の外は洛外といった。*徳政…お金や土地などの貸し借りをなかったことにせよという幕府の命令。

*土倉…高利貸しをする者。品物を入れる土蔵をたてたのでこうよばれた。*土一揆…農民が中心となっておこした一揆のこと。

借金の証文など、もやしてしまえ！

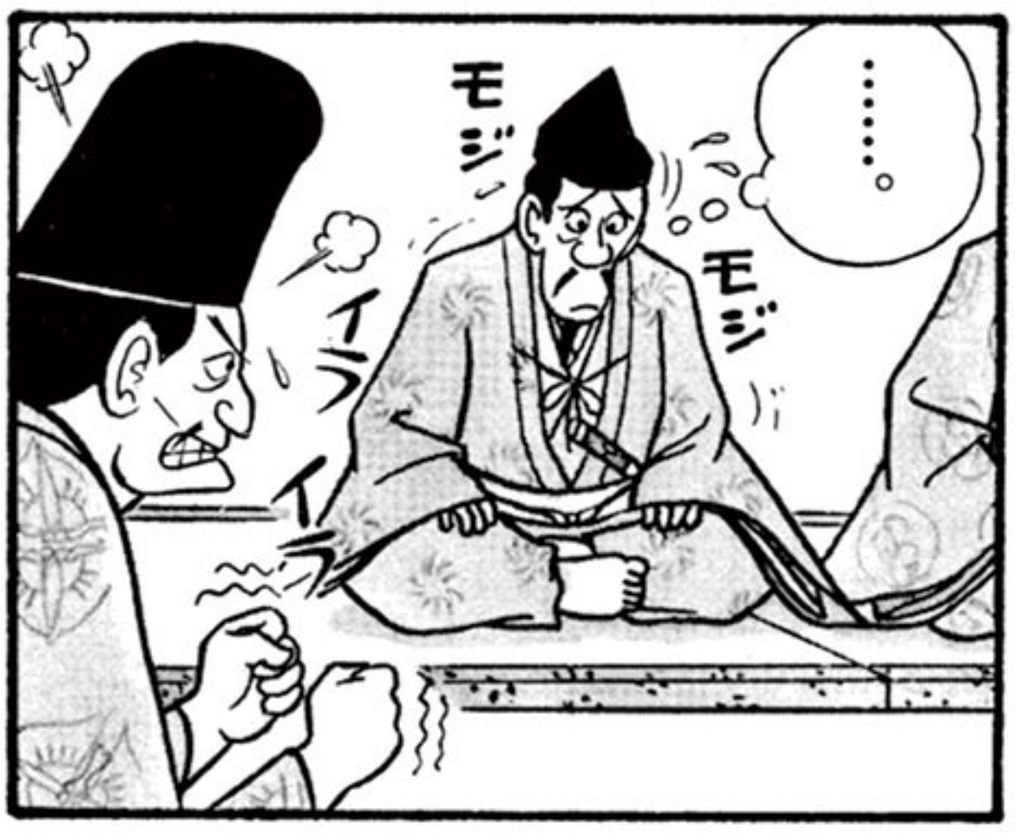
お、酒だ。もったいない。
ヒック
ガシャ

一揆は三か月後、下火になりましたが、一揆の余波は京の周辺の土地に飛び火しました。
ワー
ワー
ワー
くわしくは、第二章を見てね。

還俗したそうそう、ついてないわ。

翌年、義円は将軍となり義教と名のりました。その翌年。

鎌倉の持氏めは、未だにわたしのことを還俗将軍とよんで、ばかにしておるというではないか！


……。
モジ
モジ
イラ
イラ

すぐに軍をむけて、せめほろぼしてしまえ！

おまちください。今、関東と事をおこせば、国中がみだれてたいへんなことになります。

かならずや、持氏どのをしたがわせてみせます。

われらにおまかせください。

どいつもこいつも、わたしをみくびりおって…。

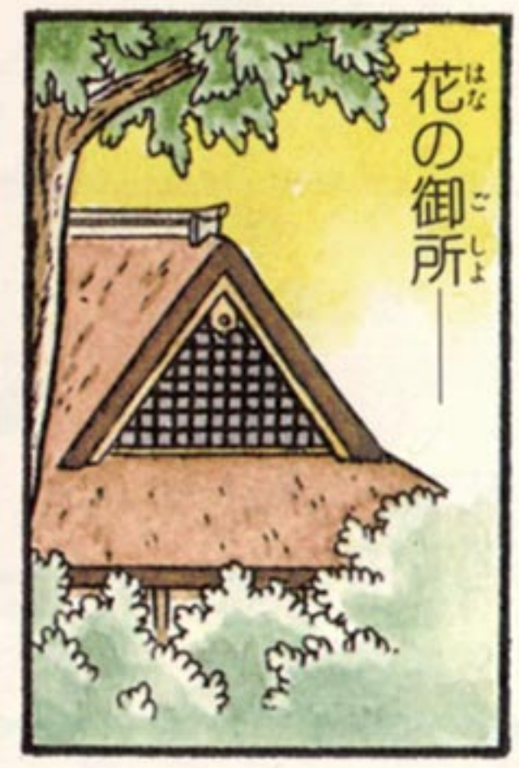
一四三二年、夏――

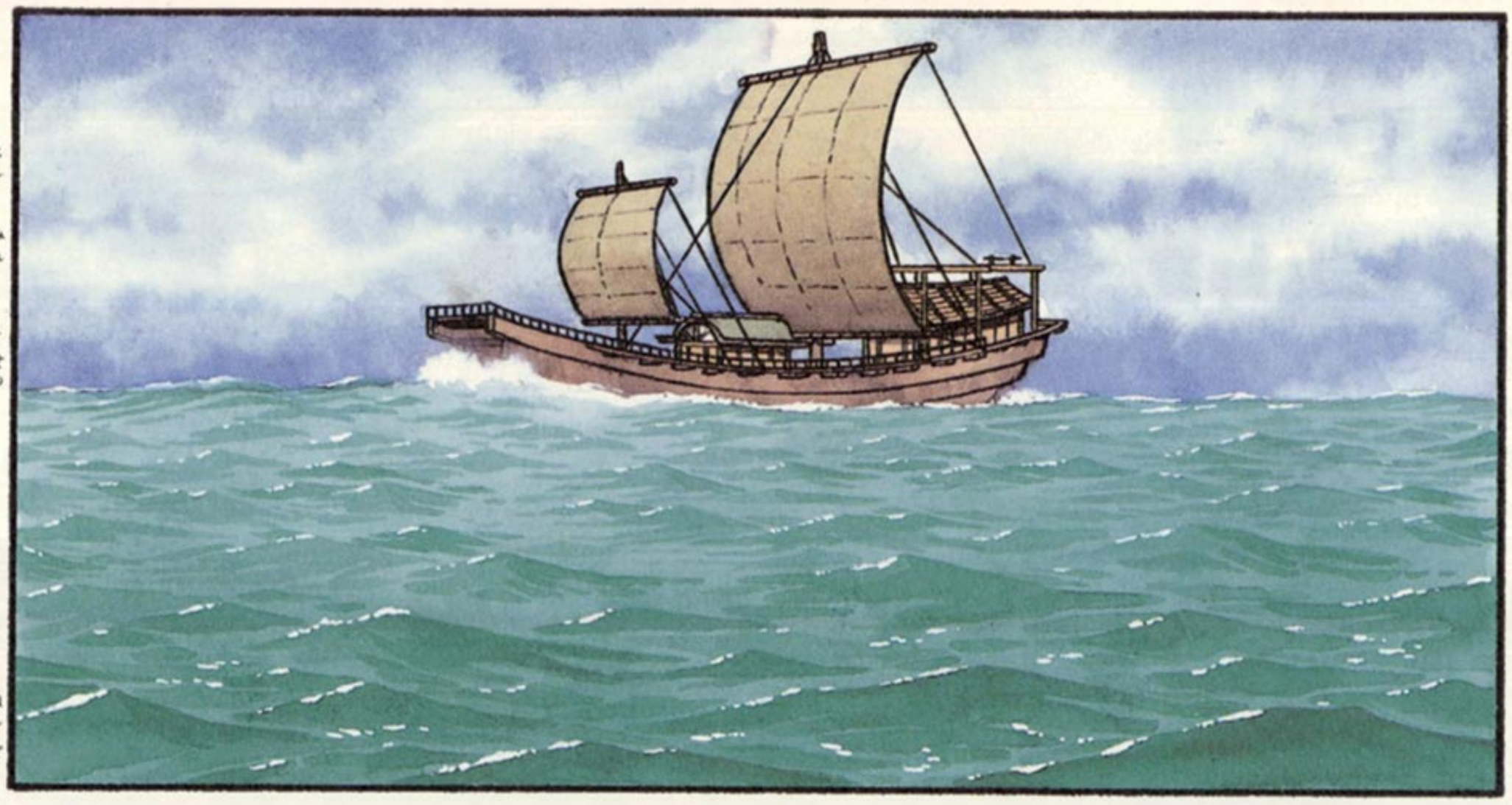
どっこいしょ！

あんた、船乗りかね？

……。

明との貿易がとだえてから、あんたら仕事がなくておこまりじゃろう。





この年、明に使節がおくられ、二年後に*勘合貿易が再開されることになります。

*倭寇…朝鮮半島や中国沿岸をおそった日本の海賊のこと。*勘合貿易…日明貿易。その船が正式なものであることをしめす勘合符をつかった。

一四三三年九月——

先月は、とつぜん*遣明船を見たいからと*兵庫へ行かれ…、

今度は、富士の遊覧じゃと…。

気まぐれな将軍さまじゃ。

しかし、義教のこの旅行のほんとうの目的は、鎌倉府の動きをさぐるとともに、諸国に将軍の権威をしめそうとしたものでした。

駿河の*三保松原——

ワッハハハ

＊遣明船…室町幕府が明との貿易につかった船。勘合船ともいう。

＊兵庫…兵庫県神戸市。今日の神戸港の西側付近にあった港。

＊三保松原…静岡県静岡市清水区。三保半島の海岸砂丘の浜。美しい松林で有名。

ここから見た富士山は、いちだんとすばらしい。

お気にめされて、ありがたき幸せ。

鎌倉の持氏は、あいさつに来る様子か？

いえ…。病気を理由に辞退してきました。

持氏どののの御家来衆も、だれ一人駿河にはまいりません。

……。

あやつめ、……ゆるせぬ。

鎌倉公方 足利持氏

行くもんか、へん…。

関東管領 上杉憲実

こまったおかたじゃ……。

それから数年をへて、一四三八年六月——

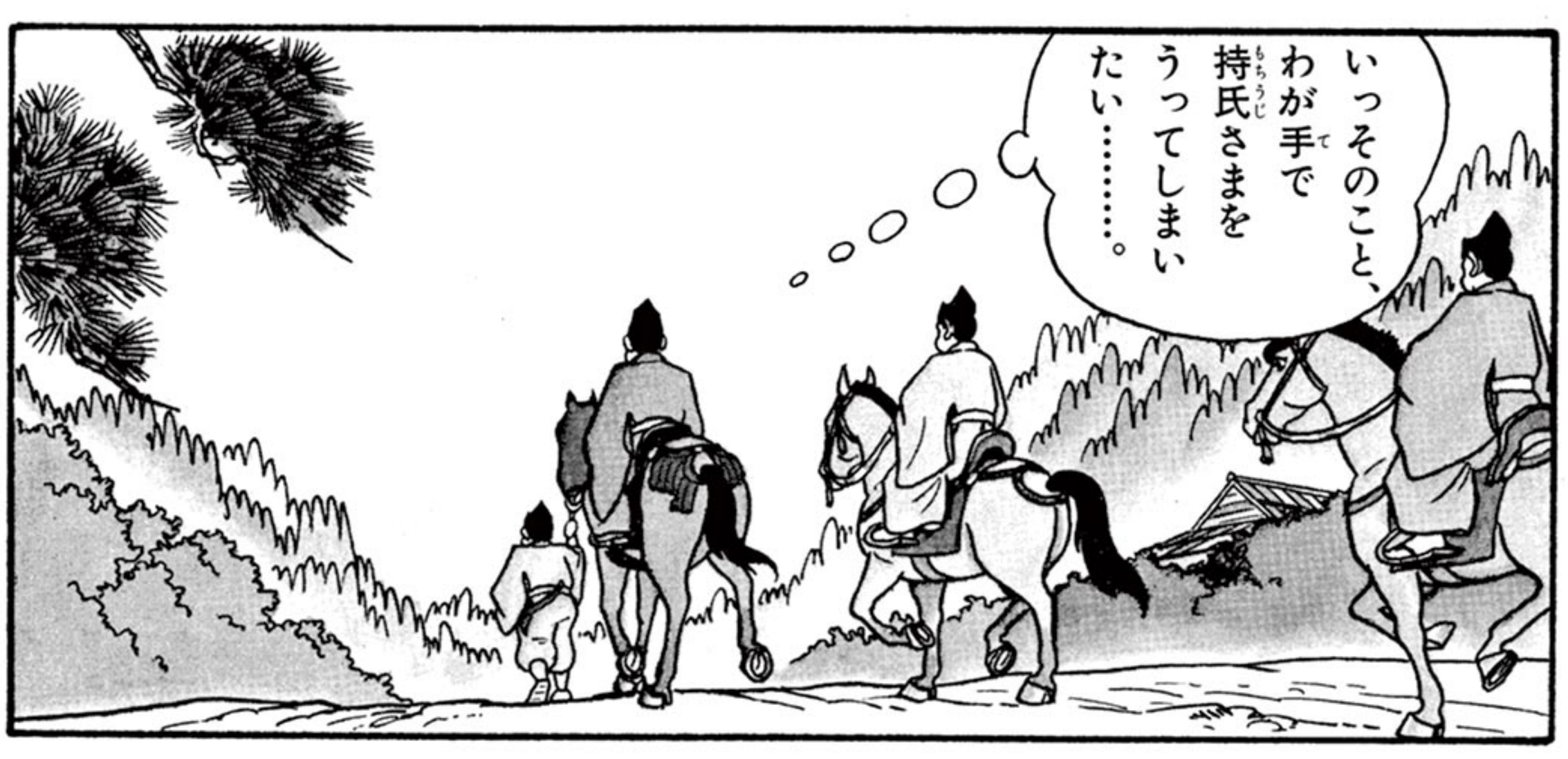
鎌倉公方邸——

そなたも、もうすぐ*元服じゃ。

はい。

賢王丸

*元服…男子の成人式のこと。加冠ともいう。



*加冠の儀…男子が成人になったしるしに、はじめてかみをゆい、冠をかぶり、名前をあらためる儀式。

京の花の御所では――

なに!? 憲実が持氏とけんかして、鎌倉をはなれたと。

はい、鎌倉をせめるなら、今が絶好の機会かと…。

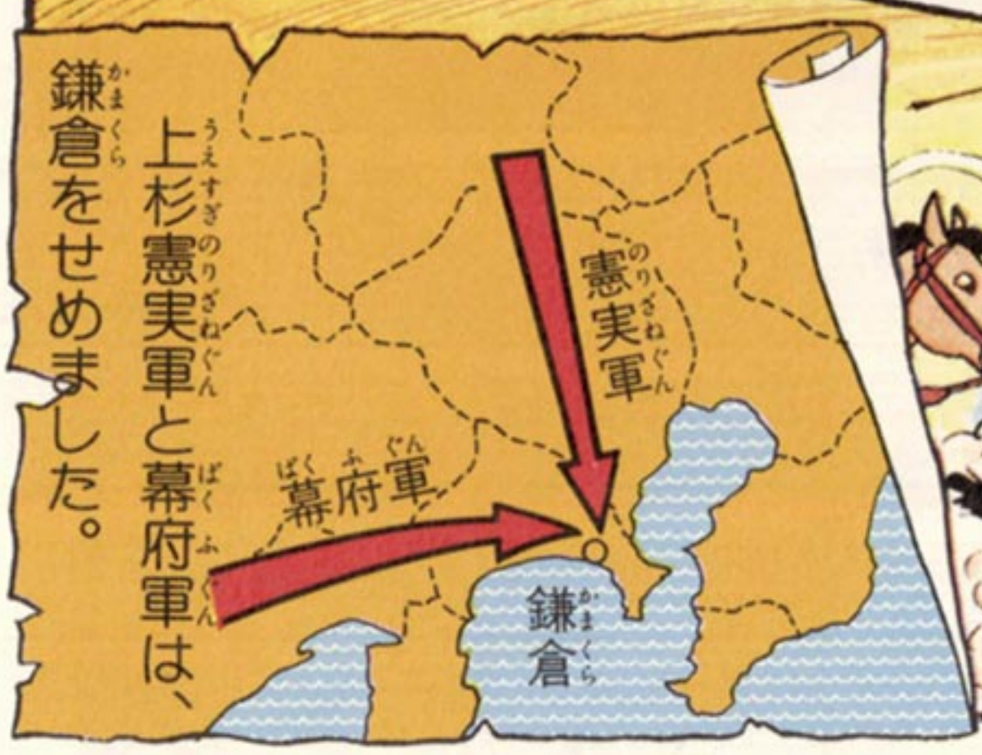
よし!

一方、*上野へ帰った上杉憲実の屋敷では――

京の将軍が兵をおこしたか……。

こうなれば、わたしも決心して、持氏さまをせめよう!

上杉憲実軍と幕府軍は、鎌倉をせめました。



一四三九年二月、義教の命令で、持氏と義久（賢王丸）はやむなく自害し、あとにのこされた持氏の子春王丸と安王丸は、*下総にのがれました。この戦いを「永享の乱」といいます。この乱によって、義教は、いちおう関東の地を手に入れることになりました。

*上野…群馬県　*下総…千葉県の北部と茨城県の一部

翌年の三月、下総国の結城氏朝の屋敷―

よくぞ、おちのびていらっしゃいました。

この氏朝が、あなたさまがたをおまもりいたします。

そちだけがたよりじゃ。

春王丸

安王丸

ははっ。

佐竹、宇都宮ほか、関東一円のおもだった武将が味方につくとのこと…。

かならず、義教めをこらしめてやりまする。

やがて四月、春王丸らをおしたてる結城氏朝らの軍勢と、幕府軍との間に戦いの火の手があがりました。

戦いは、城にたてこもる結城軍の抵抗で、一年あまりつづきましたが、ついに落城し、春王丸や安王丸はとらえられてしまいました。この戦いを「結城合戦」といいます。

*輿…やかたの中に人をのせ、かついだり、さげたりした乗り物。

かわいそうに……。

おそろしい将軍さまじゃ。

義教は、歴代の室町将軍の中で、もっともきびしかった人です。そむく者や罪人などを、ようしゃなくころしました。

きびしい弾圧のため、*延暦寺の僧たちは、*根本中堂に火をつけて多数自殺しました。

公家にも、弾圧的な態度でのぞんだり……。

わしにさからう者はようしゃはせぬ!!

その直後、延暦寺炎上のことをうわさした庶民をとらえ、ころしました。

守護大名のあとつぎの問題に口を出して、自分のこのむ近臣をあとつぎにしたり……。

ストン

気に入らぬ守護大名をころし、領地をとりあげたり……。

義教は、こうした恐怖政治によって、守護大名たちをしたがわせようとしましたが、かえって孤立していきました。

*延暦寺…滋賀県大津市にある天台宗の総本山。

*根本中堂…延暦寺の本堂。

一四四一年六月、播磨の守護、赤松満祐の京の屋敷――

ポタン
ポタン

ポタン
ポタン

今度ねらわれるのは、わたしの領地だ…。

一か月前も、陣中で二人の有力守護がころされた。

ポタン
ポタン

赤松満祐

今度こそ、わたしだ……。

ポタン

だまってほろぼされるくらいなら、思いきって将軍のお命を……。

ポタ

この役目むすこの教康に……。

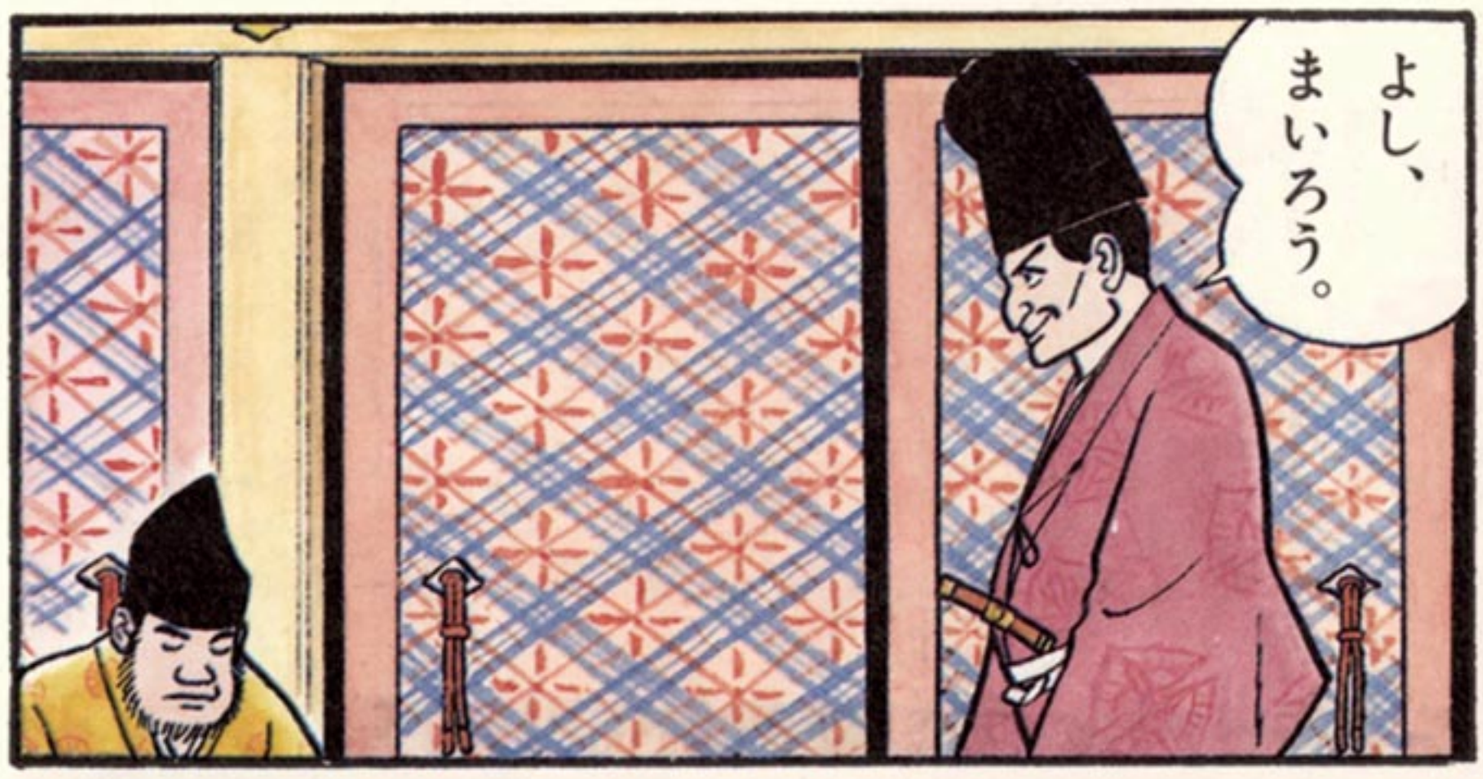
花の御所――

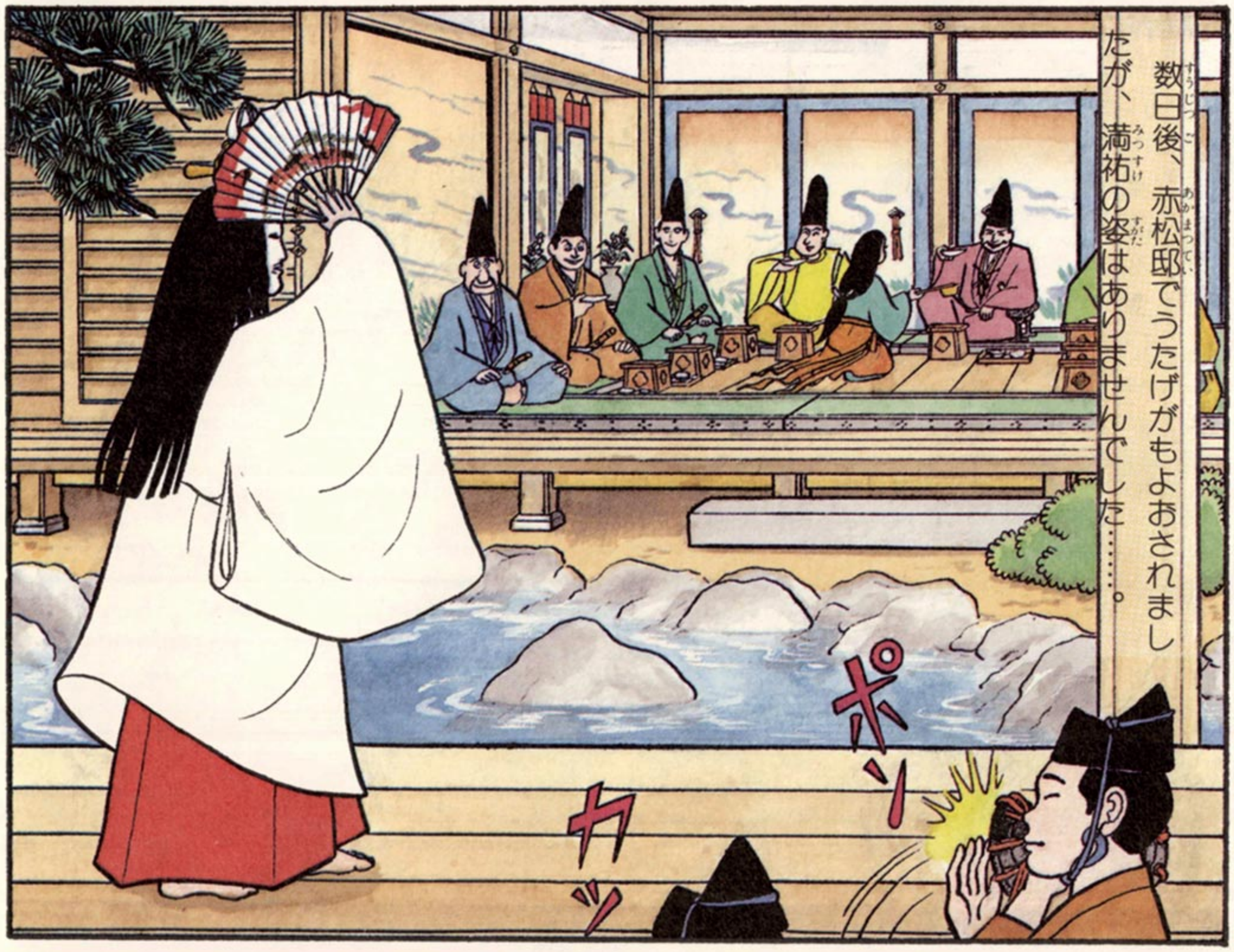
赤松どのが、自宅で結城合戦の勝利をいわう宴会をもよおすそうです。

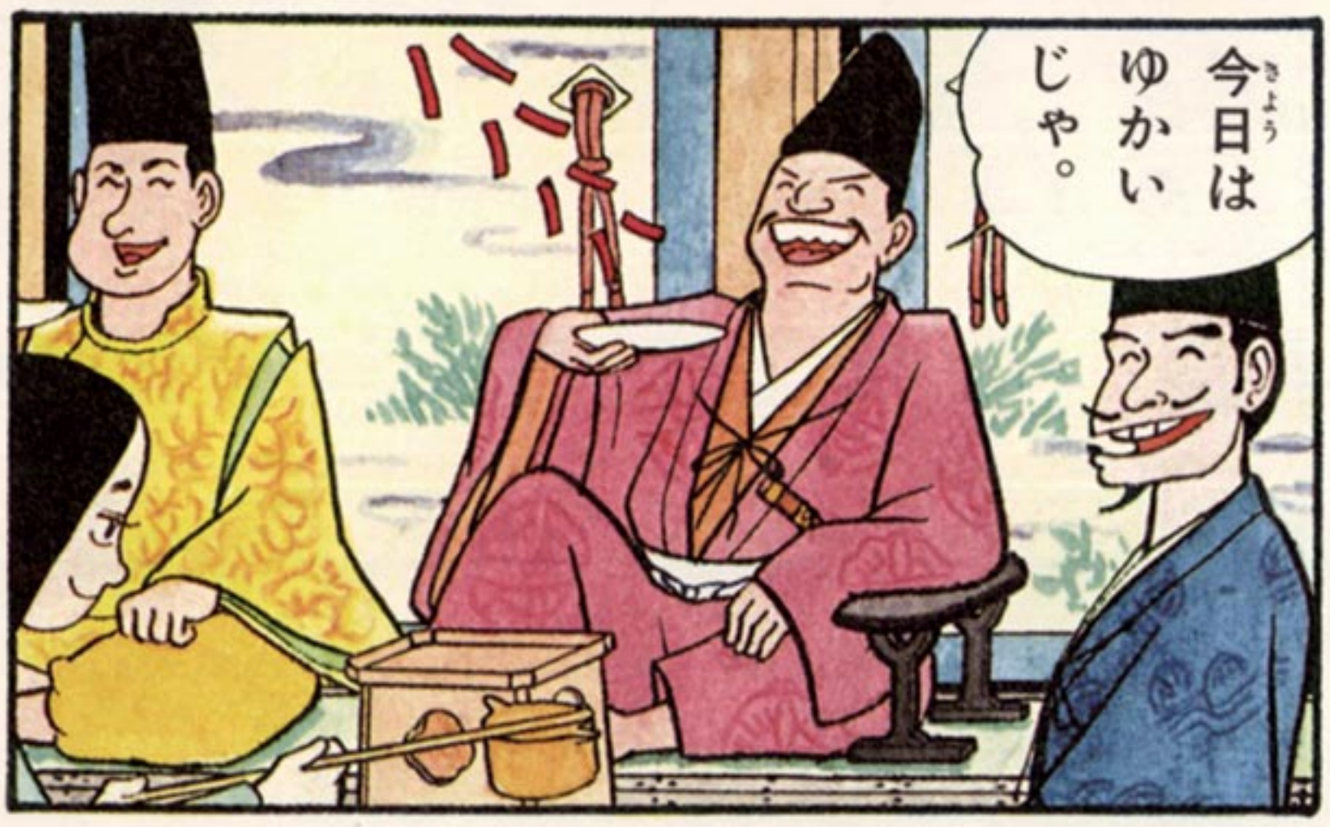
それで？

ぜひ、義教さまをおまねきしたいといってきています。

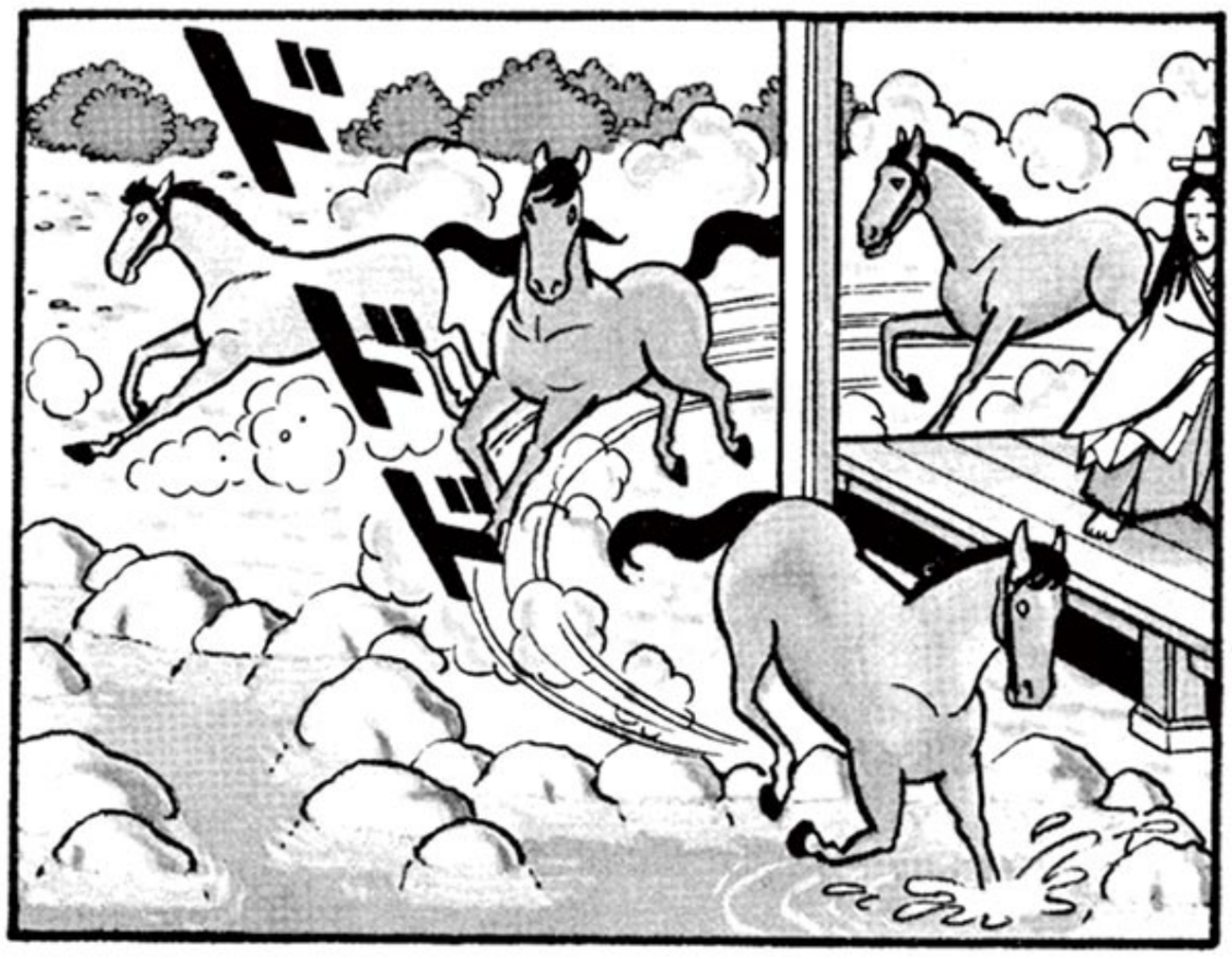
満祐め、わたしをおそれて下手に出てきおった。
ニヤリ


よし、まいろう。


数日後、赤松邸でうたげがもよおされましたが、満祐の姿はありませんでした……。
ポン
カッ


今日はゆかいじゃ。

赤松教康



こうして、将軍義教はころされてしまいました。この事件を「嘉吉の乱」といいます。

義満が死んで以来、義持・義量・義教とつづいた足利将軍家も、守護大名が台頭するなかで大きくゆれうごき、ついに将軍が守護大名の一人に暗殺されるという異常なできごとがおこりました。

この事件（嘉吉の乱）は、将軍家の権威が、このころにはすっかり地におちてしまったことをしめしています。

このころはまた、たびかさなるききんや重い税のため、民衆が苦しい生活をしいられた時代でもあります。中央の政治がゆれうごくたびに、彼らはまずしさのなかから立ちあがって、幕府や大名たちにたくましく対抗していきます。

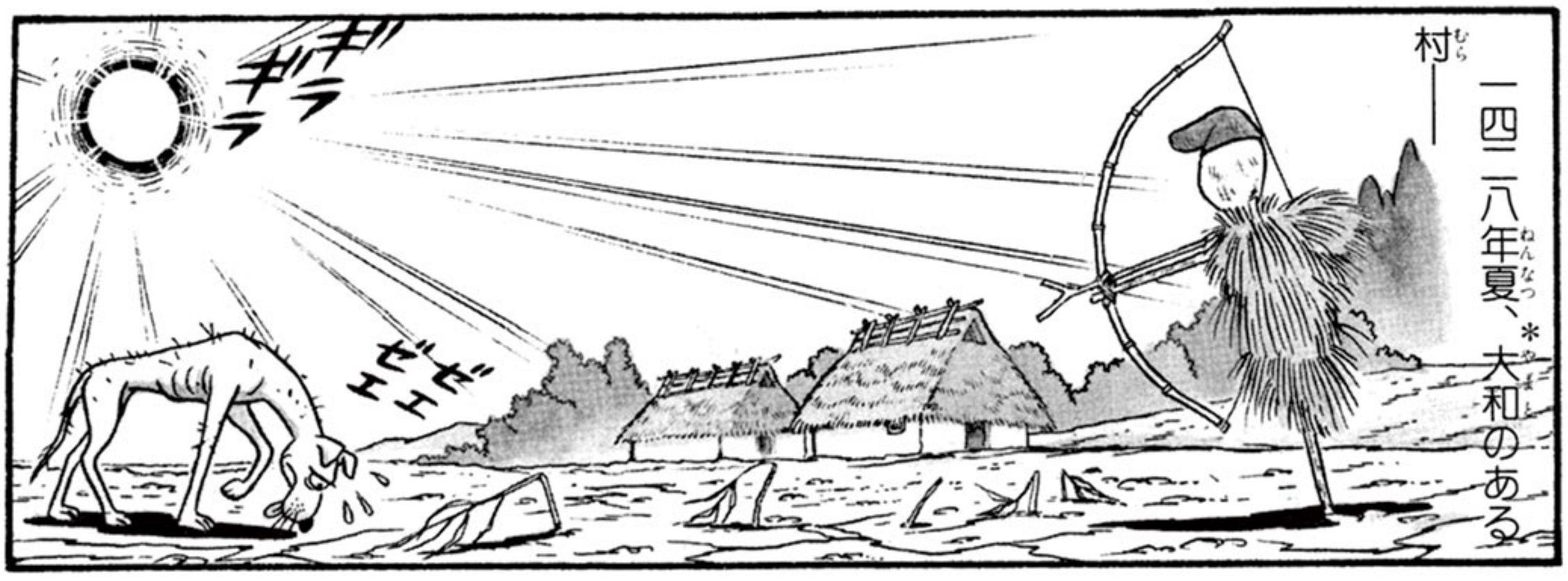
次の章では、こうした民衆の力がはじめて天下にしめされた「正長の土一揆」で、農民や馬借たちがたたかった様子を見てみましょう。時代は、義教が将軍にえらばれた一四二八年にさかのぼります。

小学館 eBooks

第二章

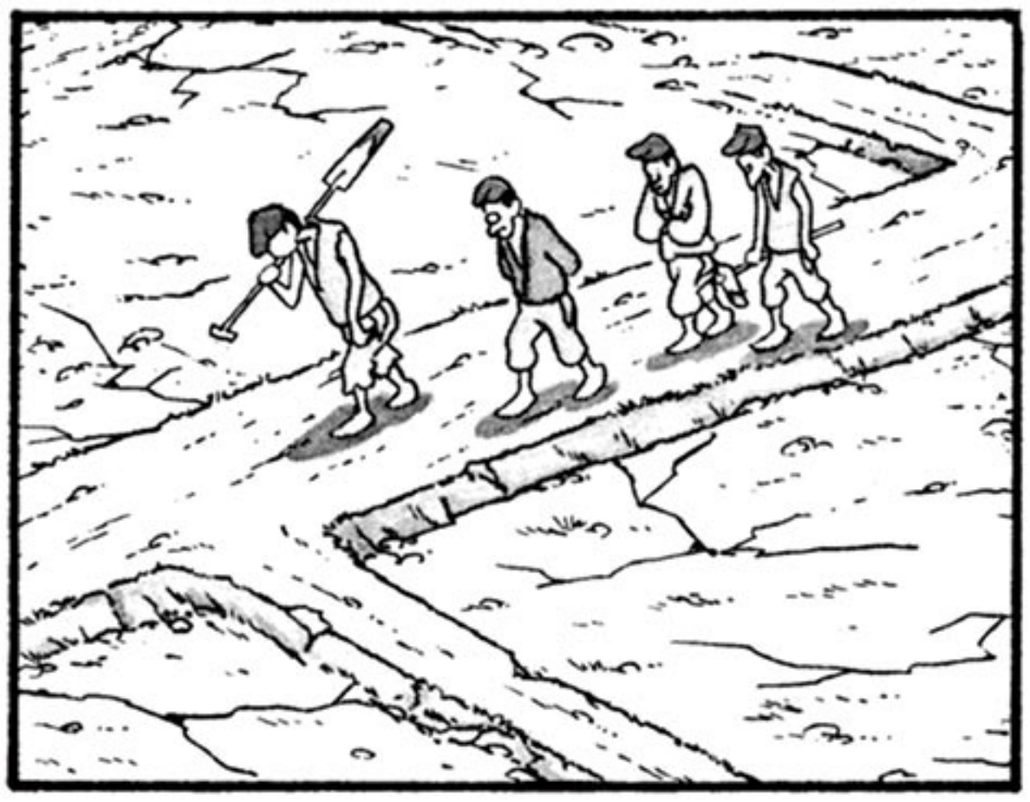
土一揆と民衆

――室町時代後期――


一四二八年夏、*大和のある村――
ギラギラ
ゼゼエエ

*大和…奈良県

この夏だけで、何人死んだかなあ。
五人、いや六人だ。



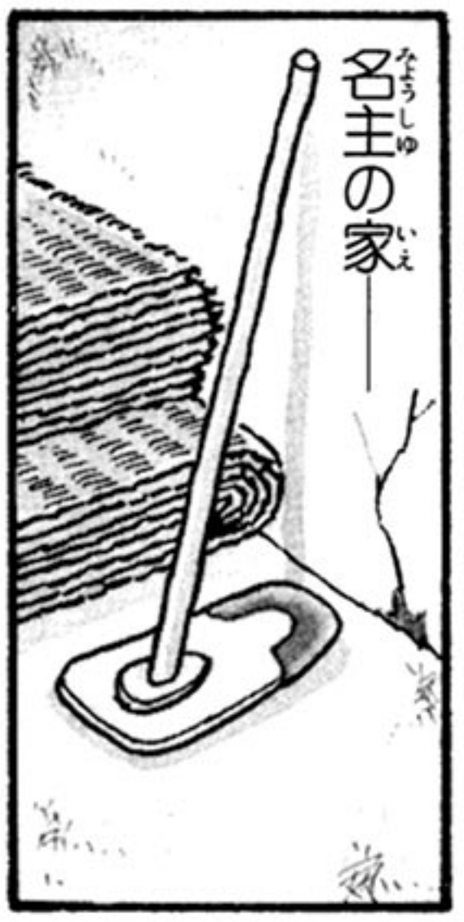
作物はほとんど全滅。食うものといえば、木の根や草の実……。
それも、もうなくなってしまった。

去年から何度も大雨にたたられて、今度は日照り…。

*名主…荘園領主のもとで土地（名田）をもち、年貢などを負担した力のある農民。

*質草…質入れする品物。

*鎮守…その土地をしずめ、まもる神。



いっそ、村をすてて、どこかへにげよう。

どこもききんで、よそ者の食える所はないぞ。

こうなれば一揆しかない。

そうだ、一揆だ！

一揆だ!!

みなの衆のいうとおりじゃ。このままで死をまつよりは、力を合わせて立ちあがるのだ!!

徳政を要求しよう。

そうだ！

ウオー!!

そうだ！

オオー!!

たいへんだ！おとうっ！

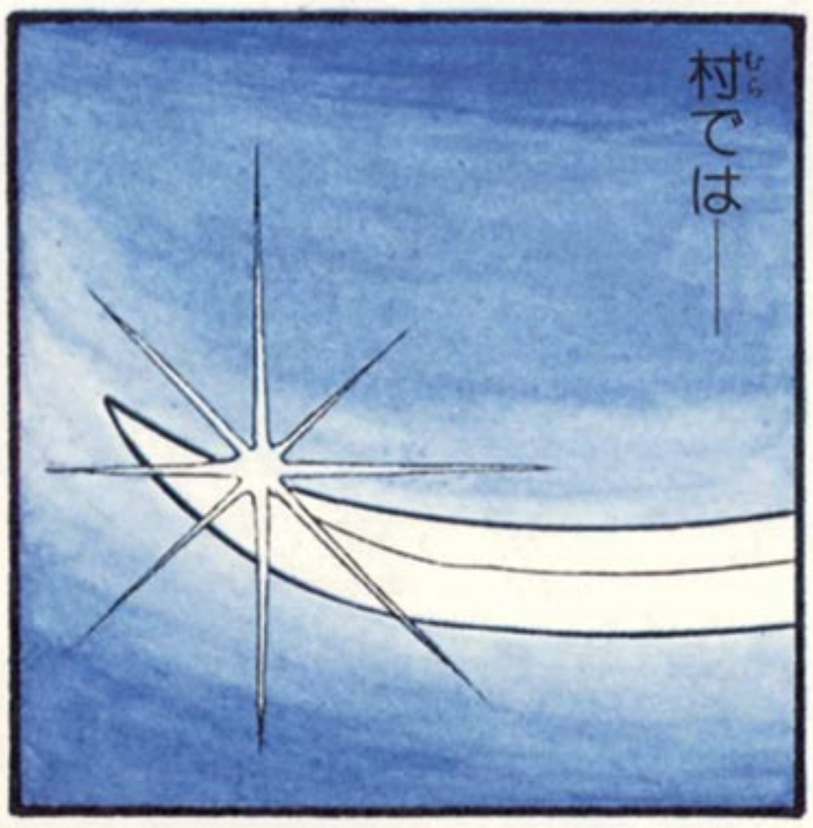
む、村が侍たちにおそわれた。

なに！

女房、子どもがあぶない！

たいへんだ！みんないそげ！

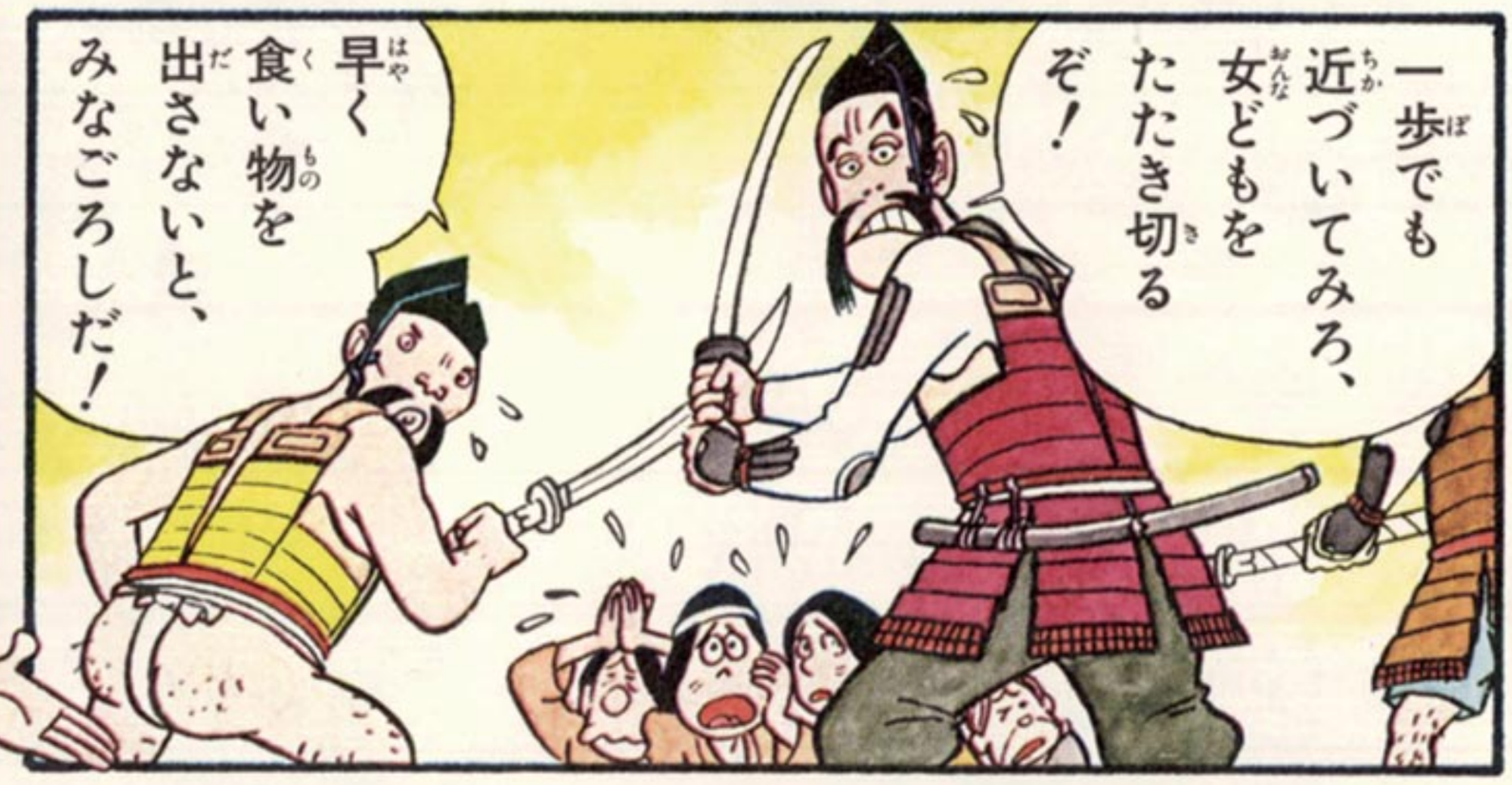
ドドドドドド


村では——

あ、あんた！

米はどこにかくしてある！
何でもいい、食い物を出せ！

この村には、一つぶの米もない。


一歩でも近づいてみろ、女どもをたたき切るぞ！
早く食い物を出さないと、みなごろしだ！

食い物がなくて、何人もがうえ死にした。

うそをつくな！
うそではない。あれを見てくれ。

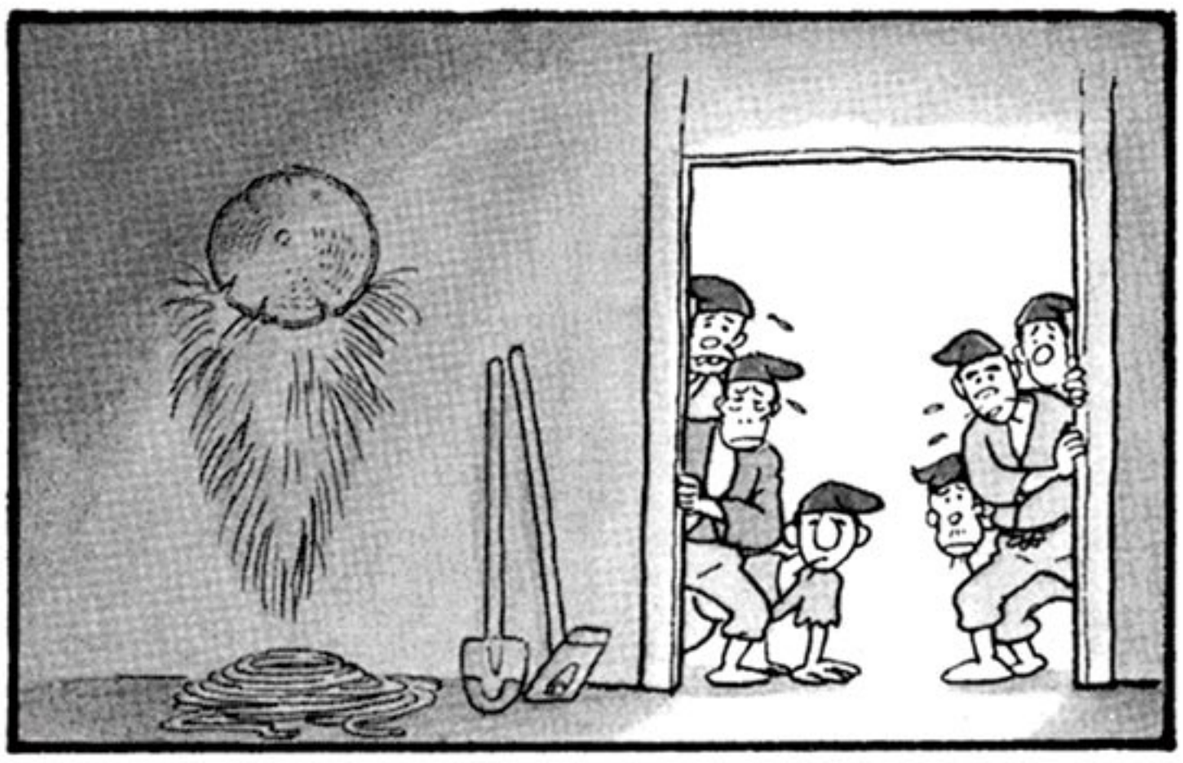
……。
食い物がないなら、村をやきはらって引きあげるまでだ。

おまちください！

お侍さまがたに、ぜひともご相談したいことがございます。
何だ!?
こんな村に用はない。早く火をつけて立ちさろう。

いやまて、話というのを聞こう。

名主の家だよ。



ヒエと雑草の雑すいです。村の長であるわが家でさえ、食べる物といえばこの程度……。

うむ…。

いただきまあす。

みっともない。

がつがつ食うな。

ひさしぶりの食事じゃ。ありがたい。

でも、なんだか変だな。

おれたち盗賊なのに……。

ガツガツ

ズルズル

じつは、わたしたちは今日、一揆の相談をしていたのです。

ブーッ

なにっ!?

あなたがたが今日ここへ来られたのも、何かの縁…。

一揆に加勢せよというのか。

さようで。

あなたがたの生活も、楽ではありますまい。

毎日、食うや食わず。

……。

家では、子どもたちが腹をすかせてまっておる。
借金だらけで、利子をはらうためにまた借金…。

その借金をなくしたいとは思いませんか。
そりゃまあ、借金がなくなりさえすれば…。

ですから、一揆で徳政令を出させるのです。
うむ……。

この村の力だけではだめだ。
近くの村むらとも力を合わせるんだ！

馬借たちの間にも、一揆の動きがあるという。
そのうえ、お侍さまたちがくわわれば、鬼に金棒だ！

そのとおりです。
……。

よおし、わかった。味方しよう。
おお…。

良かった、良かった。
わしらもがんばるぞ！

翌朝

近くの村むらへ使いに行ってくるぞ。

おとう、おれもいっしょに行く。

家のことならかまわないよ。つれていっておやりよ。役にたつかもしれない。

……。

よし、つれて行こう。

わあい、うれしいなあ！

ばか！遊びに行くんじゃないんだぞ！

うん、わかってるよ。

村むらへの使いの役目、たのんだぞ。

はい。

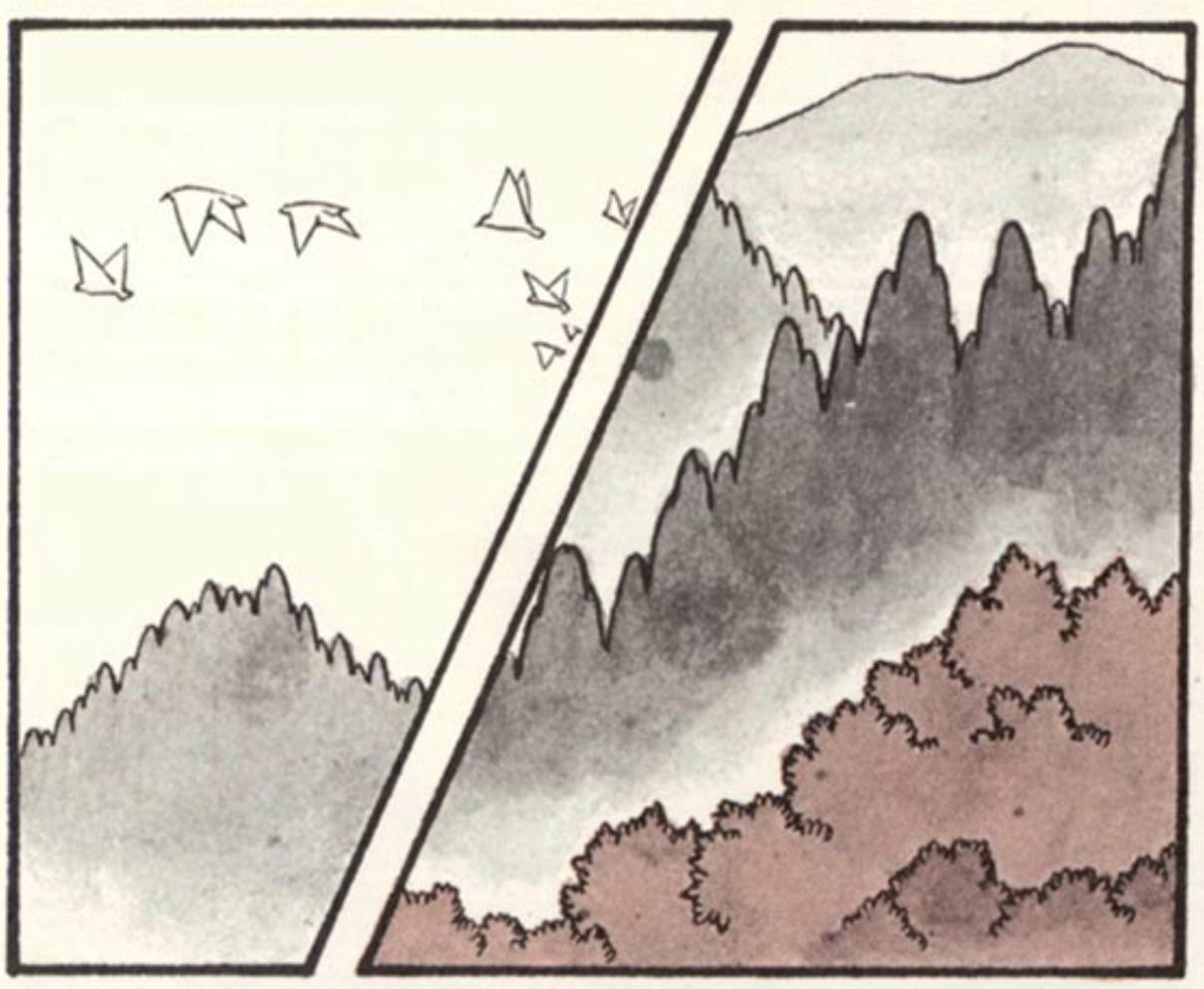
がんばれよおっ！

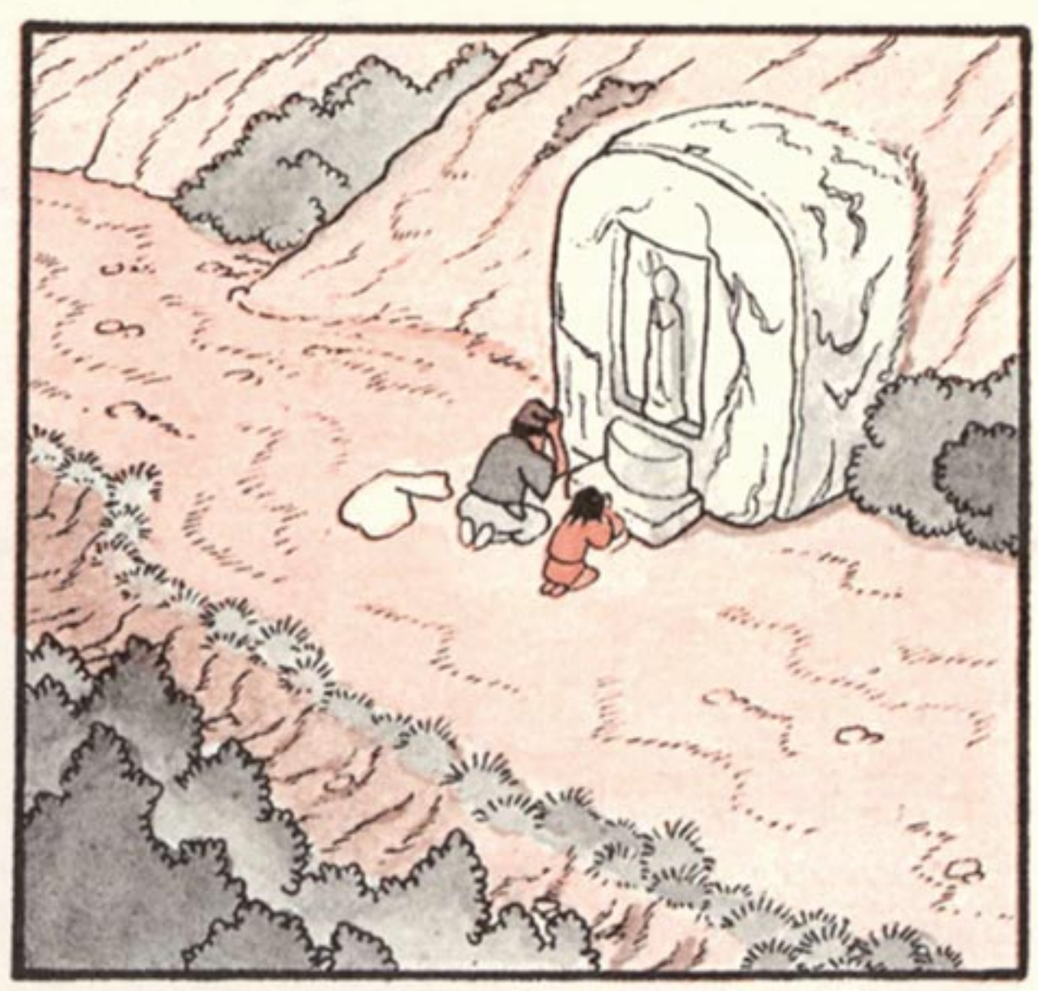
おおい。

よし、ここでひと休(やす)みするか。
ああ、つかれた。

こらっ！
はあいっ。

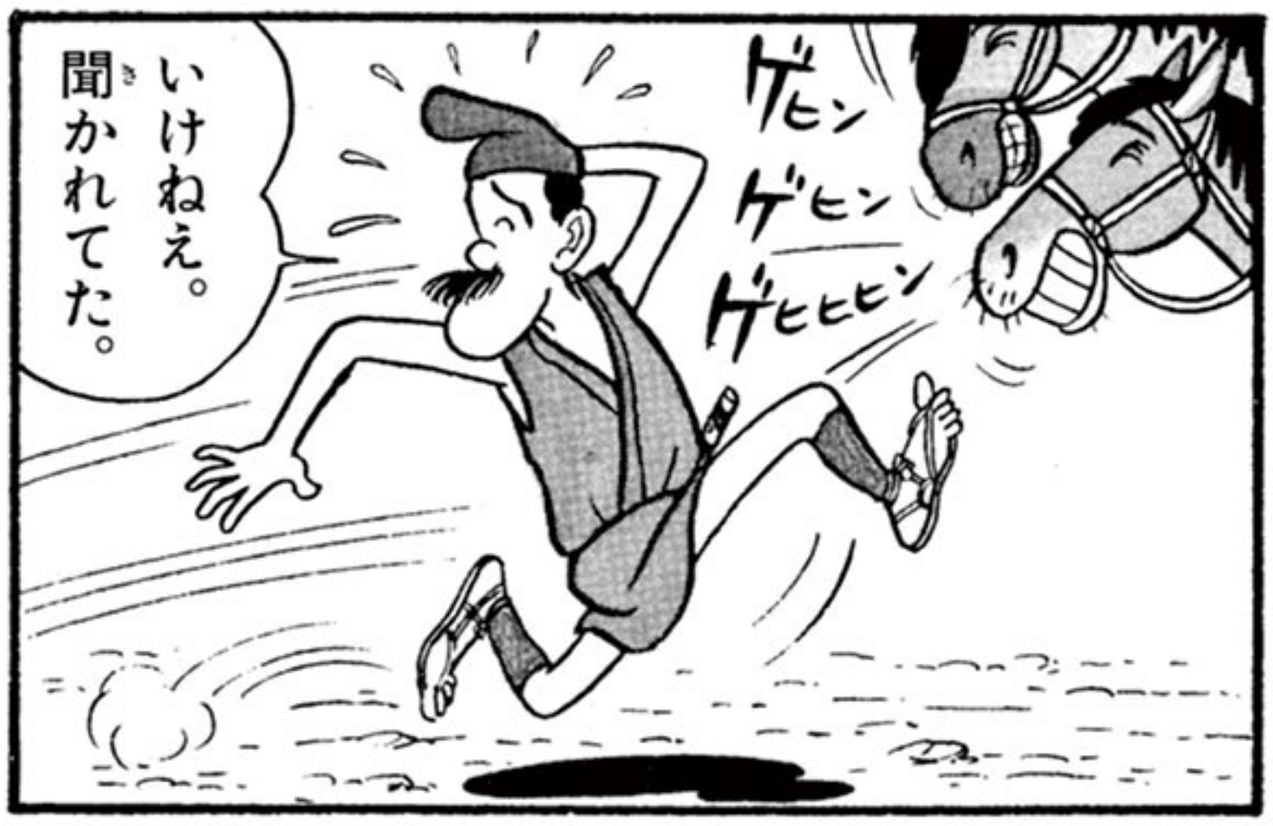
お地蔵(じぞう)さま。どうか一揆(いっき)が成功(せいこう)して、わしらのくらしが楽(らく)になりますように…。
シャー





*酒屋…お酒をつくり、それを売ってたくわえた金で、土倉と同じように高利貸しをする者が多かった。

*高利貸し…高い利子をとってお金をかすこと。



この時代、公家や武士から一般庶民にいたるまで、多くの人がよくお酒をのむようになり、酒屋は大はんじょうしました。京都とその周辺だけでも、三百軒以上の酒屋があったといわれます。酒屋は、もうけた金を公家や武士、また庶民たちにもかしつけて、さらに利益をあげました。

このころ、金貸しの業者は、京に三百軒、奈良に二百軒もありました。かれらは、質の品物を保管するため、土ぬりの倉庫をたてていたので、土倉とよばれました。このうち、酒屋が土倉をかねる場合も、数多くありました。

＊近江…滋賀県　＊私徳政…幕府が公に出すのでなく、一揆の人びとが実力でかってに行った徳政。

*祠堂銭…先祖の供養や寺の修理のために、寺に寄付するお金。

お兄ちゃん！
おおい！

ご苦労だった。して、ほかの村の様子は？

ゆたかな村はどこにもない。どの村も、一揆以外に道はないと……。
やはり……。

それで、各村の力を合わせて、いっしょに*南都にせめこもうということに。
思ったとおりじゃ。

*南都…奈良のこと。

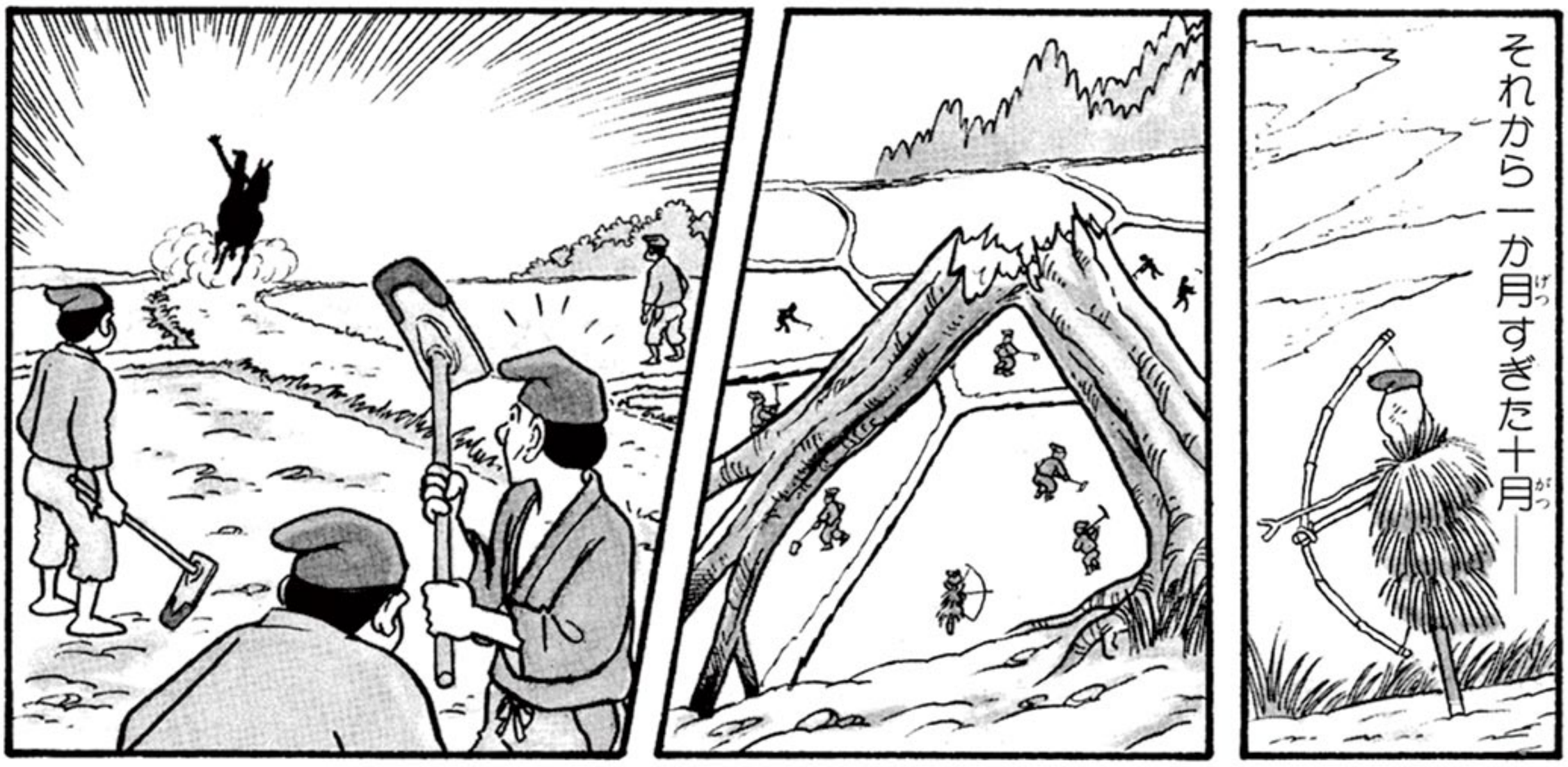
だけど、これから各村との連絡を、どうやってとっていくか…。
それなら、心配ない。じつは、きのう馬借の衆が来てな…、

これで、おたがいの意見はいっちした。
よろしく。力を合わせてがんばろう。

じゃあ、あとの連絡はおれたち馬借にまかせてくれ。

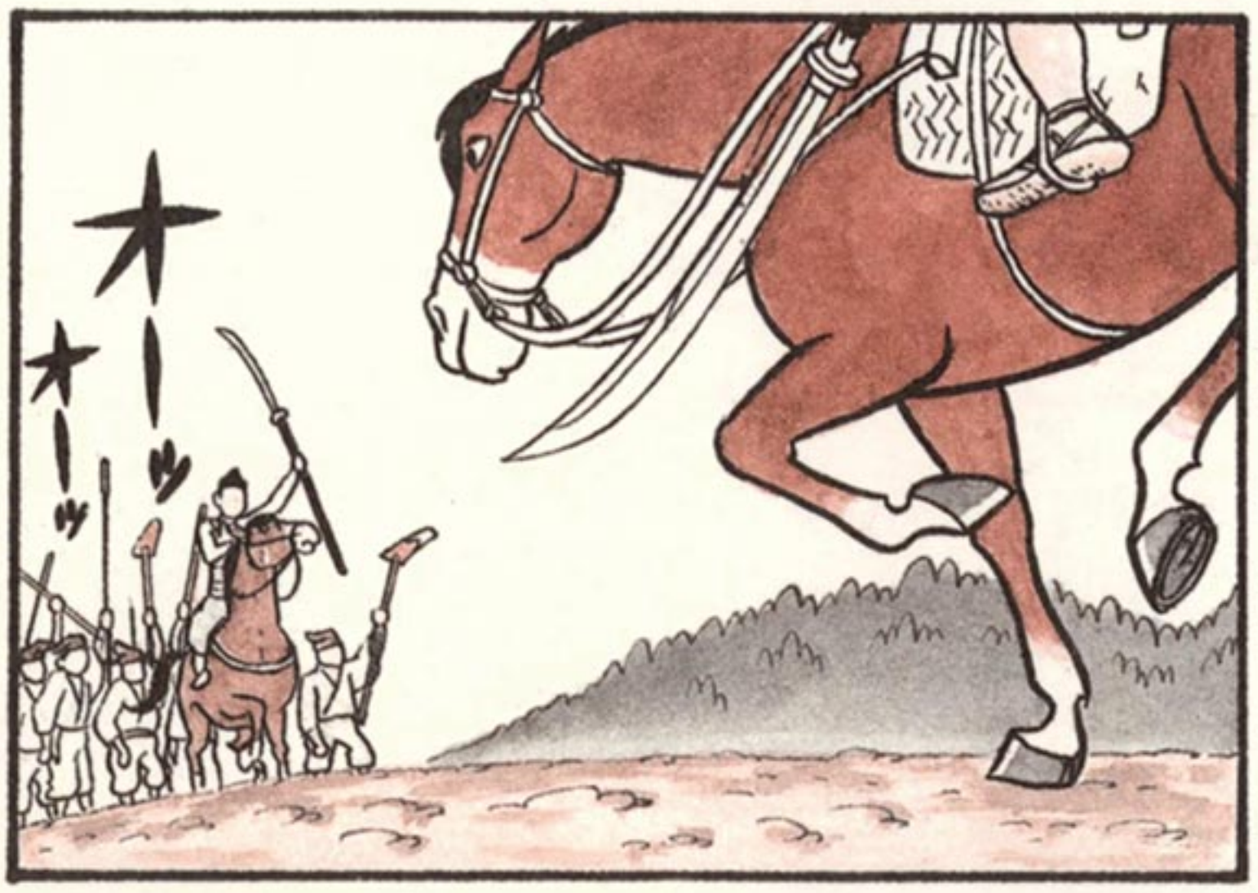
…と
いうわけ
じゃ。
それは
いい。
たいへん
だ！

先月、
近江で
馬借衆が
ひとあばれ
したそうだ。
ハアハア
ほんと
うか！
いよいよ
じゃな
……。


それから一か月すぎた十月——

おとといい、
京周辺の
馬借と
農民衆が、
洛中に
せめこんだ
ぞ！

*醍醐…京都府京都市伏見区の地名。



*般若寺…奈良県奈良市般若寺町にある真言律宗の寺。

*寺社領…寺や神社の領地。

*西大寺…奈良県奈良市西大寺芝町にある真言律宗の寺。

*宇陀郡…奈良県宇陀郡。奈良県の北東部。

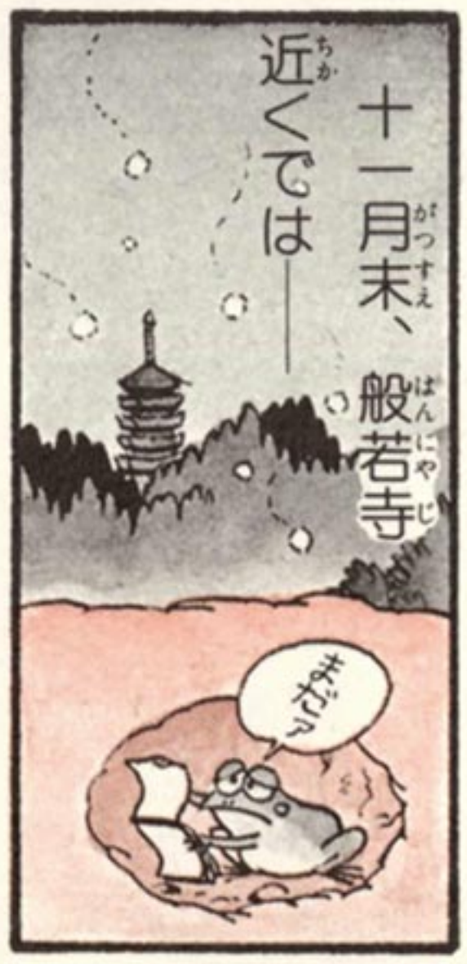
*長谷寺…奈良県桜井市にある真言宗の寺。

おおい！
*衆徒の
軍勢が
せめてくる
ぞおっ！
ドドドド
ええい！
一揆の衆を
けちらせ！
たいへん
です！
西大寺にも
一揆の大軍
が……。
な、
なにっ!!
こうしては
おれぬ。
引きあげる
ぞ！
ドドドド
それ、
敵は
引いたぞ
！
おし
もどせ
!!
ドドド

ワー
ウハハ
やめろ
土倉め！日ごろもうけすぎるからこうなる！
おおい、早く来い！
武士のくせに、庶民に味方するとは何事だ！
米だよ！米があるよ！
いたた……。

一四二八年十一月、徳政をもとめる一揆の衆は南都に突入し、興福寺・西大寺・長谷寺などや、土倉、酒屋などにつぎつぎとおそいかかりました。

この年の八月ごろ、近江ではじまった一揆の活動は、京につたわり、南都をはじめとする大和各地に広がり、ついに近畿一円をまきこんでいったのです。

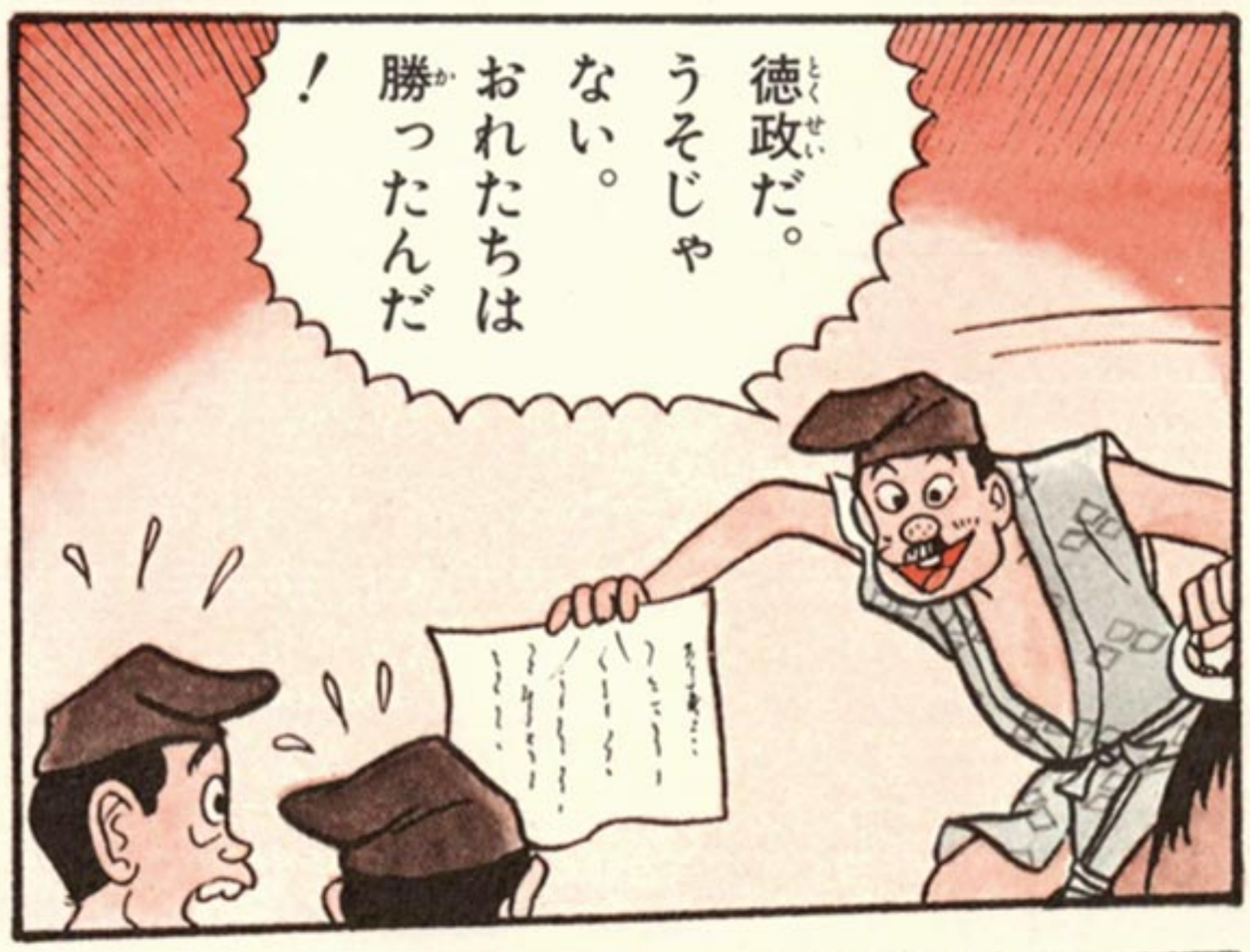

十一月末、般若寺近くでは――
まだだ〜

村を出てからそろそろ一か月になるが、今ごろ、女房や子どもは……。

グス…

おおい！
ドドドド

徳政だっ!!
徳政令が出たぞっ!!
えっ!?

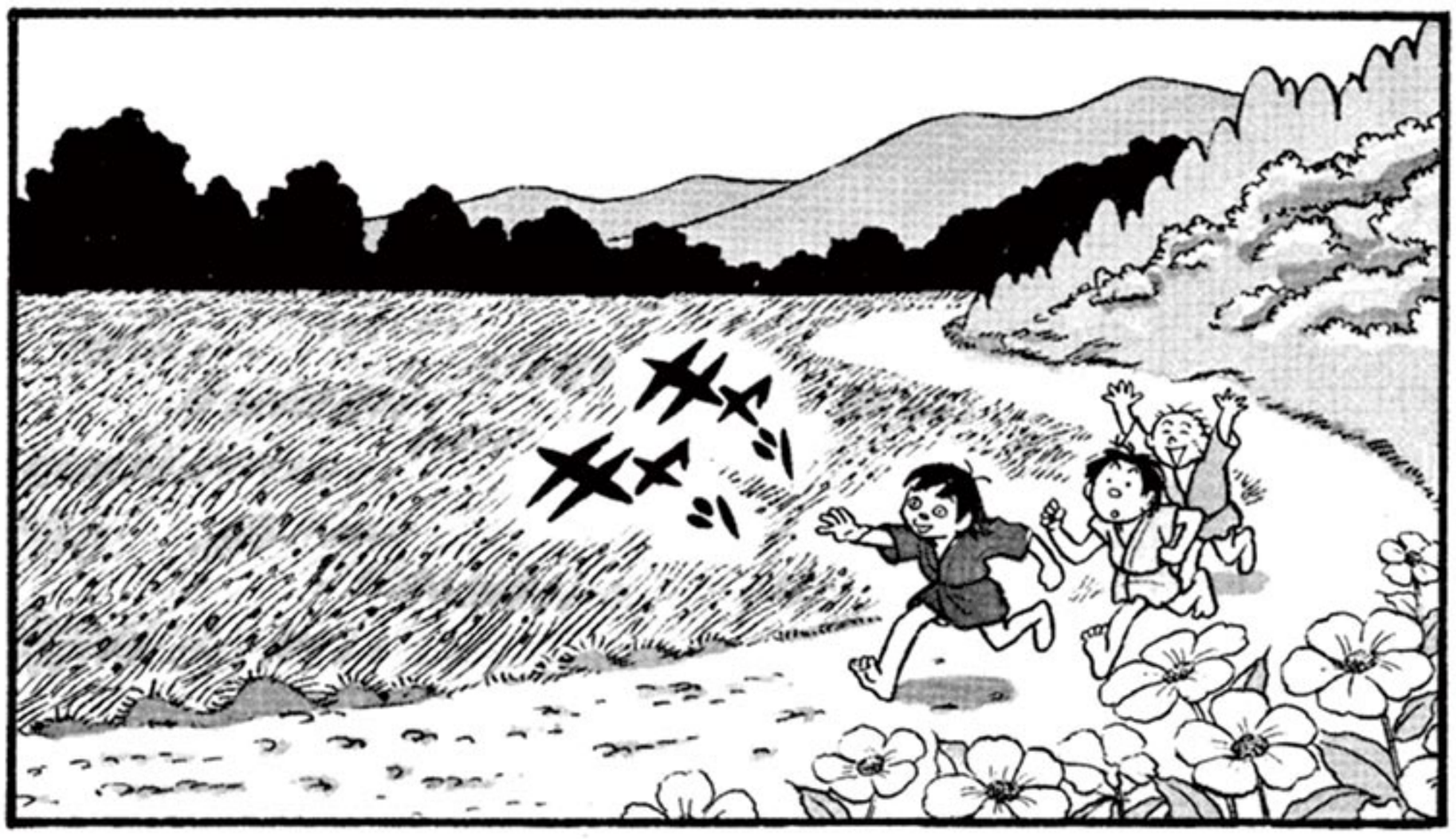


ここに見た南都の一揆では、完全に一揆側が勝利をおさめ、徳政を勝ちとることに成功しました。京では、幕府はついに徳政令を出しませんでしたが、じっさいは酒屋や土倉がおそれ、私徳政が行われていたのです。

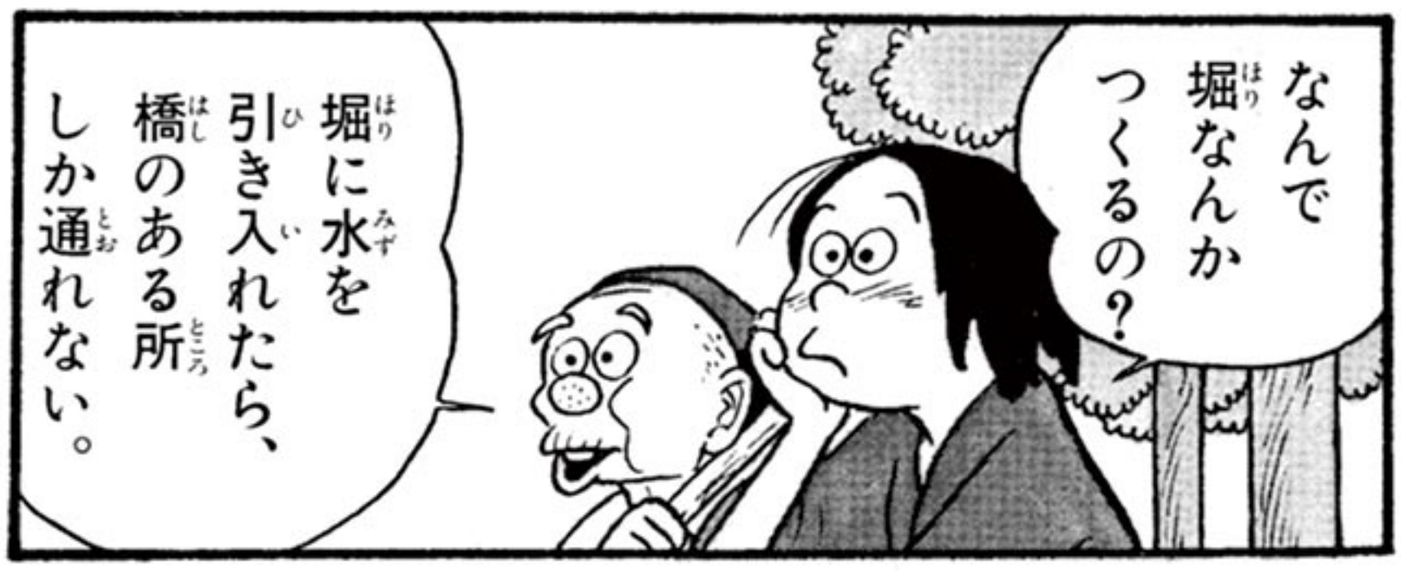
このように、農民たちが馬借や武士たちと手をむすび、また、村むらが団結して立ちあがった大規模な土一揆は、これがはじめてのことです。

この一揆を「正長の土一揆」といいます。

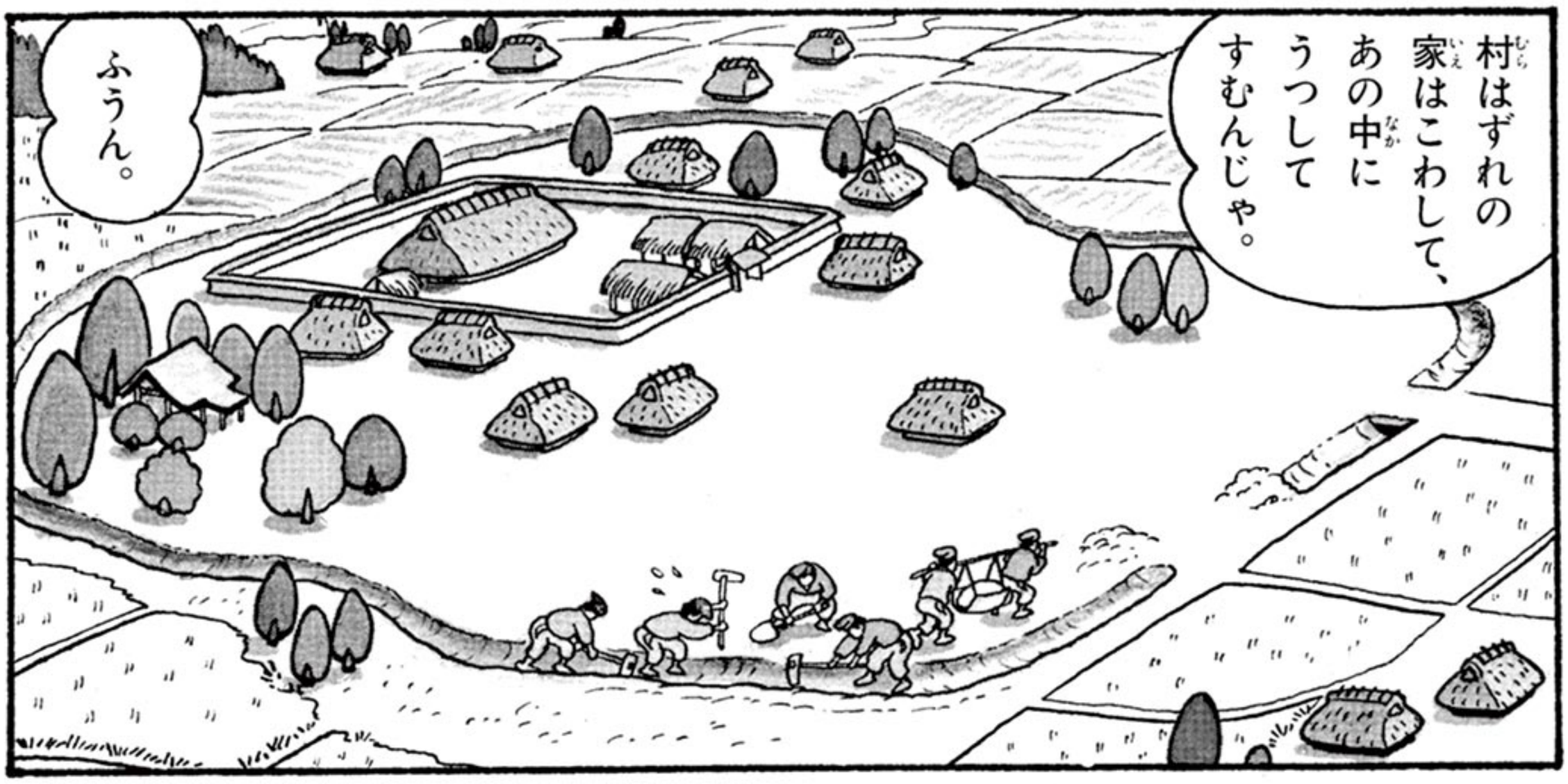
翌年の春

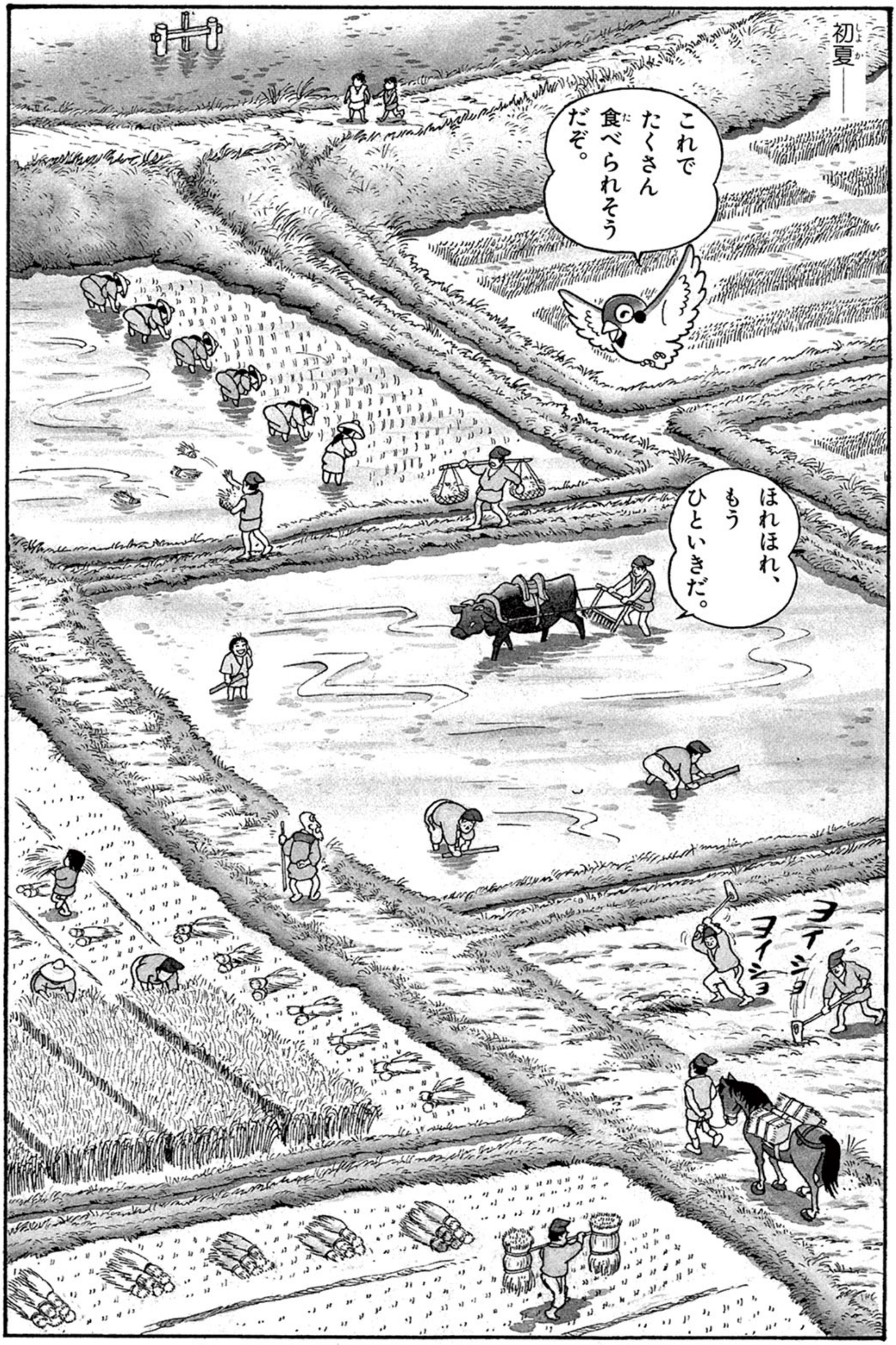


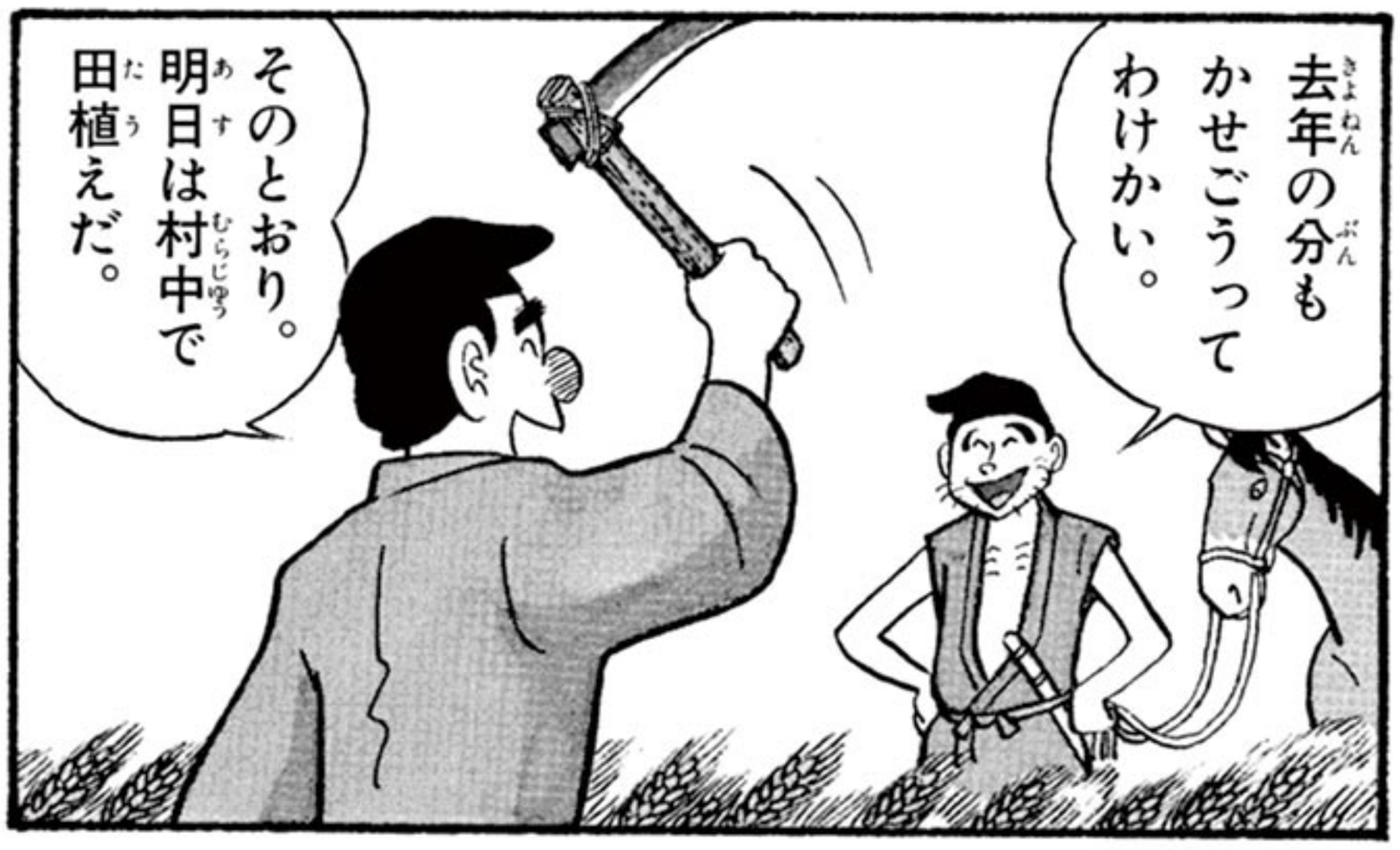
おとうたちは、何をしているの？
村のまわりに、堀をほっているんじゃよ。

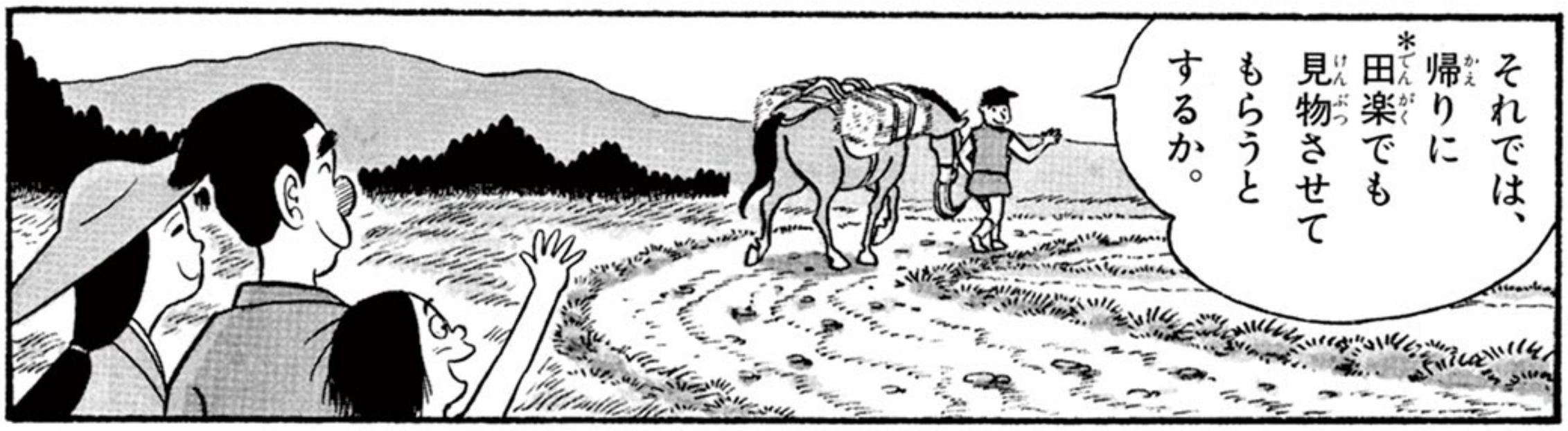

なんで堀なんかつくるの？
堀に水を引き入れたら、橋のある所しか通れない。

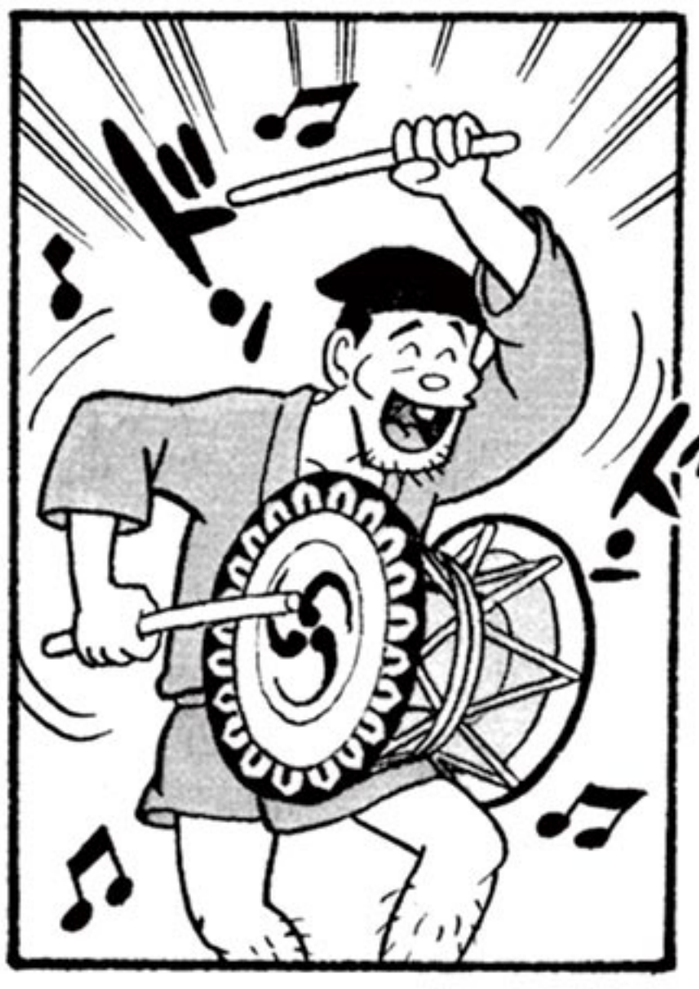
悪い侍たちが、村をおそってこないようにしているのじゃよ。


村はずれの家はこわして、あの中にうつしてすむんじゃ。
ふうん。


初夏――
これでたくさん食べられそうだぞ。
ほれほれ、もうひといきだ。
ヨイショ
ヨイショ







*二毛作…同じ田畑に、一年に二回、別の作物をつくること。

*田楽…田植えのときに豊作をいのることからおこった踊りと音楽。

ききんのために全滅しそうになった村は、一揆の成功によってなんとかたちなおり、翌年の豊作によって、またもとの平和な村にもどりました。

この章で見てきたように、民衆はあいつぐ天災・戦乱にもめげず、たがいに力を出し合い、知恵をあつめてたたかったのです。村ごとにつくった「おきて」をまもり、話し合いで村をまとめていくほか、村と村の連絡もとりあって、いざというときには団結して、幕府や領主にたちむかっていきました。

さて、ここで話は、第一章のおわり、将軍義教が暗殺された嘉吉の乱の直後にもどります。うちつづく戦乱や一揆のなかで、やがて足利義政が将軍になって、おとろえた将軍家の力をもりかえそうとします。第三章では、その義政の政治のありさまを見てみることにしましょう。

小学館 eBooks

第三章

応仁の乱

――室町時代後期――

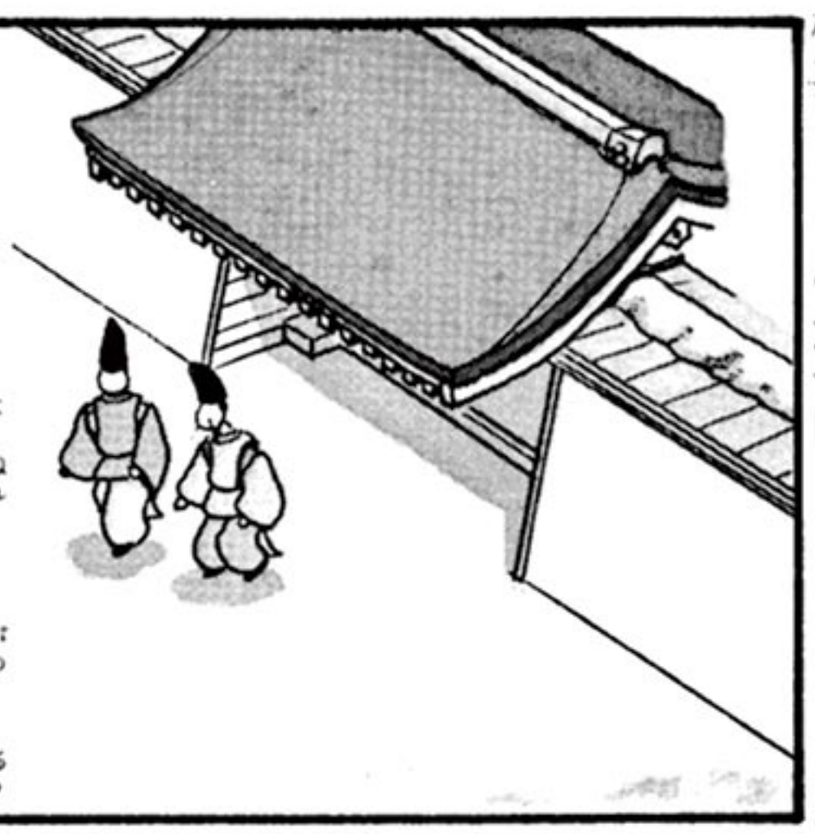
*明徳の乱…第八巻第四章参照。

*六分の一衆…十一か国（全国六十六か国の六分の一）の守護をかねたため、こうよばれた。

*木山城…兵庫県たつの市にあった山城。

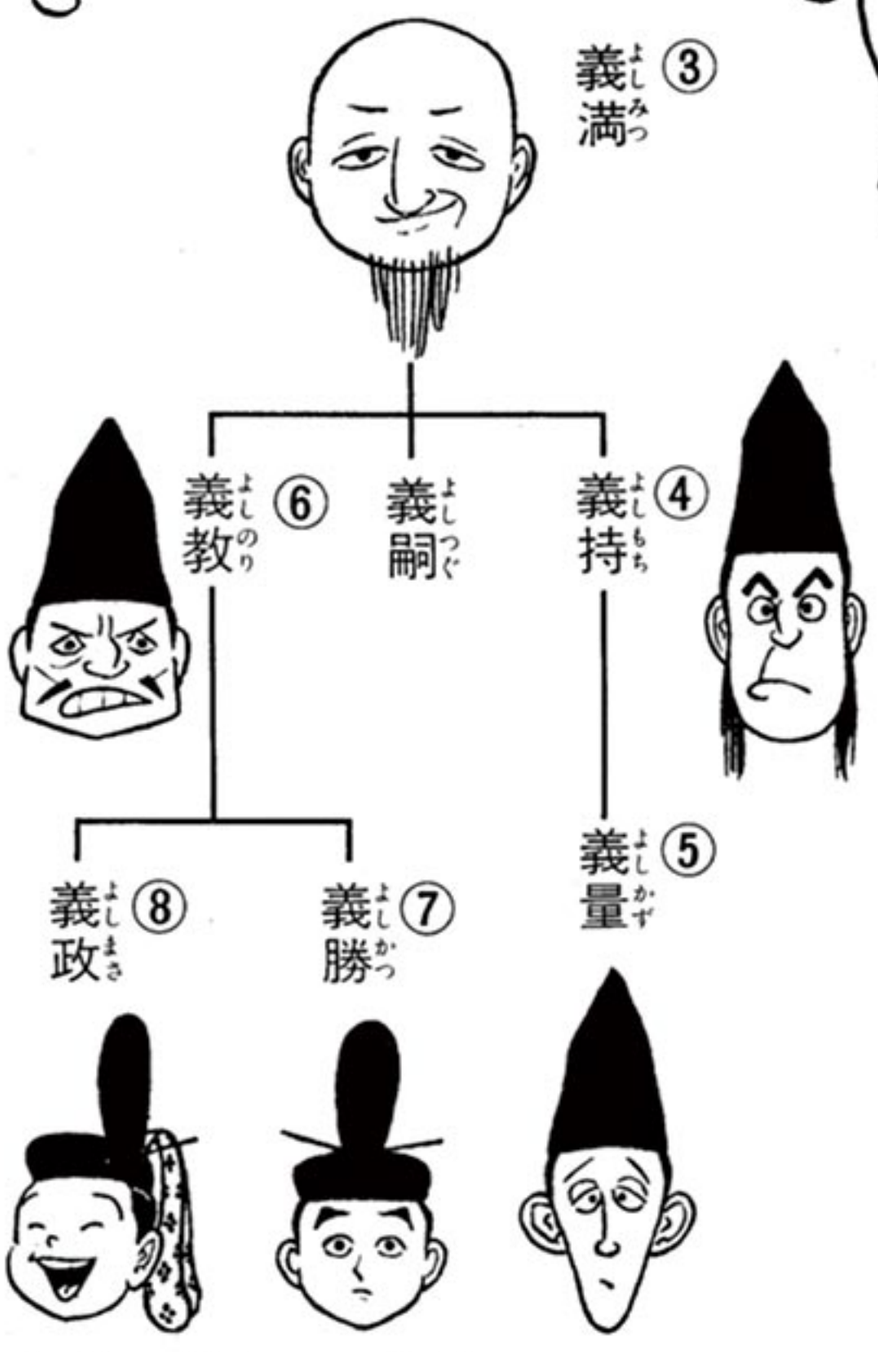
翌一四四二年十一月、不安定な情勢のなかで、義教の長男義勝が、わずか九歳で将軍になりました。

将軍



ところが、翌年の七月、就任して間もない将軍義勝が、とつぜんなくなりました。

足利将軍家の系図



（数字は何代めの将軍かをしめします。）

*棟梁…多くの武士団をひきいている者。

*けまり…まりを地面におとさぬよう、数人でけりつづける貴族の遊び。

だが、けまりや和歌で、将軍職がつとまるわけではあるまい。

なあに、どうせ守護大名たちが政治をみるつもりなのだから…。

一四四九年四月、十四歳になった義政は、正式に将軍の位につきました。

将軍としてがんばらねば！

将軍

将軍の権力も、おとろえたものじゃ。

まったく…。

しかし将軍になったものの、政治は、義政の側近や将軍家の女性たちににぎられ、何一つ義政の思いどおりになりませんでした。

烏丸資任

義政はわたくしの子。何かと世話をしなくては。

日野重子

日野重子さまはわたしのいとこ。義満さま、義持さまの奥方は、ともにわが一族の出身…。義政さまの奥方には、遠縁の日野富子などどうかな。

伊勢貞親

義政さまを教育したのはこのわしじゃ。

山名頼豊

わたしこそ、幕府の実力者！

わたしは管領ですぞ！

今参局

お生まれになったときから、乳母としておそだてしたのはわたくしです。

細川勝元

*落書…その時代の政治などをひにくった作者不明の文章。

*三魔…三つの魔物(ばけもの)。三人の悪者。

*御今、有馬、烏丸…今参局、有馬持家(義政の側近の武士)、烏丸資任のこと。

なかでも、今参局さまは義政さまの政治に口出しして、これには管領の細川勝元さまもおいかりだそうじゃ。

それだけではないわ。今参局さまは、将軍さまの母ぎみとも仲が悪い。

今参局

日野重子

女どうしの戦いじゃな。

ガヤガヤ

これも、将軍さまが二人に頭が上がらないからだよ。

ワイワイ

何もおこらねばよいがのう……。

この年の八月、義政は、日野富子を妻にむかえました。

日野勝光

日野富子

足利義政

富子はわたしの妹、これからはわたしが力をふるう番じゃ。

富子はわたしの一族の者よ。

くやしいっ!!

今参局

日野重子

一四五八年、将軍義政邸

トントン

一揆のことといい、守護大名のことといい、うまくいかぬなあ。

しかし、こうしたときこそ父上を見ならって、将軍家の権威をとりもどさねば…。そのためにも、屋敷の増築をいそがせろ！

は、はい。

カンカン

トントン

エーソヤ

コーラ

おおいっ、いそげっ!!

ピカー

やれやれ

その年の十一月、屋敷はほぼ完成しました。

フーッ

ドいしょ

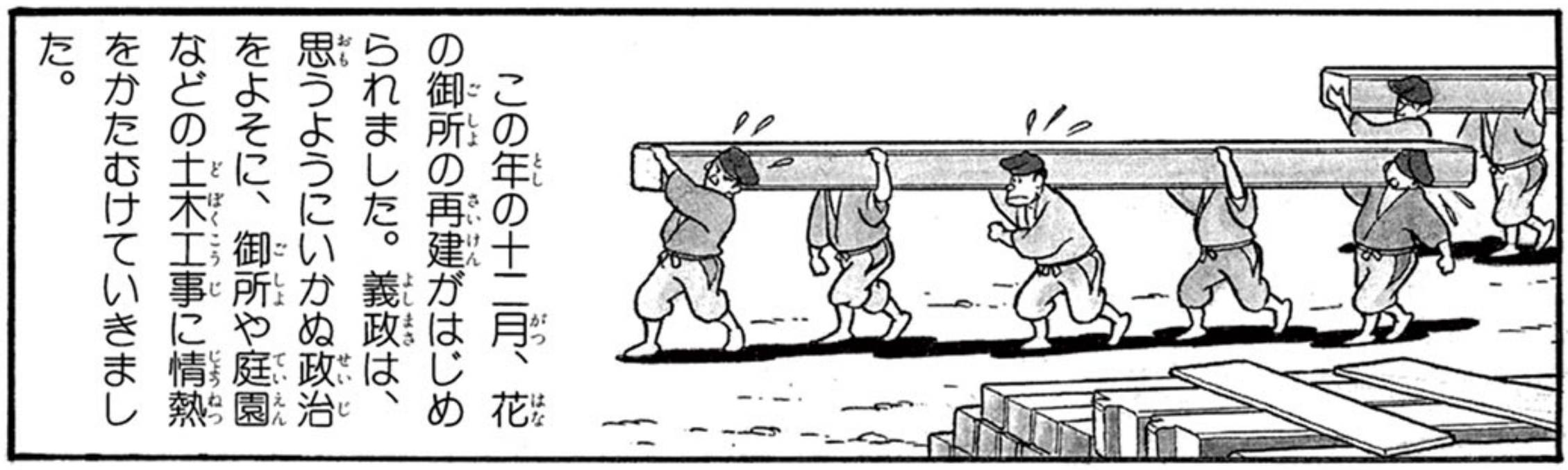
こらしょ

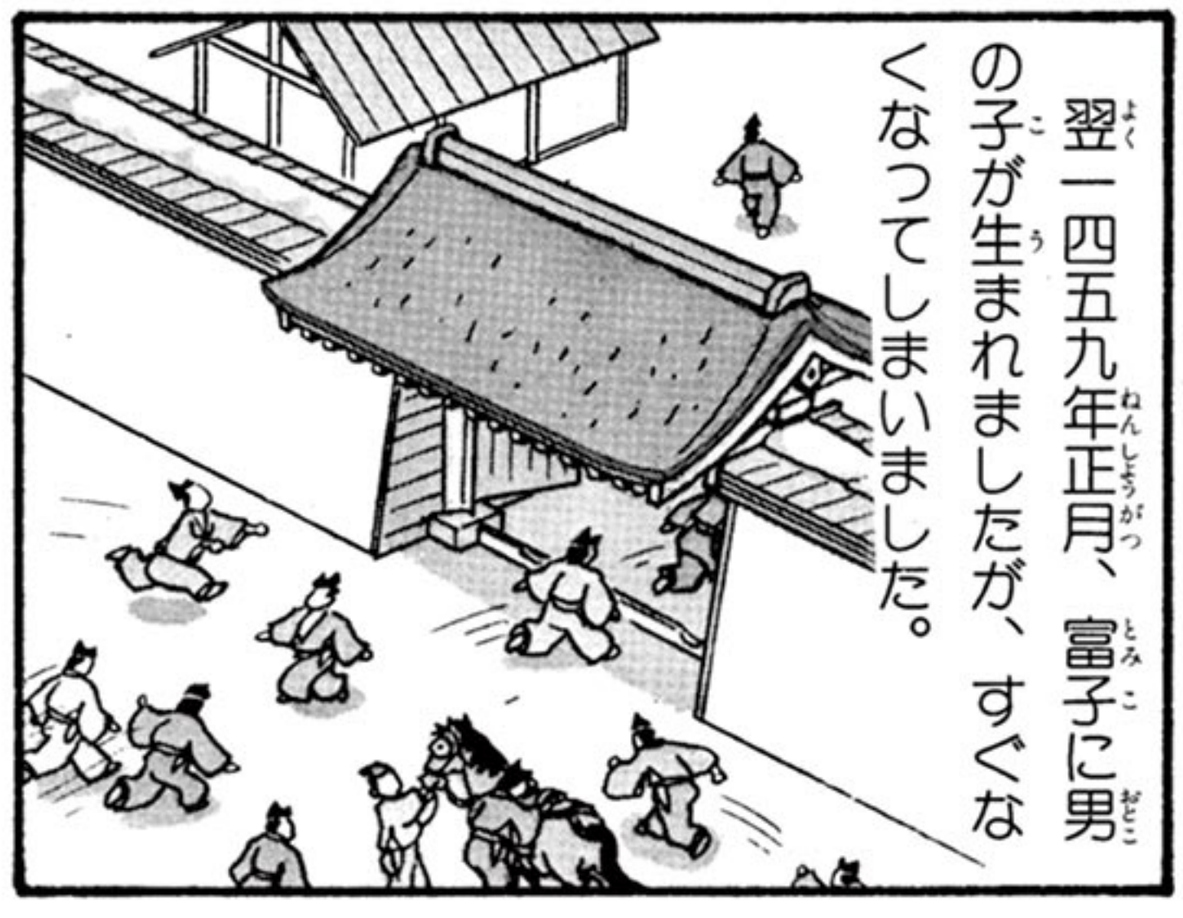
ごらんのとおり、りっぱなお屋敷が…。
気に入らんのう。

建物も庭石もすべて、花の御所へうつせいっ!!
プイ

やれやれ、何のためにつくったのやら。
はじめから、そこへたてればいいものを…。

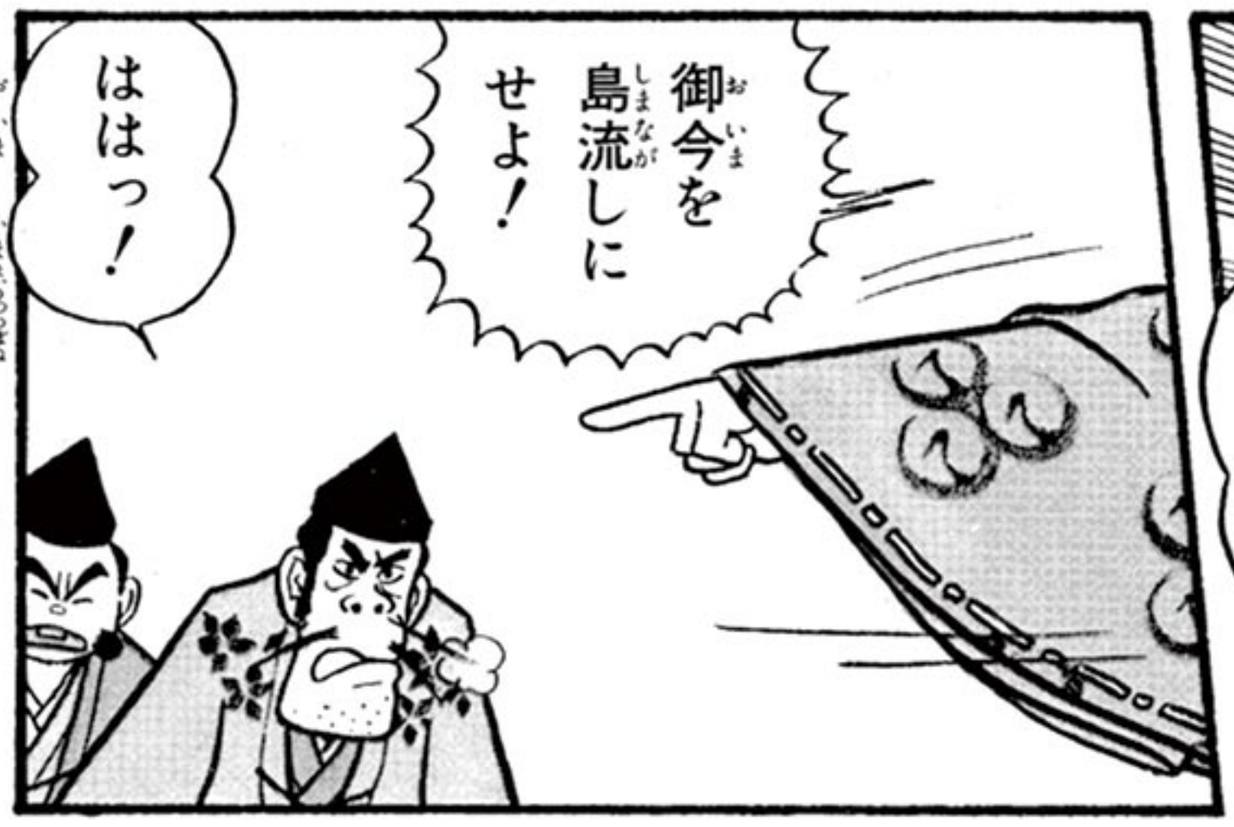
そおっとおろすんだ。


この年の十二月、花の御所の再建がはじめられました。義政は、思うようにいかぬ政治をよそに、御所や庭園などの土木工事に情熱をかたむけていきました。

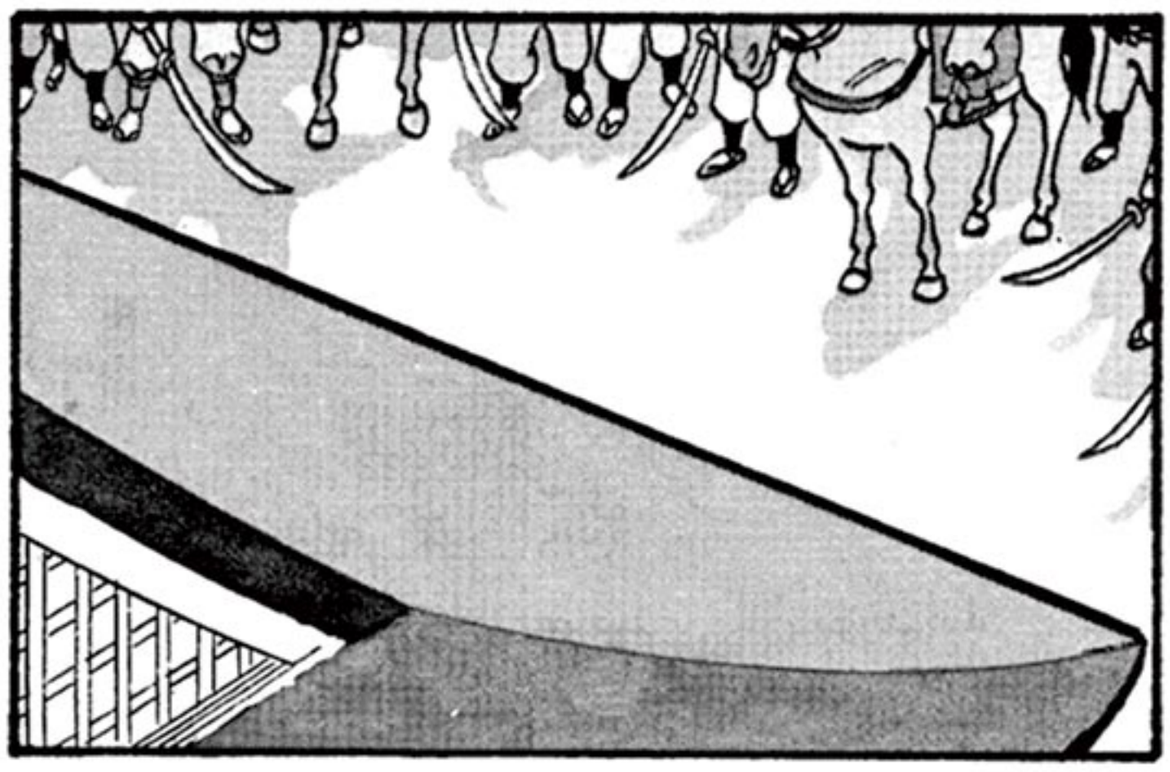

翌一四五九年正月、富子に男の子が生まれましたが、すぐなくなってしまいました。

はじめての男の子だったのに……。
シク
シク

*山伏…山にこもって修行する僧。



＊御今…今参局のこと。

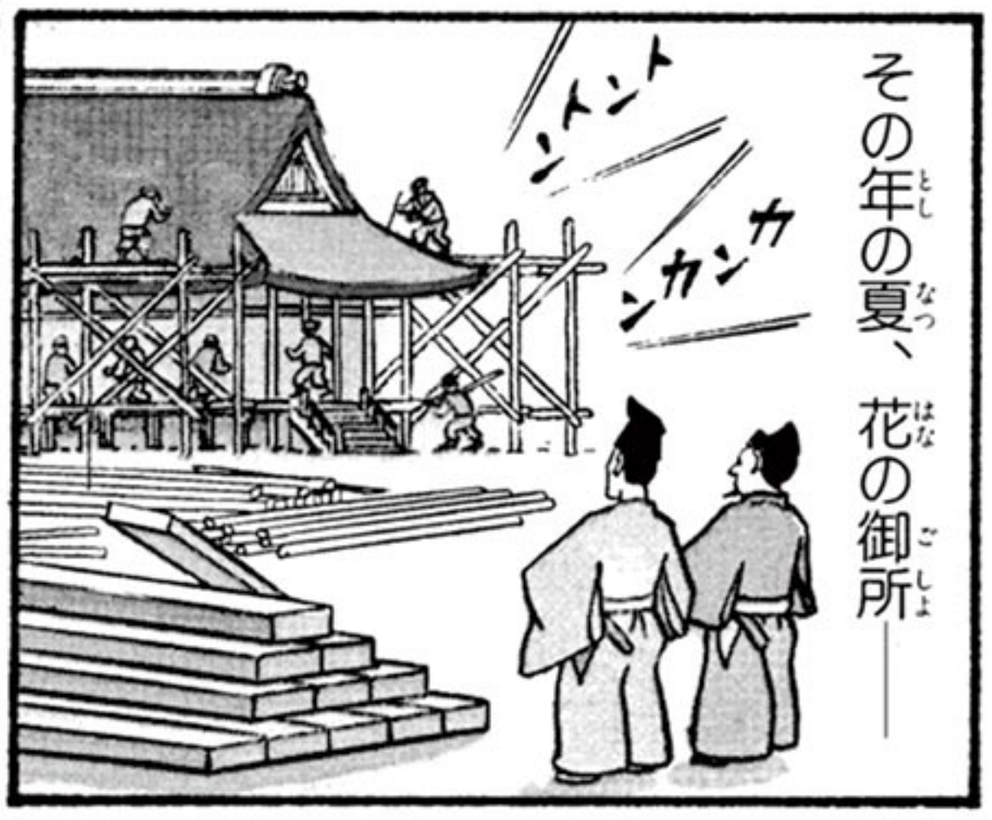


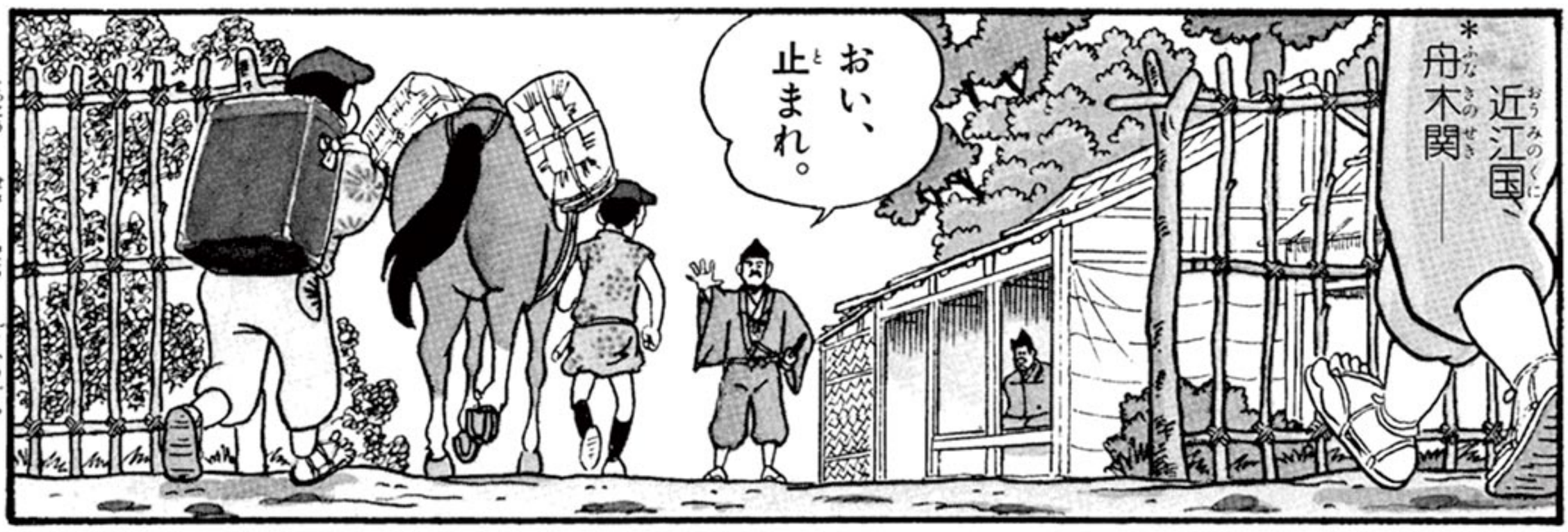
＊琵琶湖…滋賀県の中央部にあるわが国最大の湖。

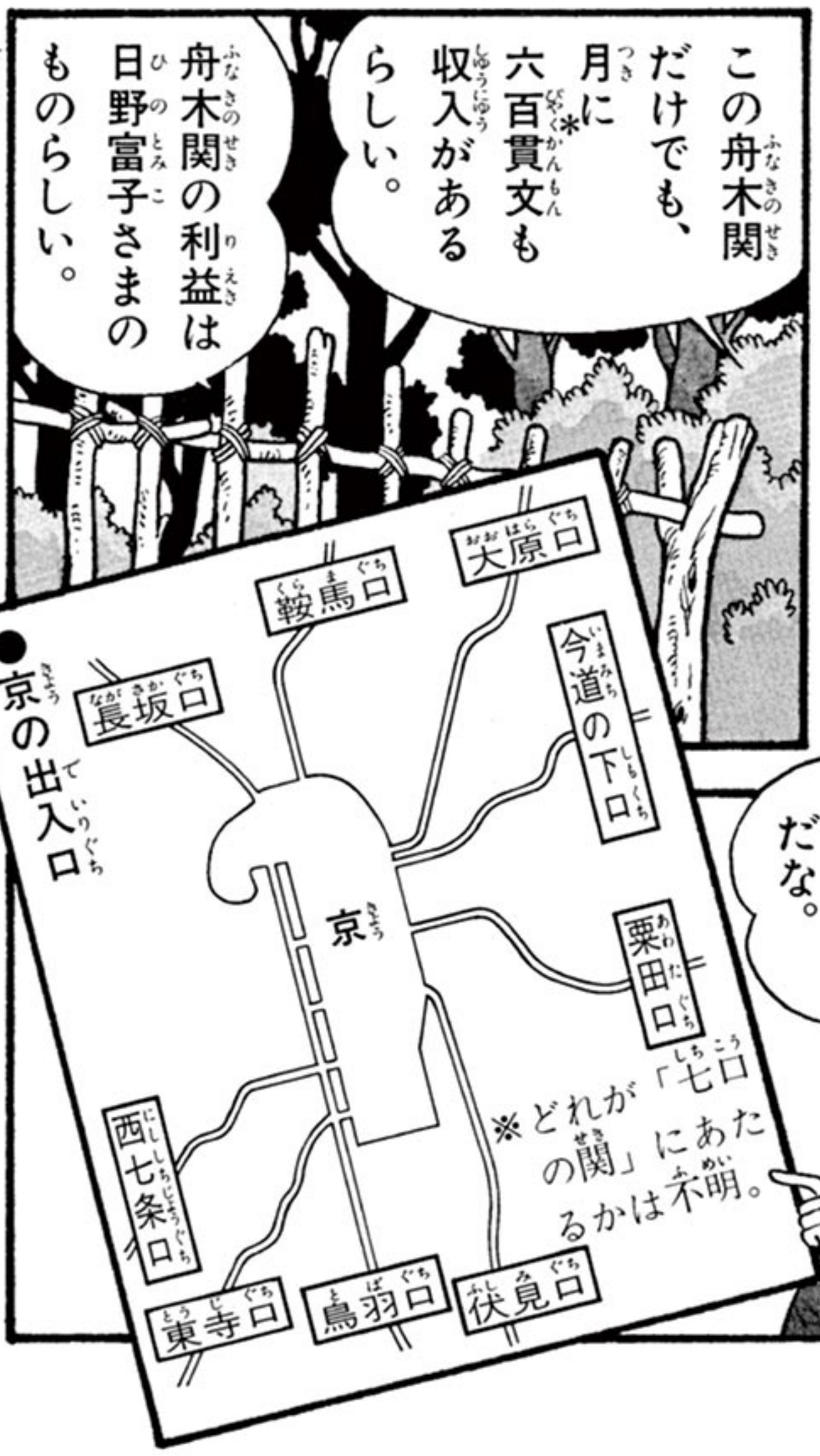
こうして今参局は、＊琵琶湖の沖＊の島にながされることになりましたが、おくられるとちゅうで、無理やり自害させられました。

しばらくして、今参局をころさせたのは日野重子だとういうわさがたちました。

＊沖の島…琵琶湖にうかぶ小島。







*五山…禅宗の五大寺で、京都五山と鎌倉五山があった。

*舟木関…滋賀県高島市安曇川町にあった関所。

*七口の関…京の出入口につくった関所をまとめて、こうよんだ。

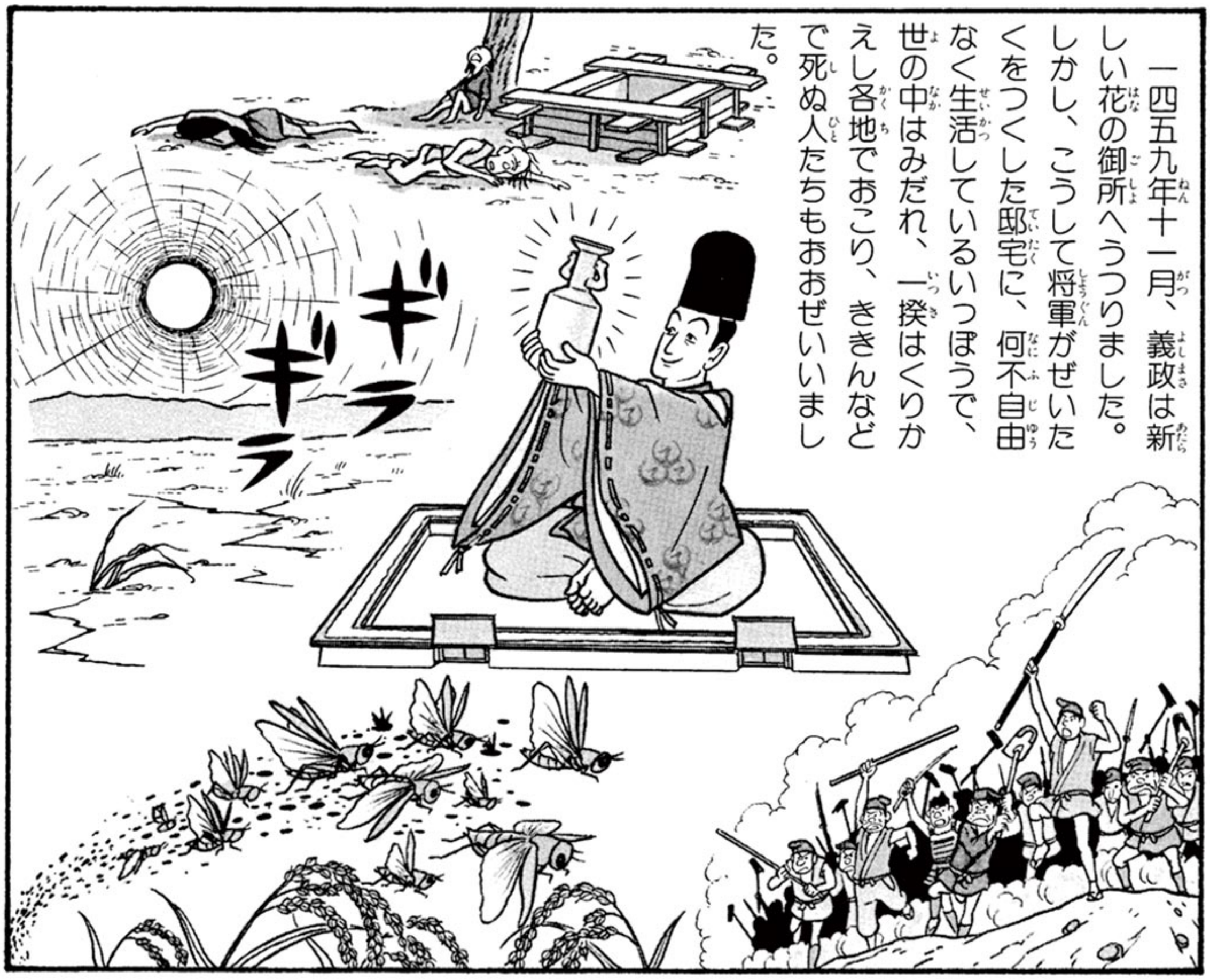
*貫文…昔の金銭の単位。貫ともいう。

それから約二十年たった一四八〇年、幕府はふたたび七口の関を復活させます。

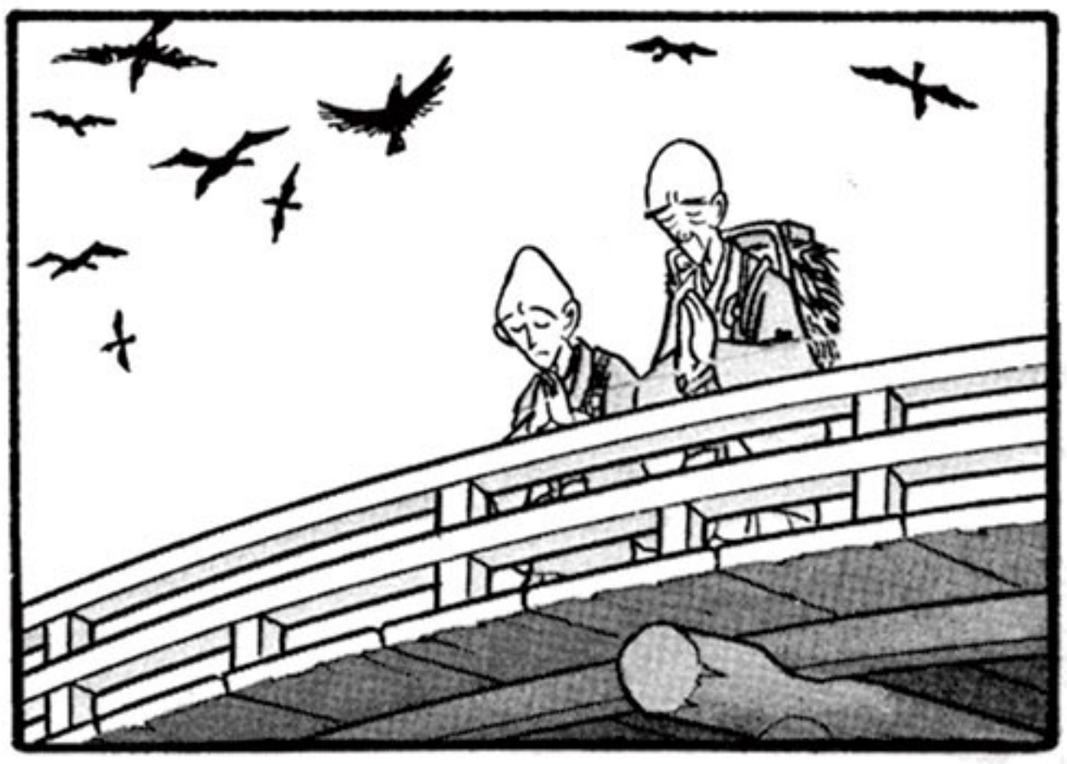
このときには、内裏を修理する費用にあてるというのが表向きの理由でしたが、じっさいには、関所からの収入は日野富子のものになっていたのです。

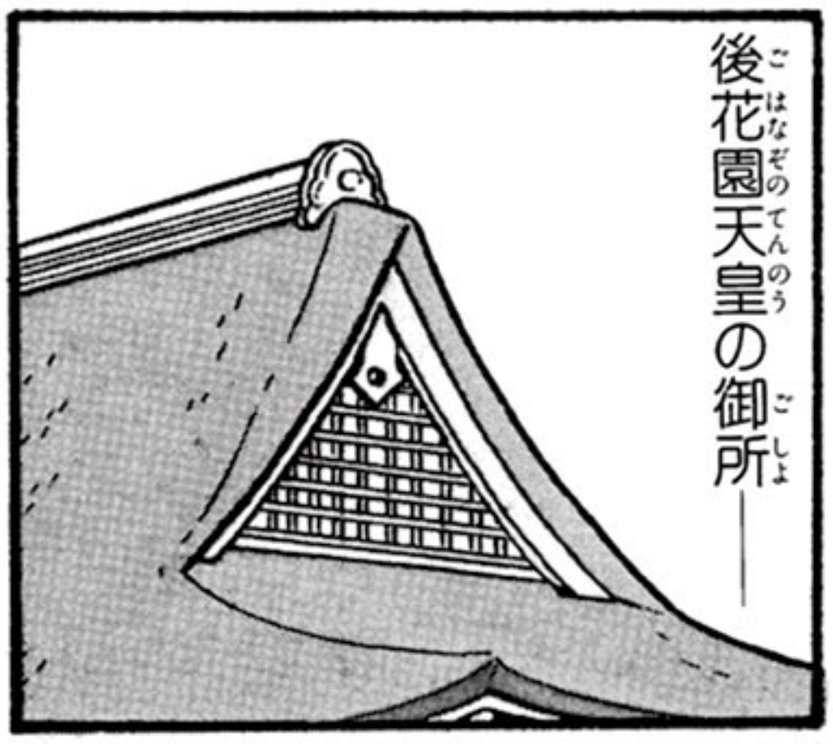
*伊勢神宮…三重県伊勢市にある神社。*内裏…天皇の住まい。

一四五九年十一月、義政は新しい花の御所へうつりました。しかし、こうして将軍がぜいたくをつくした邸宅に、何不自由なく生活しているいっぽうで、世の中はみだれ、一揆はくりかえし各地でおこり、ききんなどで死ぬ人たちもおおぜいいました。

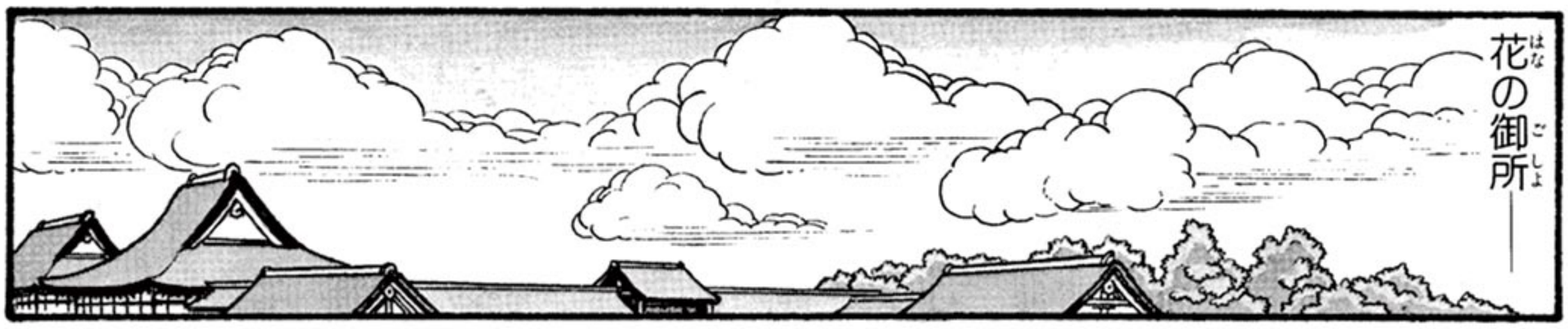


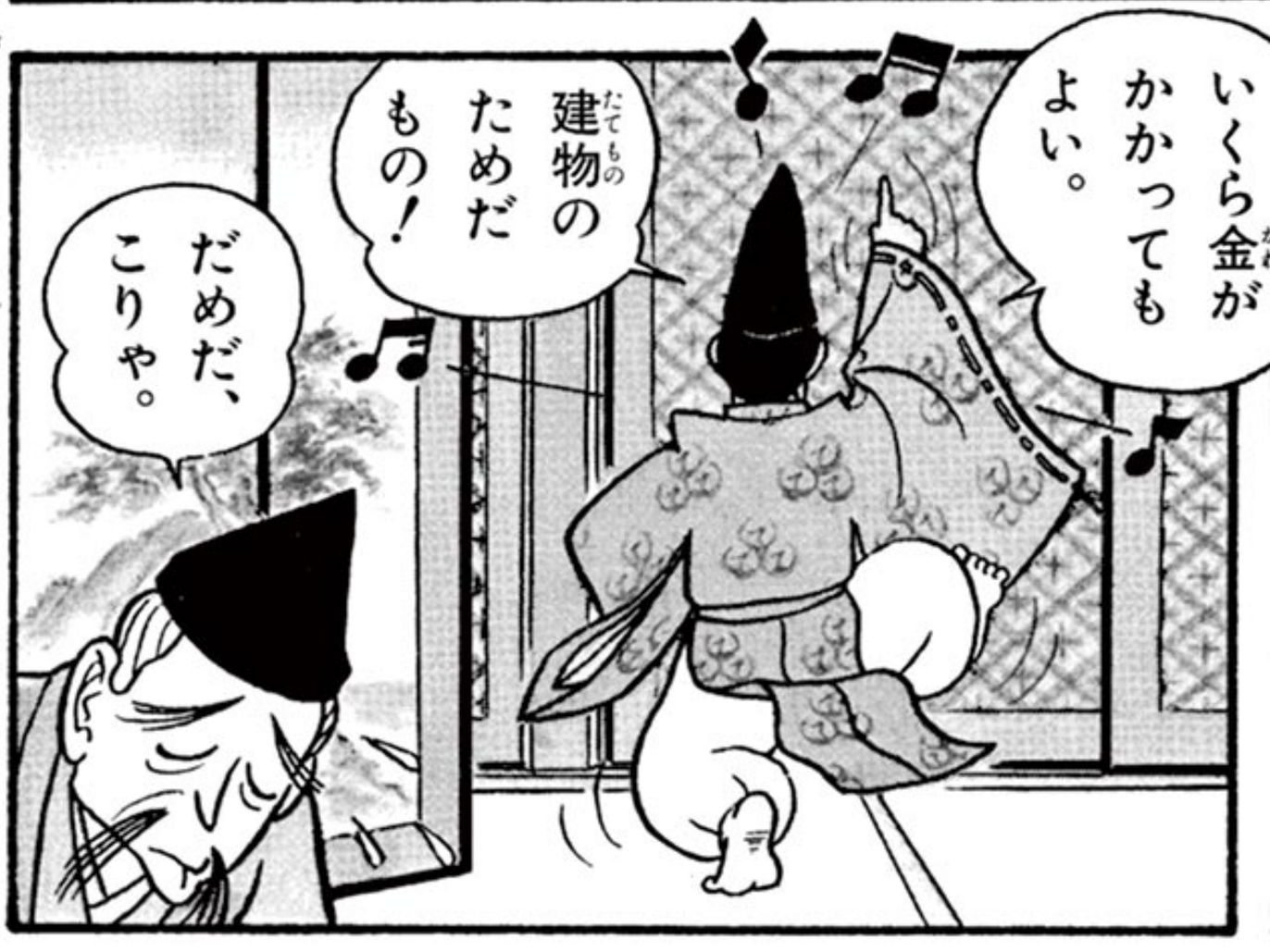
そして一四六一年、京――





その詩は、「生きのこった民は、あらそってワラビをとって、うえをしのいでいる。どの家もかきねや竹のとびらをとじたままだ。詩をたのしもうにもなんといたましい春二月であることよ。都にみちる花の紅や木の緑は、いったいだれのためにさきしげっているのだろうか。」という意味のものでした。



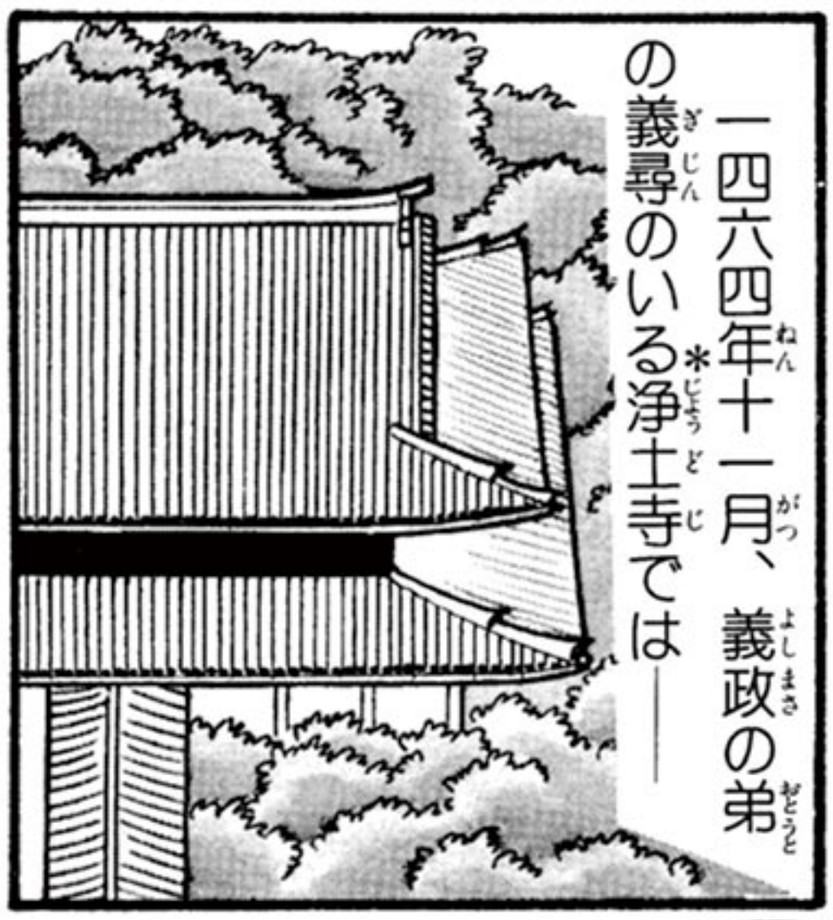


*小栗宗湛…将軍家につかえていた画家。この時代でいちばんの名手とされた。

義政の心は、どんどん政治からはなれ、建築や美術へとむけられていきました…。

どんな建物にしようかなあ…。

一方、妻の富子は、金もうけひとすじの毎日でした。

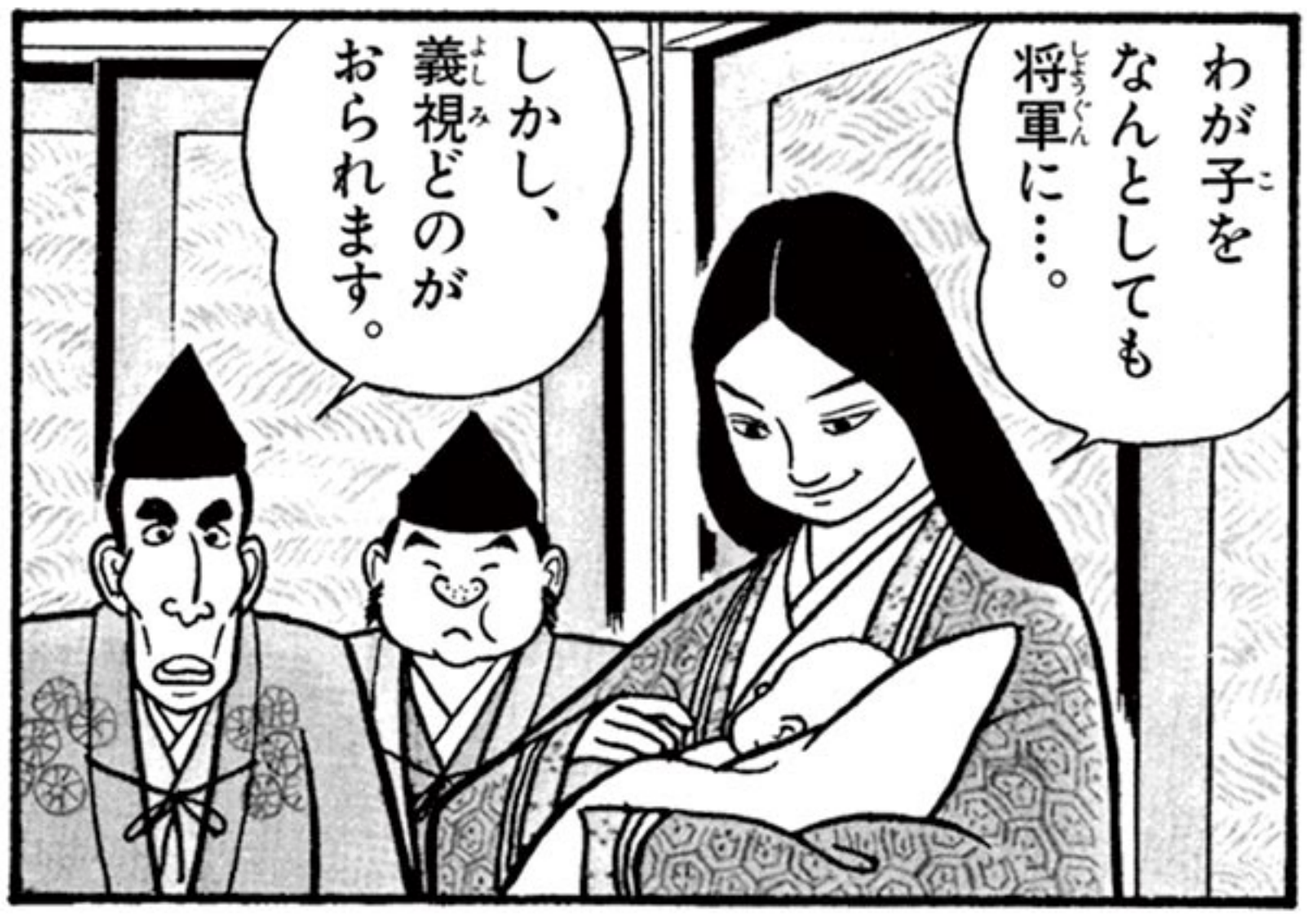


*浄土寺…京都府京都市左京区にあった浄土宗の寺。

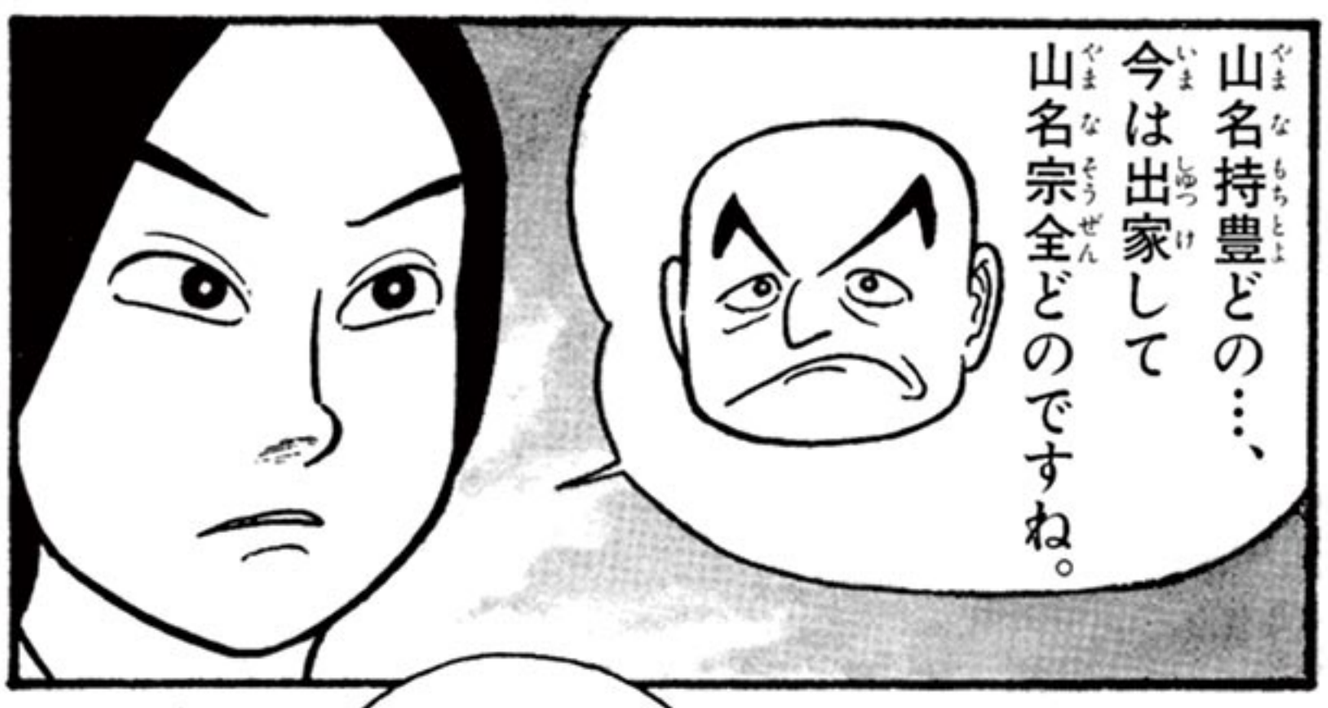
心配いたすな。もし男子が生まれたら、すぐ出家させてしまおう。

……そうですか。わかりました。還俗いたします。

こうして、義尋は還俗して義視と改名し、義政の養子となりました。



*後見人…かげでたすけ、応援する人。



山名宗全邸―

もうしあげます。

勝元どのが、義視さまの後見をやめたそうです。

なにっ!?

勝元め！もし、このまま義視どのが将軍にでもなったら、ますますやつの一人舞台。

なんとか勝元に対抗せねば…。

勝元どのは、将軍家が、二派に分かれてあらそうことを、ふせぐおつもりでは……。

うむ…。そうなると、富子さまのお子をたてて勝元とあらそうわけにはいかぬ。

しかし、やつをこのままにしておくのは危険だ。

そうだ！

以前追放された畠山義就の入京を、将軍さまにおゆるしねがおう。

義就どのは、畠山政長どのと畠山家のあとつぎ争いで、政長どのに負けたお人…。

しかも、争いに勝った政長どのが、今は管領です。

畠山義就

畠山政長

細川勝元

その政長どのをたてるのが細川勝元どの…。

そこで、わたしが義就に力をかすのだ。

そうなれば、細川勝元どのもだまっておりますまい。

なるほど！畠山氏の兄弟をあらそわせて、それに勝元どのをまきこむお考えですか。

はっはっはっ、わかったか。さっそく将軍にねがい出よう！

管領畠山政長邸
ドドド

なに!? 義就のやつが兵をひきいて都に入ったと。
畠山政長
後ろだては山名宗全どの。

……平気、平気。こちらには細川勝元どのがついておる。

いかがなさるおつもりで…。
きまっておる。場合によっては義就をうつ。いくさの準備をしろ。

一四六七年正月、政長は、管領をやめさせられました。
ムムム…
正月には、管領であるわが屋敷に、将軍がおみえになるはずだったが……。
ギリギリ
それなのに、義就の宴会へ行かれるとは。

くそっ、義就め！

山名邸をかりて宴会をひらき、将軍さまと義視どのにとり入るとは。将軍さまも、そんな義就にすっかりのせられてしまった。

将軍さまも、将軍さまじゃ。

くそっ！

それもこれも義就のせいよ。もう、ゆるせない！

この屋敷を、義就さまにあけわたせとまでおっしゃられた。

勝元さまを通じてことわったら、将軍さまはわたしの管領職をとりあげてしまわれた。

花の御所——

このままでは、畠山政長どのと義就どのの戦いがきっとおこります。

やむをえんではないか。

しかし、戦いとなれば、やがて宗全どのと勝元どのの争いとなりましょう。

そうなれば、天下の大乱はさけられません。

これは、あくまでも政長と義就の戦いじゃ。宗全と勝元には手出しせぬようつたえておけ。

こうした下級武士は「足軽」とよばれました。足軽たちは平気で民家に火をつけたり、物をうばったり、また味方をうらぎったりしました。

しかし、こうした足軽たちの活やくが、戦いの勝敗に大きくえいきょうしました。

＊御霊林…京都府京都市上京区にある上御霊神社の林。

そして一月十八日、＊御霊林で、畠山政長軍と義就軍との戦いがはじまりました。

わが軍が優勢のようじゃ。

もうじき義就の首を…。

たいへんです！

敵の援軍に山名宗全どのの軍がくわわり、わが軍がおされております。

なにっ!?

うぬ、細川勝元どのの援軍はまだか！

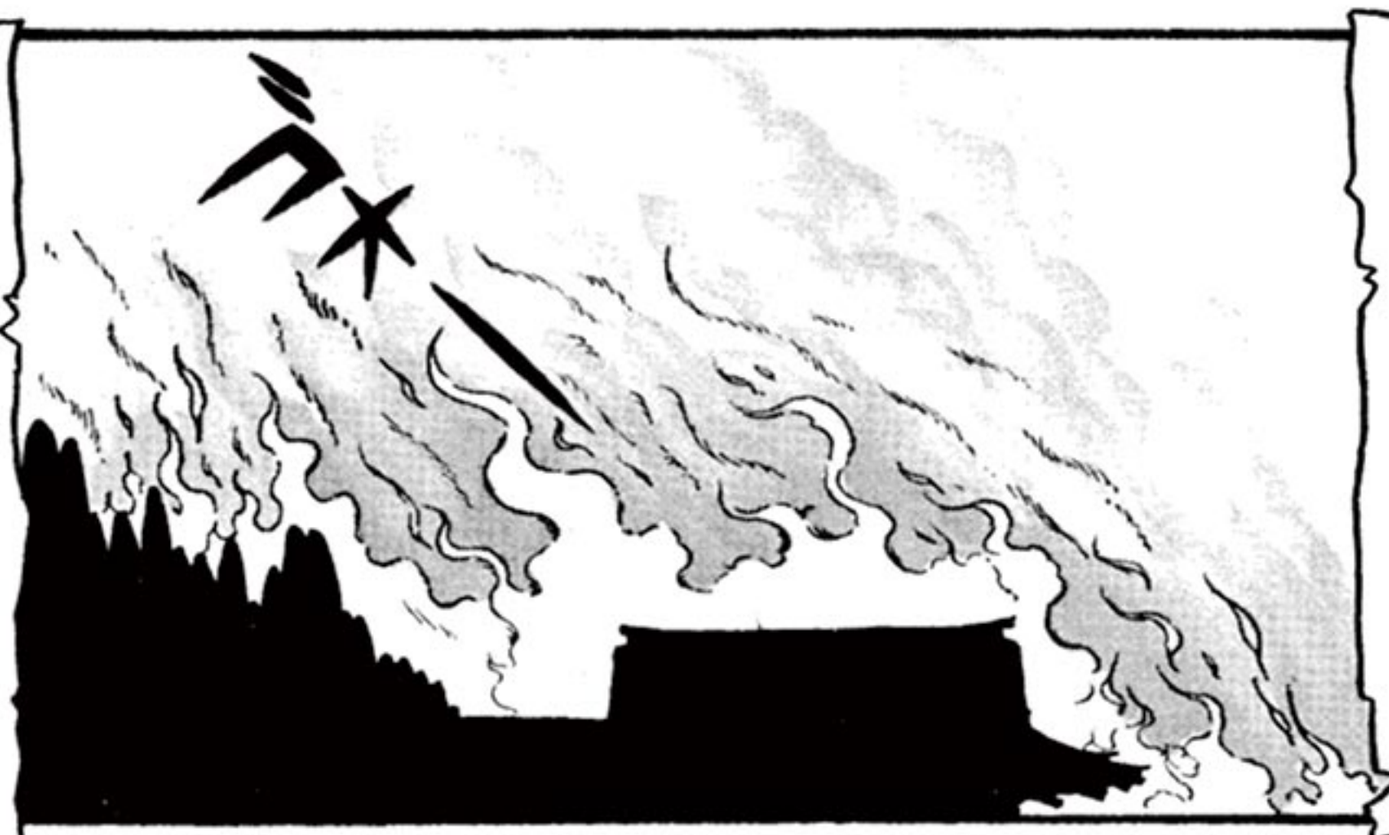
細川勝元邸では——

政長、負けるなよ。

手出しはせぬという、将軍との約束がある。ここは様子を見よう。

殿！山名軍の攻撃をうけ、政長どのの軍は退却をはじめました。

くそ…！



こうして、この日の戦いは、山名宗全の応援をえた畠山義就方の勝利におわりました。これを「御霊林の戦い」といいます。

この戦いをきっかけに、やがて山名宗全と細川勝元の全面戦争へと突入していきます。

細川方のおもな大名
山名方のおもな大名
両軍の勢力の入っている地域

●細川・山名両軍の勢力分布

畠山
畠山
京極
山名
武田
大内
土岐
河野
細川
斯波
一色
六角

四月から五月にかけて、細川方につく者、山名方につく者、合わせて二十五万もの軍勢が京にあつまりました。

※畠山と斯波の一族は二派に分かれて対立しました。

ドドド

一四六七年五月二十六日、東西両軍の間で、戦いの火ぶたが切っておとされました。「応仁の乱」のはじまりです。

戦いは、このあと十年間にわたってつづけられ、戦場になった京の町を焼け野原にしてしまいます。

将軍家のあとつぎをめぐる争いに、有力守護大名の細川勝元（義視方）と山名宗全（富子・義尚方）が味方することではじまった戦いでしたが、翌年になると、細川方（東軍）に義政・義尚・富子がつき、山名方（西軍）に義視が味方するという対立にかわっていきました。

こうして、義政と義視とが敵味方に分かれてしまったため、次の将軍には義尚がなることがはっきりしました。

一四六八年正月、京の町――

……。

飯尾彦六左衛門尉

なんとむなしいことだ…。

寺院や公家屋敷、庶民たちの家までやけてしまった。

のこったのは、花の御所とわずかな家だけ。

多くの公家たちは、乱をさけて地方へくだったというが…。

汝や知る都は野辺の夕雲雀あがるを見ても落つる涙は

歌の意味――ヒバリよ、この気持がわかるかい？一面の焼け野原になってしまった京の都のむざんな光景。夕空にまい上がるおまえの姿をながめていても、なみだがこぼれてしまうではないか。

応仁の乱のさなかの一四七三年、山名宗全と細川勝元があいついでなくなり、義政は、むすこの義尚に将軍職をゆずりました。

長かった戦いも、一四七七年にやっとおわりましたが、混乱した世の中は、もはや幕府の力ではたてなおすことができず、守護大名たちは、なおも権力争いをつづけていました。この間、民衆はますます力をたくわえて、自治と自衛のために、手をむすびあっていきました。「下剋上の時代」(下の者が上の者をおしのける時代)のはじまりです。

応仁の乱でまる焼けになった京の姿は、古い権力・権威がおとろえていくことの象徴でもあったのです。

政治に意欲をうしない、将軍もやめてしまった義政は、東山での山荘づくりに情熱のすべてをかたむけていきます。

小学館 eBooks

第四章

東山文化

――室町時代後期――

一四八一年秋、長いいくさで焼け野原になっていた京の町が、やっと活気をとりもどしはじめたころのことです。

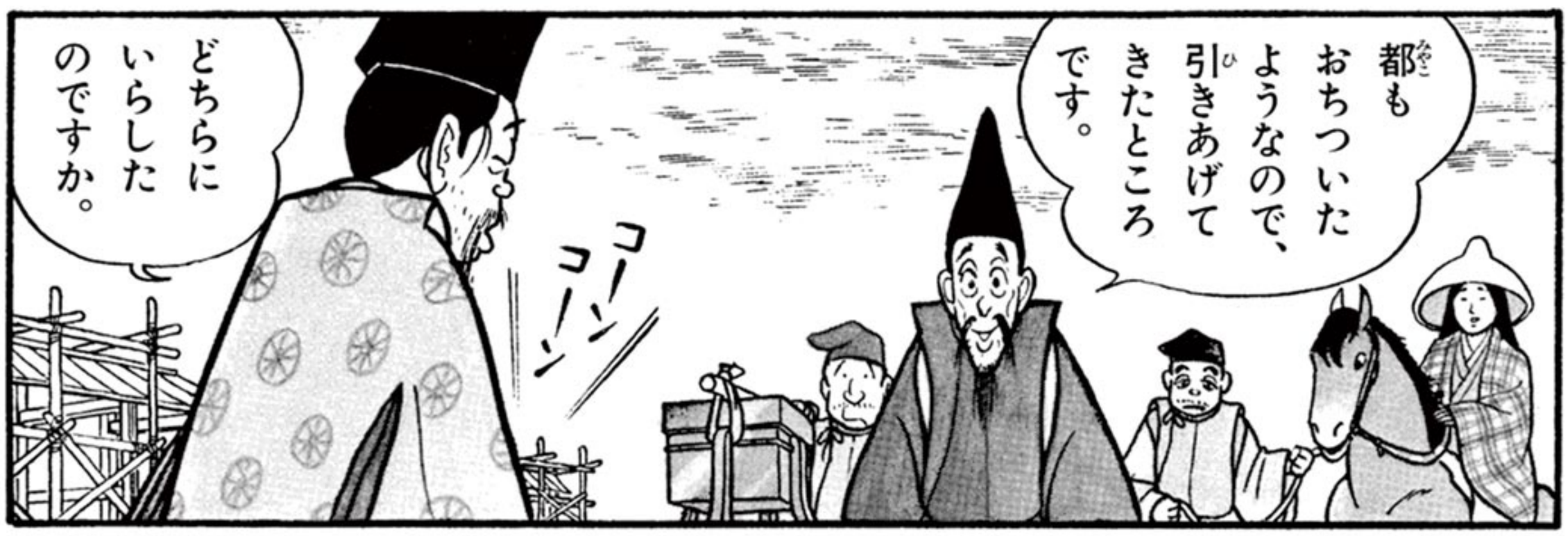
カンカン
コンコン
わあい。
まてっ！

いてっ！

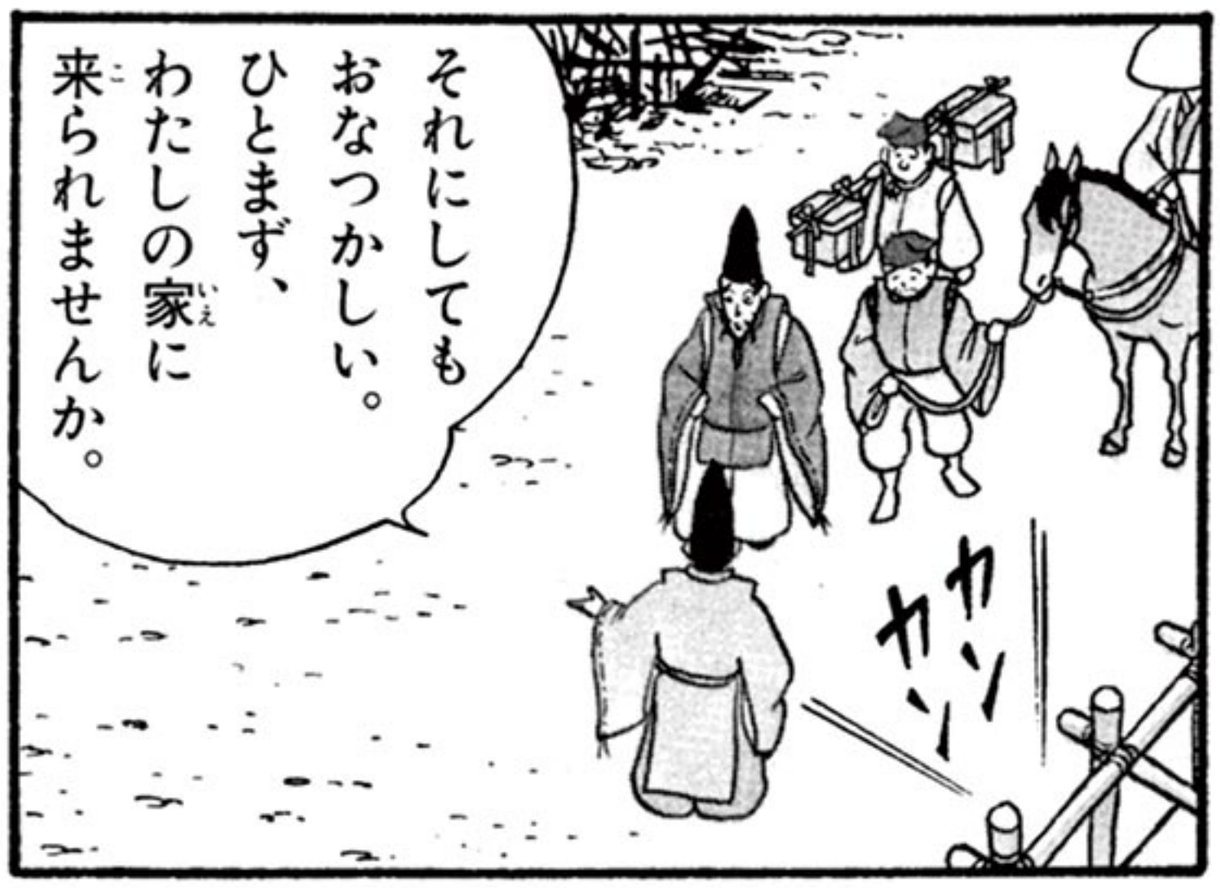
あっ！ごめんなさい。
元気が良いのう。だいじょうぶかな。

おやっ。
おおっ。
キャッ
キャッ
キャッ

これは
おひさしぶり。
お元気ですか。

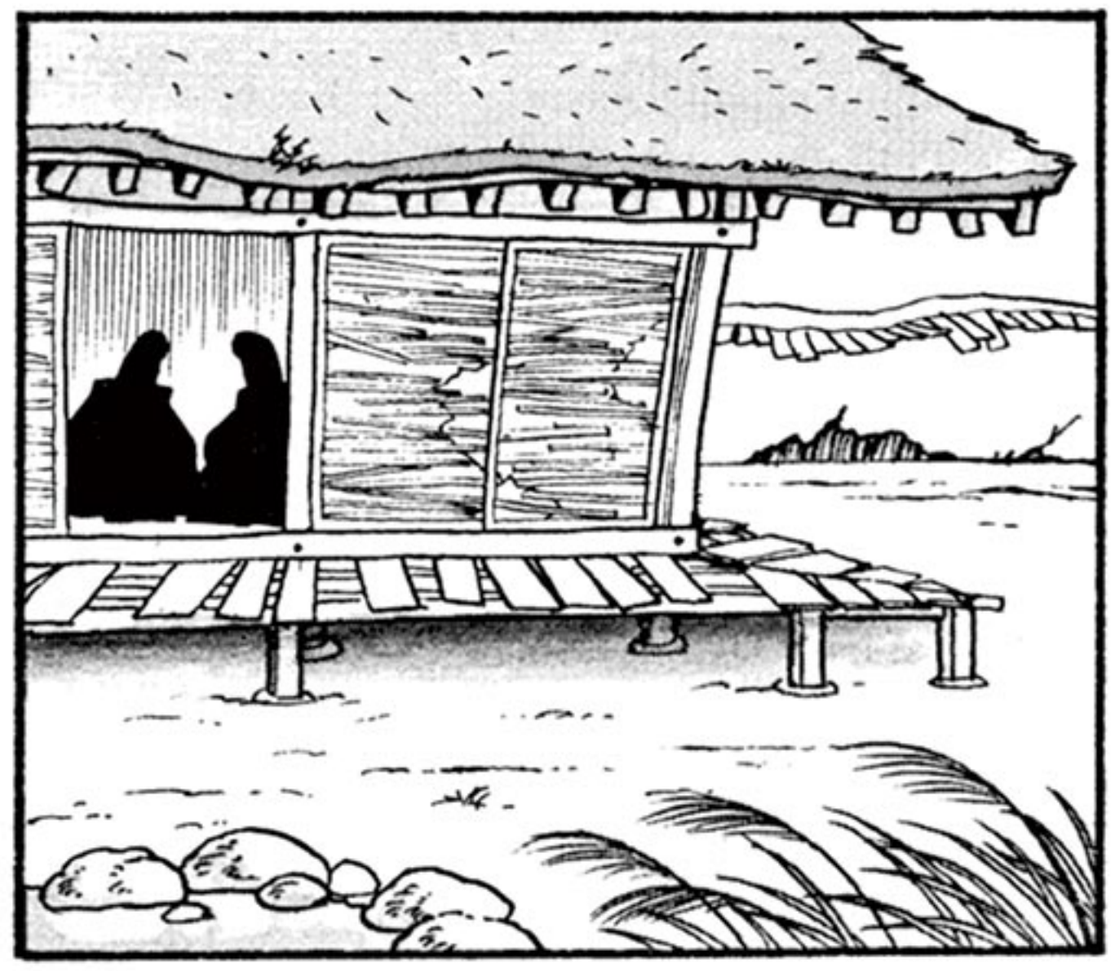

都も
おちついた
ようなので、
引きあげて
きたところ
です。
コーン
コーン
どちらに
いらした
のですか。

親せきの
いる*若狭国に
十年ほど…。
もう、都が
こいしくて
……。

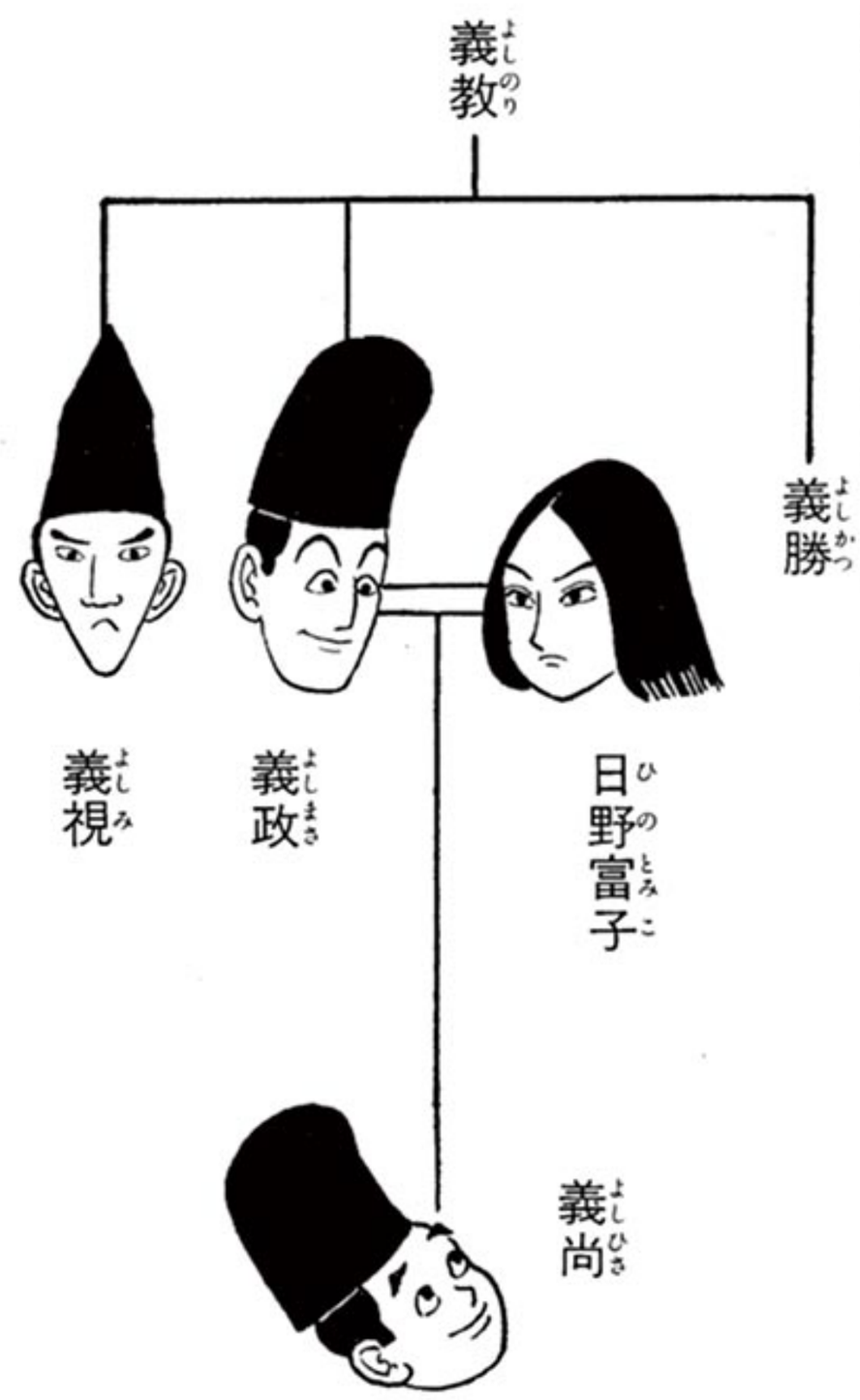

それにしても
おなつかしい。
ひとまず、
わたしの家に
来られませんか。
カン
カン

それは
ありが
たい。
すぐ
そこです。

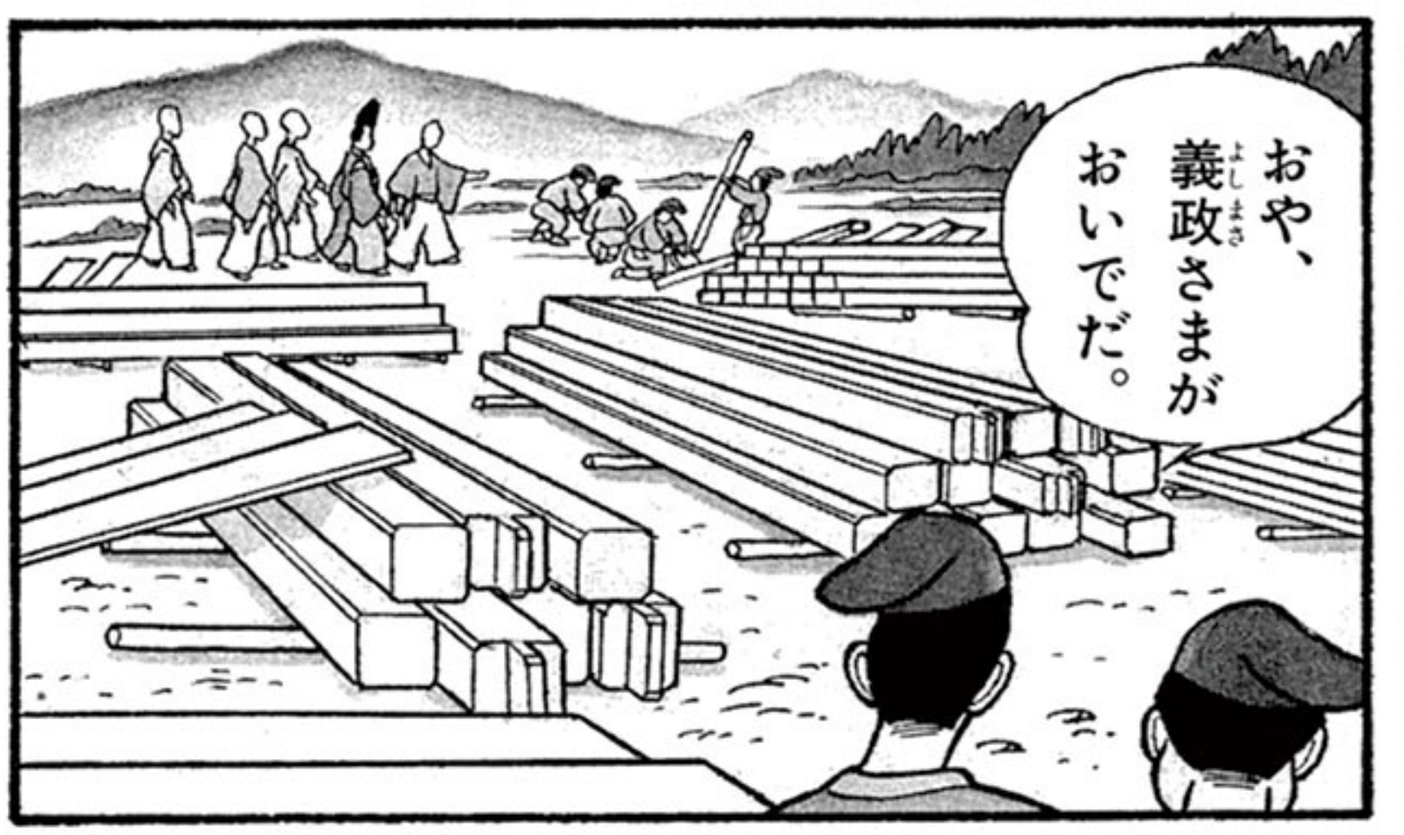
*若狭…福井県南西部

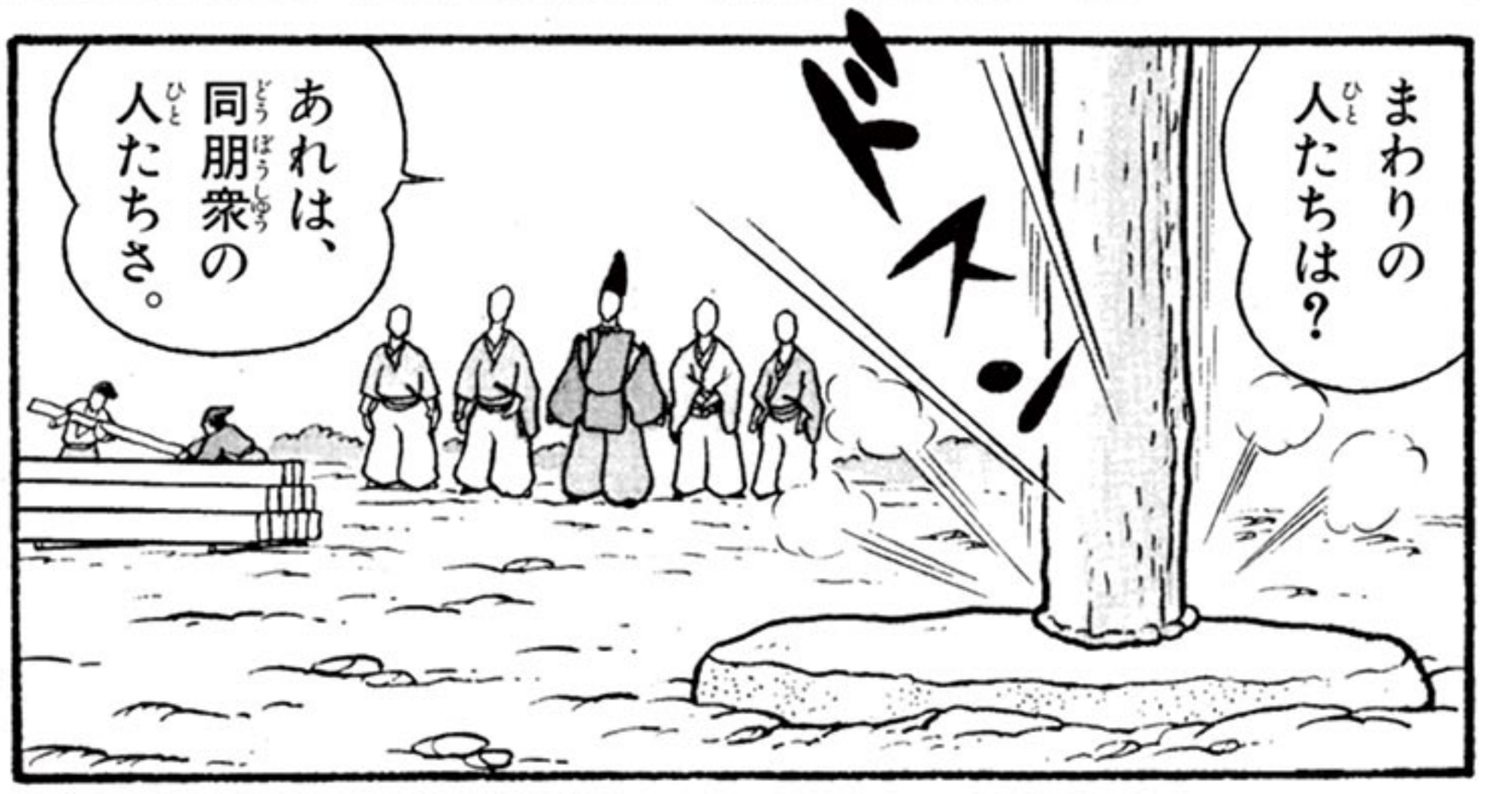


応仁の乱のさなかに義政が将軍職をむすこの義尚にゆずって八年がすぎました。ところが、成長した義尚は、父義政と仲たがいをするようになりました。



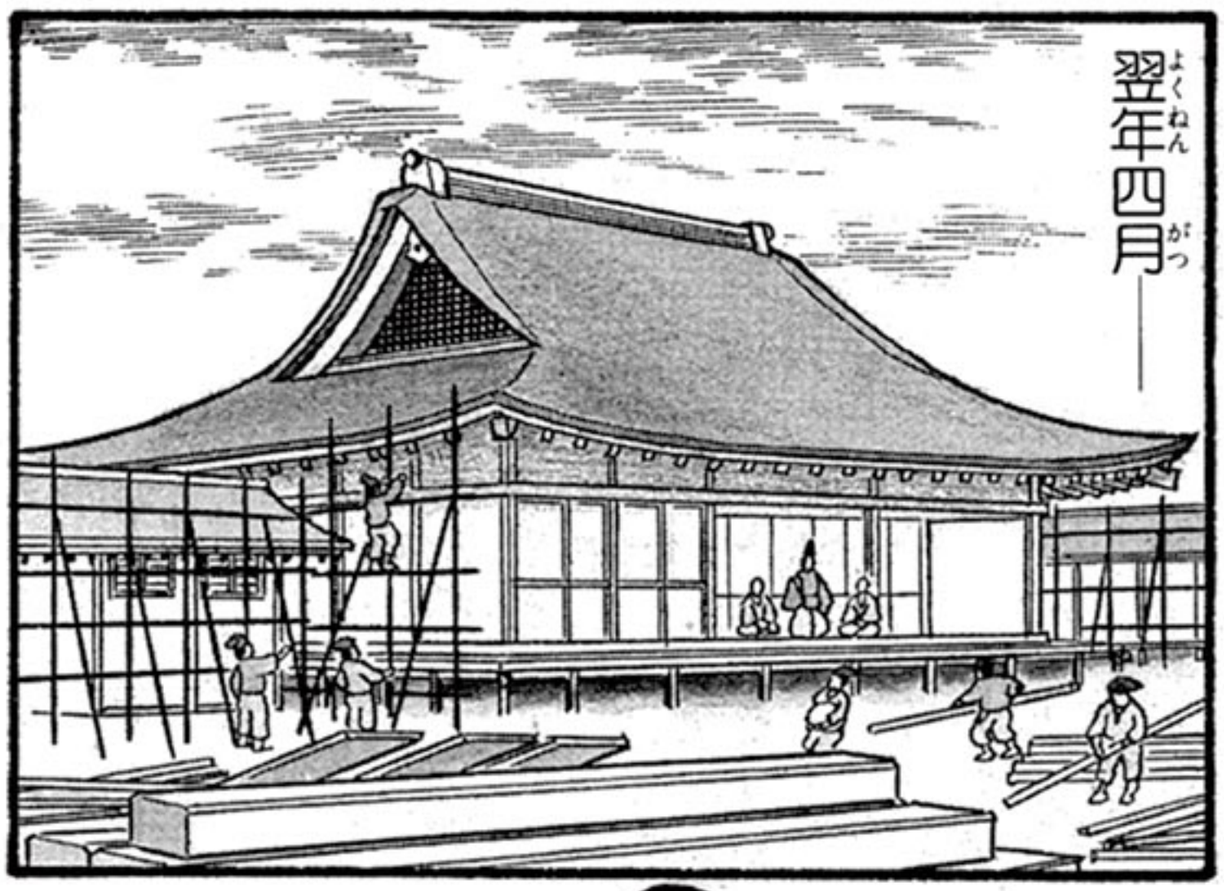
もともと、政治にあまり興味をしめさなかった義政は、義尚や富子との仲たがいによって、ますます政治から遠ざかっていきます。

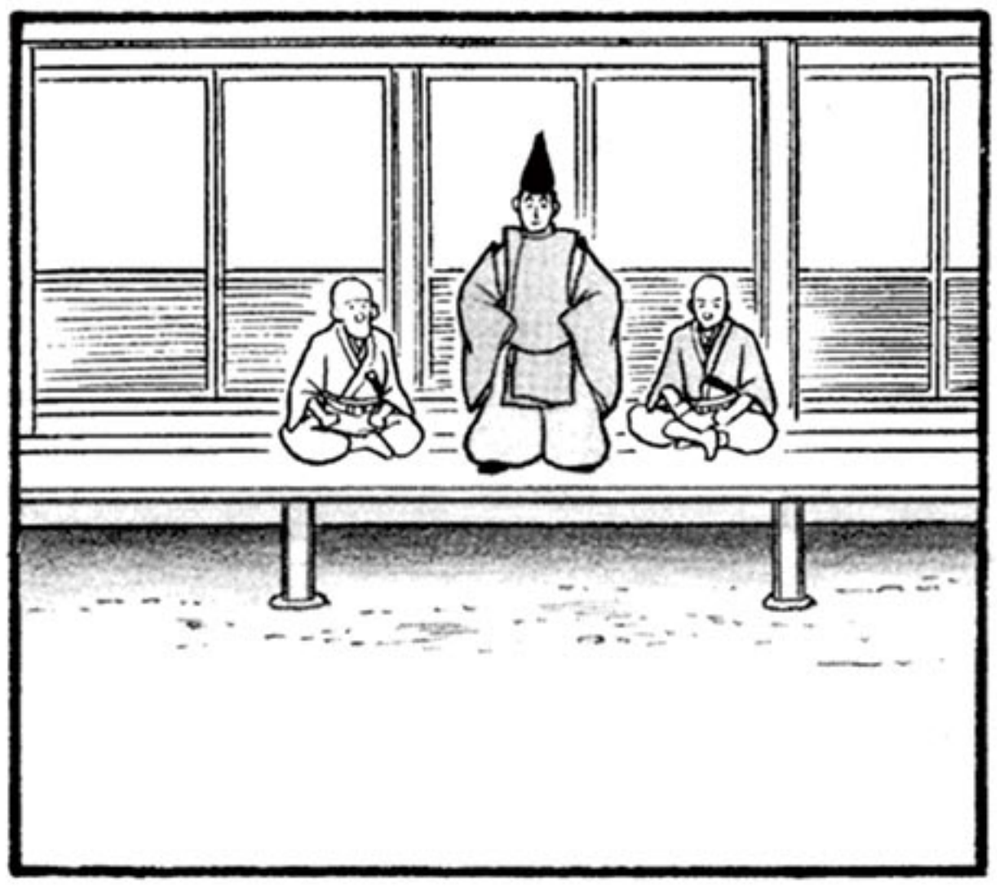


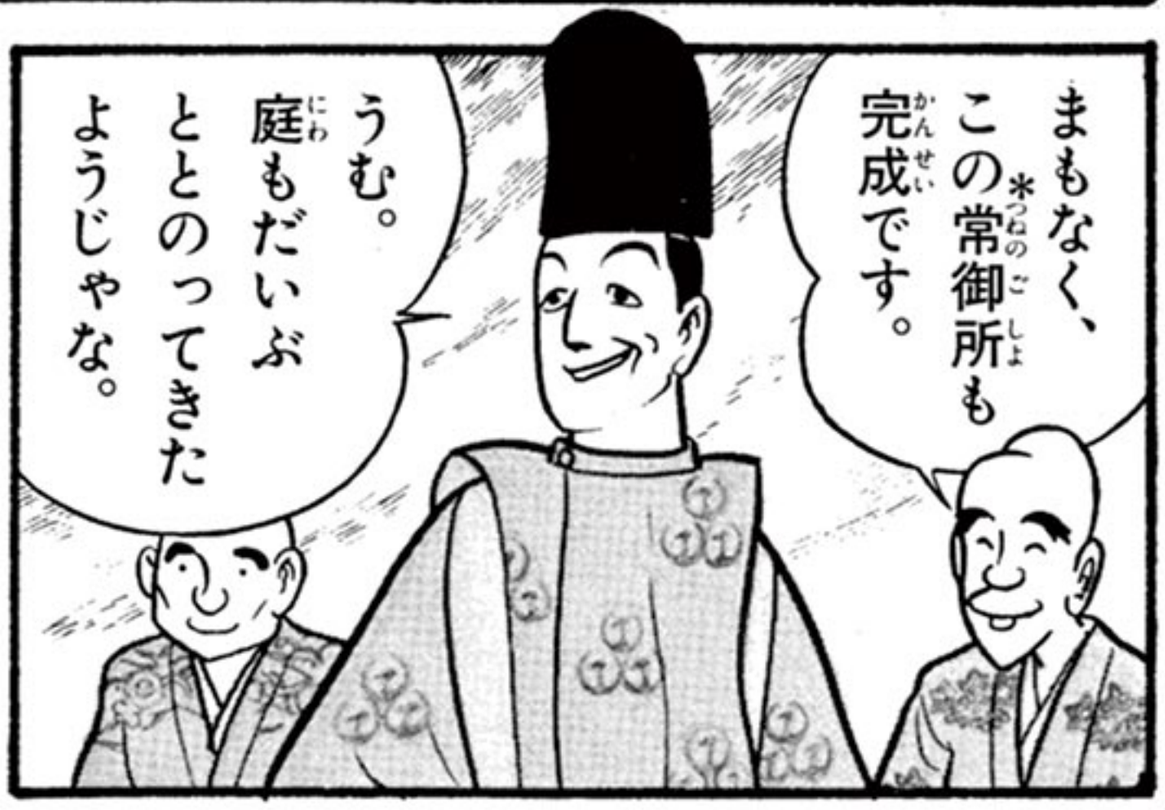


「同朋衆」というのは、将軍のそばで、相談役をつとめた人たちのことです。東山山荘の造営にあたって、庭づくりを指揮し、室内のかざりつけを行ったのは、この人たちです。後に登場する相阿弥は、代表的な同朋衆です。

＊山城……京都府南東部







*常御所…身分の高い人の邸内で、主人が日常すごした建物。

そうじゃ。明の皇帝にもほめられたという、あの雪舟等楊にかかせよう。

パチン

雪舟の住まい――

……というわけで、ぜひ、あなたに絵をかいてほしいのです。

ありがたいおことばですが、わたくしよりもっとふさわしい絵師がおります。

雪舟等楊

雪舟どのよりすぐれた絵師がおられるというのですか。

＊水墨画…墨でかいた絵。

今から十年以上も前のことになりますが……。

本格的な＊水墨画を学ぶため、明にわたっていたわたしは、修行をおえ、帰国の途についたところでした。

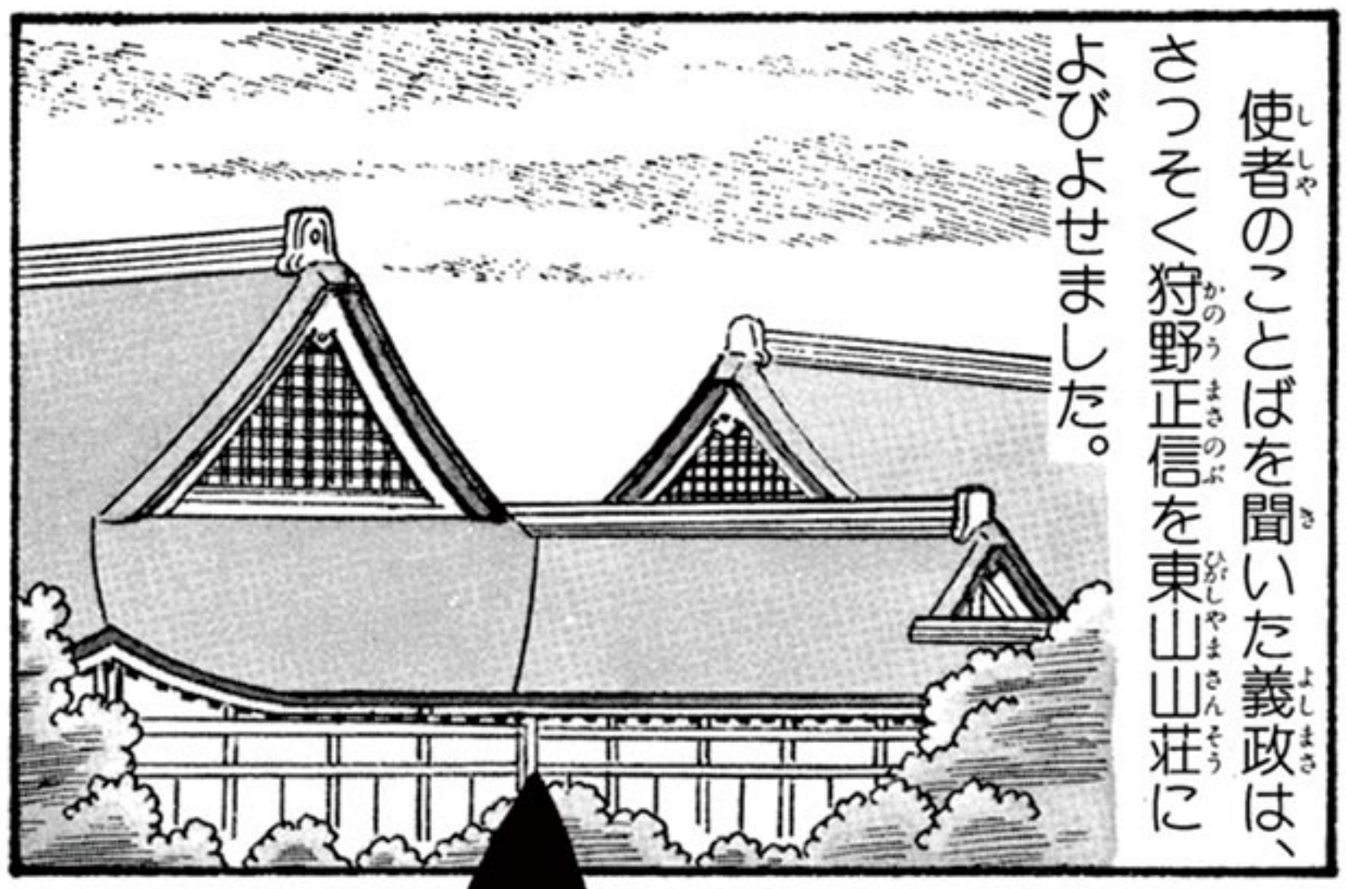
二年間、明の国で学んだが…。

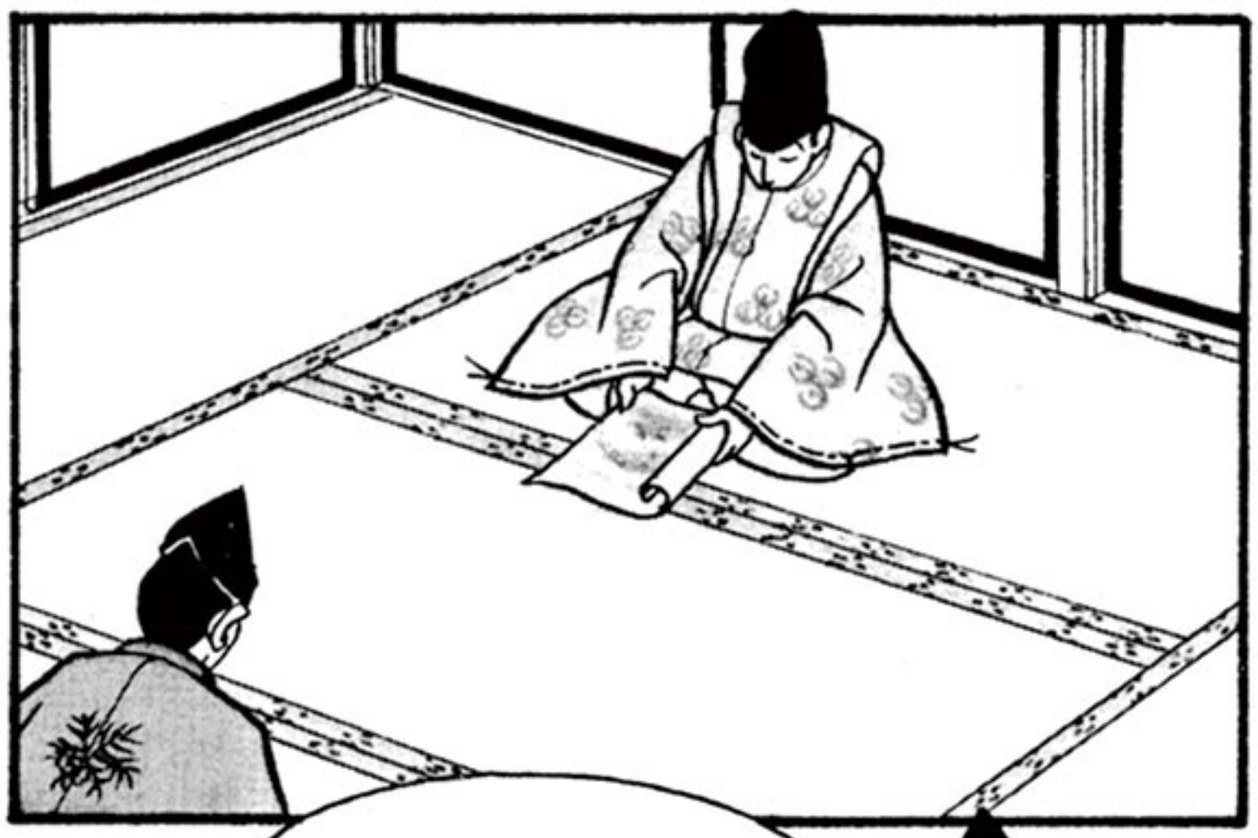
ほんとうに師とすべき人は少なかった。

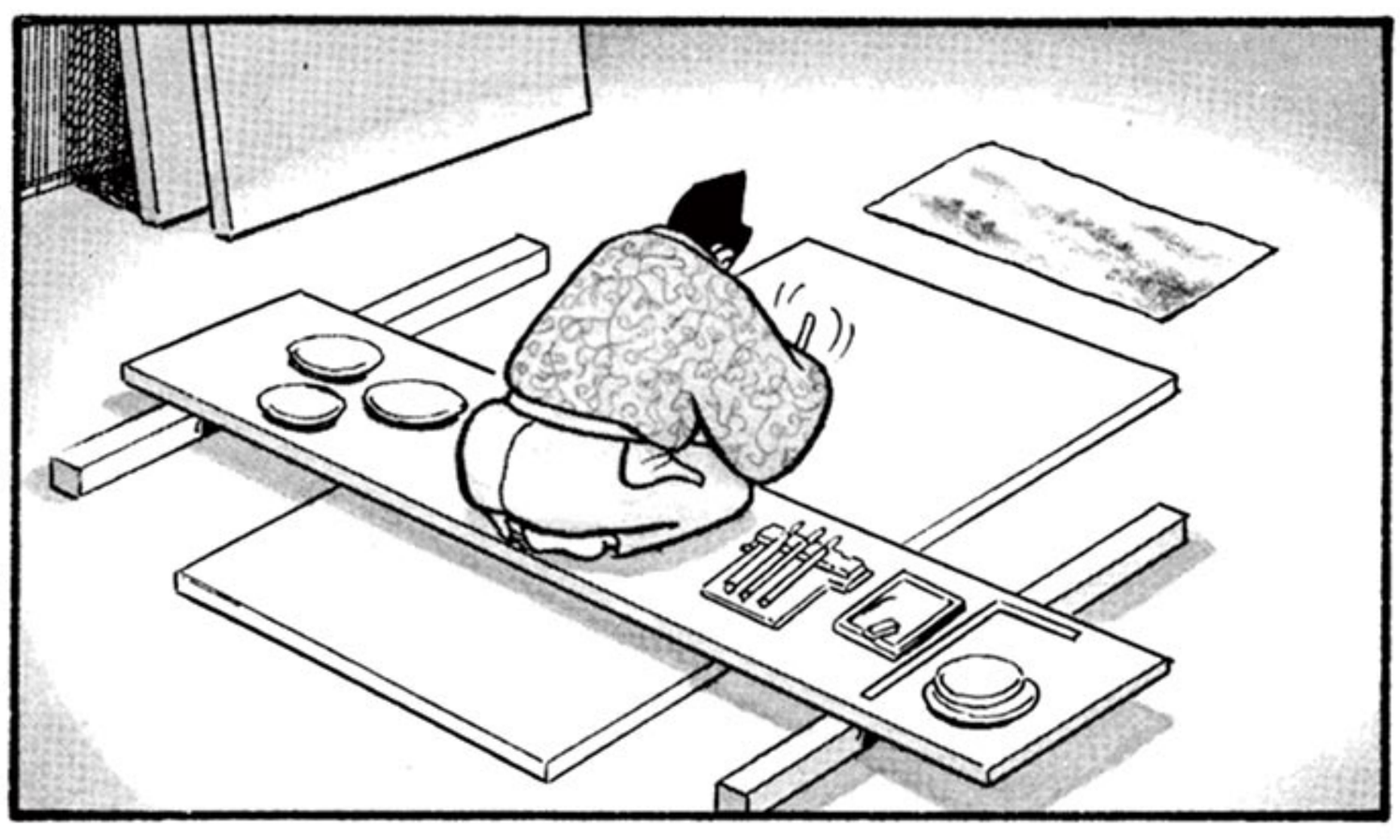
日本の如拙や周文のほうがすぐれている…。

如拙と周文の一生についてはよくわかっていませんが、二人とも雪舟のせんぱいにあたるすぐれた水墨画家です。

＊博多…福岡県福岡市の一部。日明貿易でさかえた港。







この正信が、有名な狩野派の最初の人です。狩野派はこの後、戦国時代から江戸時代まで、幕府の*御用絵師として活やくします。

なかでも、安土桃山時代から江戸時代にかけて活やくした、狩野永徳・山楽・探幽の三人はとくに有名です。

*御用絵師…幕府につかえた画家。

＊飯尾宗祇…このころ活やくした連歌の名人。

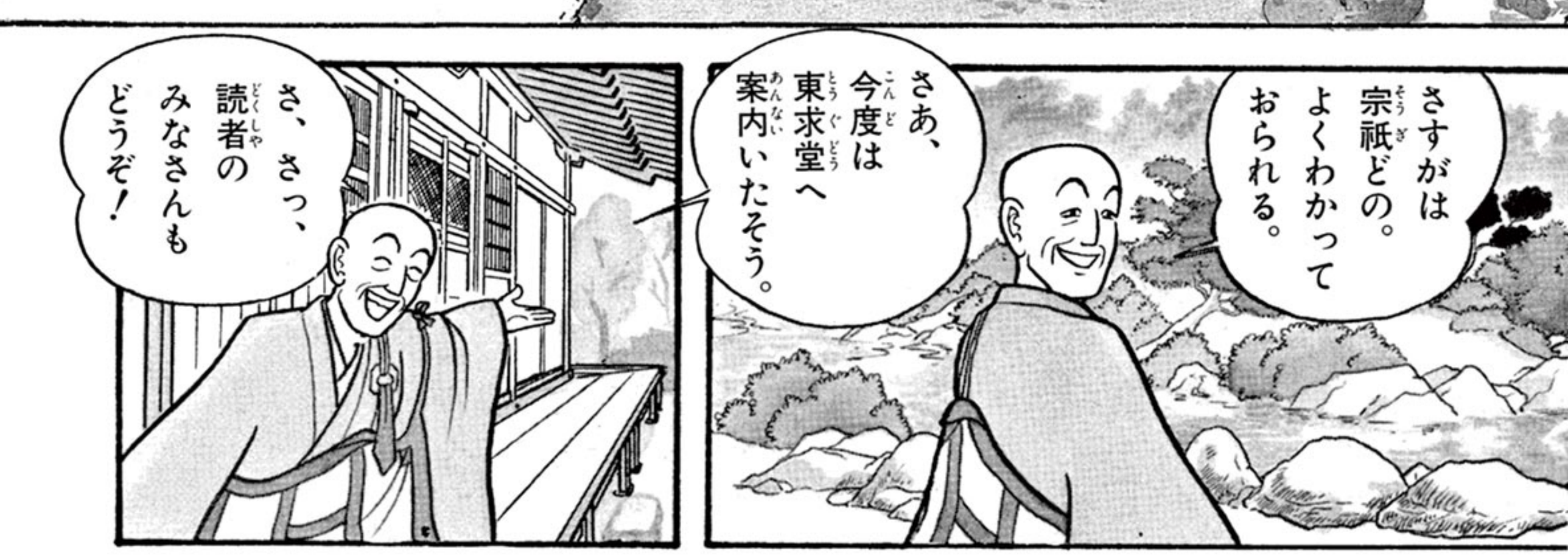
三年後の一四八五年、義政は出家しました。

この間にも、山荘づくりはちゃくちゃくとすすめられ、常御所についで、東求堂や会所などが、ぞくぞくとたてられました。

この東山山荘では、これから見ていくように、さまざまな文化が、義政を中心に花ひらきました。この文化を「東山文化」とよびます。

このあたりに、観音殿(銀閣)をたてるのじゃ。

上さま、*飯尾宗祇どのがおみえです。



東求堂の仏間――

ここで、阿弥陀さまをおがまれるのですね。

そうじゃ。

なかなかこったつくりの天井ですな。

次は、同仁斎へまいろう。

同仁斎

仏間

義政どののの*書院ですね。

*書院…書斎のこと。

東求堂の同仁斎――

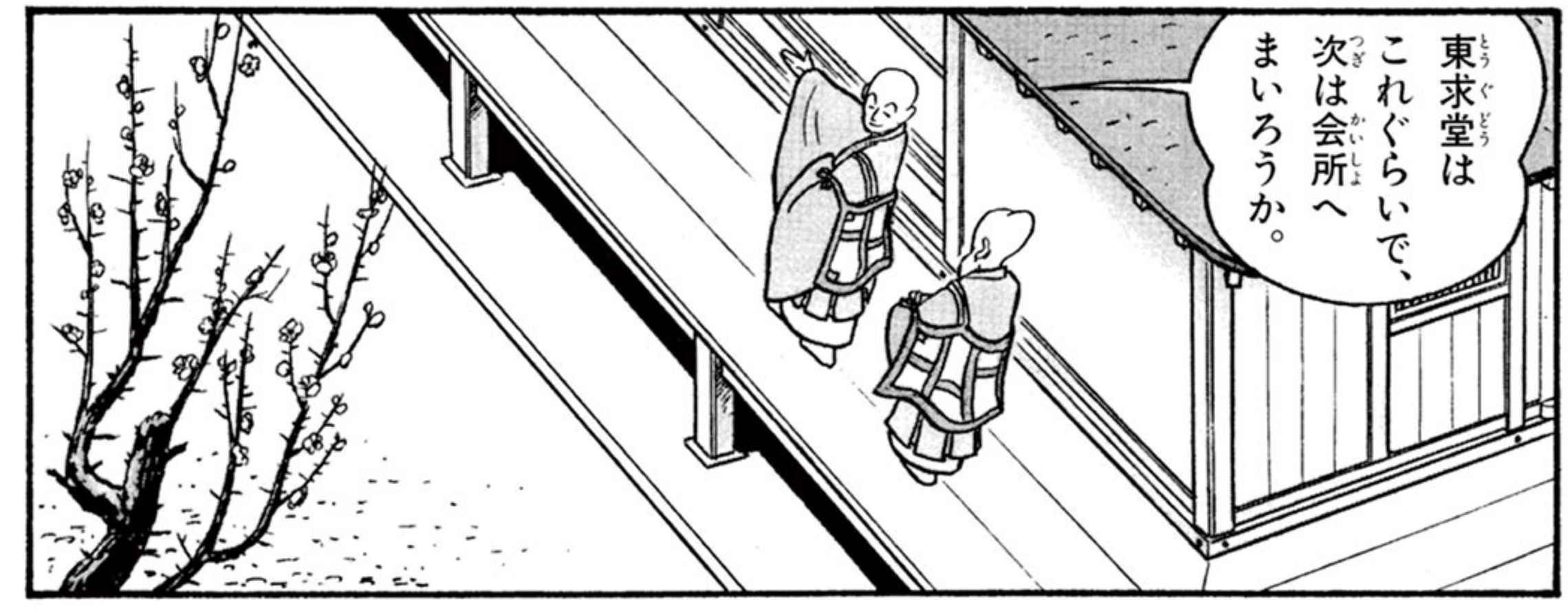
おちついたお部屋ですね。

ここへ来ると、心がしずまるのじゃ。

この同仁斎では、今日のわたしたちの住まいと同様、たたみがしきつめられ、部屋のまわりには、ふすまや障子をめぐらしています。

こうした建物のつくりは、このころからしだいに広まったもので、「書院造」とよばれています。

同仁斎にあるような違い棚や、一段高くなった床の間があって、花びんやかけじくなどがかざられるのも書院造の特徴です。



*連歌…和歌（短歌）の上の句と下の句を交互につづけていくもの。二人以上で楽しむ。

義政は、この会所をつかい、季節に合わせてさまざまな会をもよおしました。そこには、多くの文化人や芸術家があつまりました。

春は*立花の会――

夏は茶会――

秋は月見の会――

じきじきのご案内、ありがとうございました。

また来てくだされ。

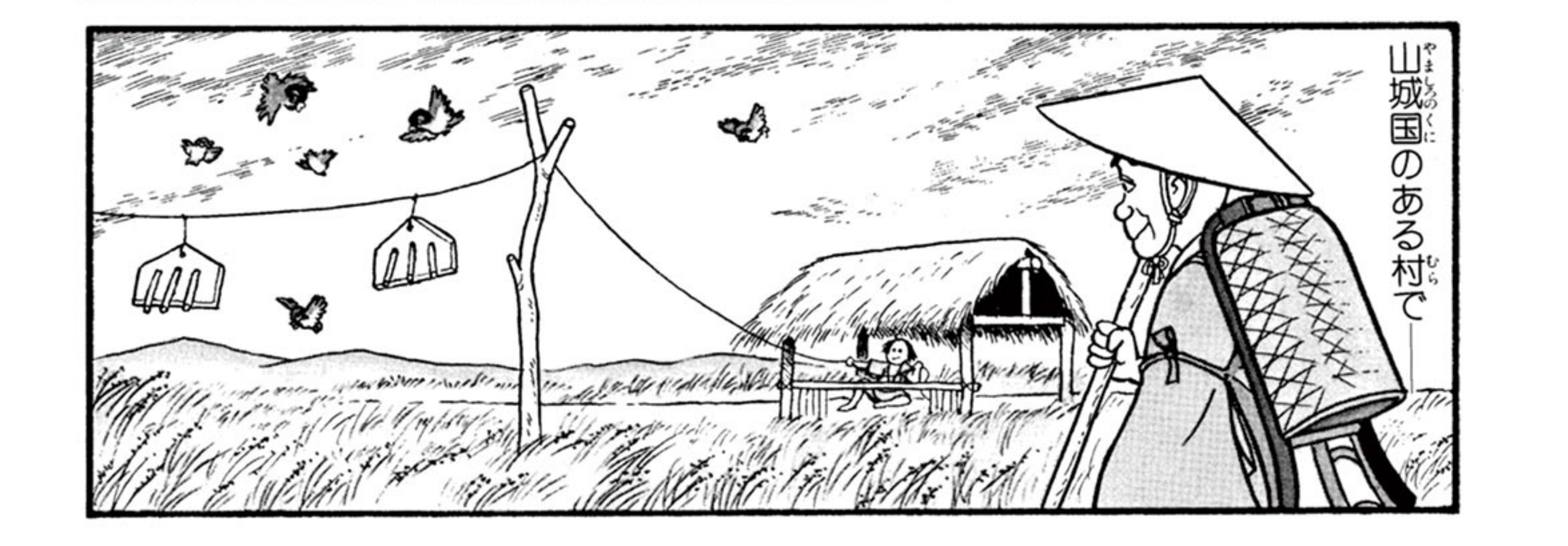
連歌の会が楽しみじゃ……。

*立花…花を花びんに生けること。今の生け花のもとになった。

一方、将軍家からのさそいをことわった雪舟は、京をはなれ、*周防国へむかいました。

*周防…山口県東部

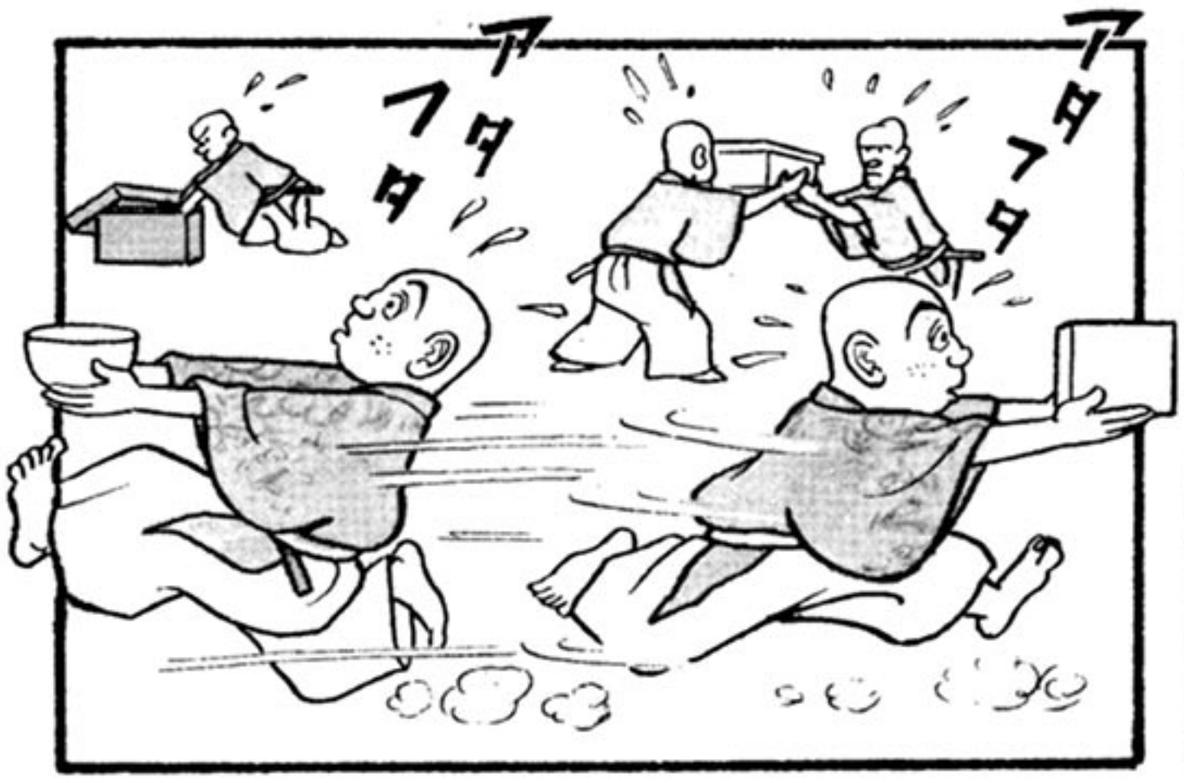
各地を旅して歩いてきたが…。
ド
ド
ド
そろそろ、腰をおちつけて仕事をしたい…。


山城国のある村で——

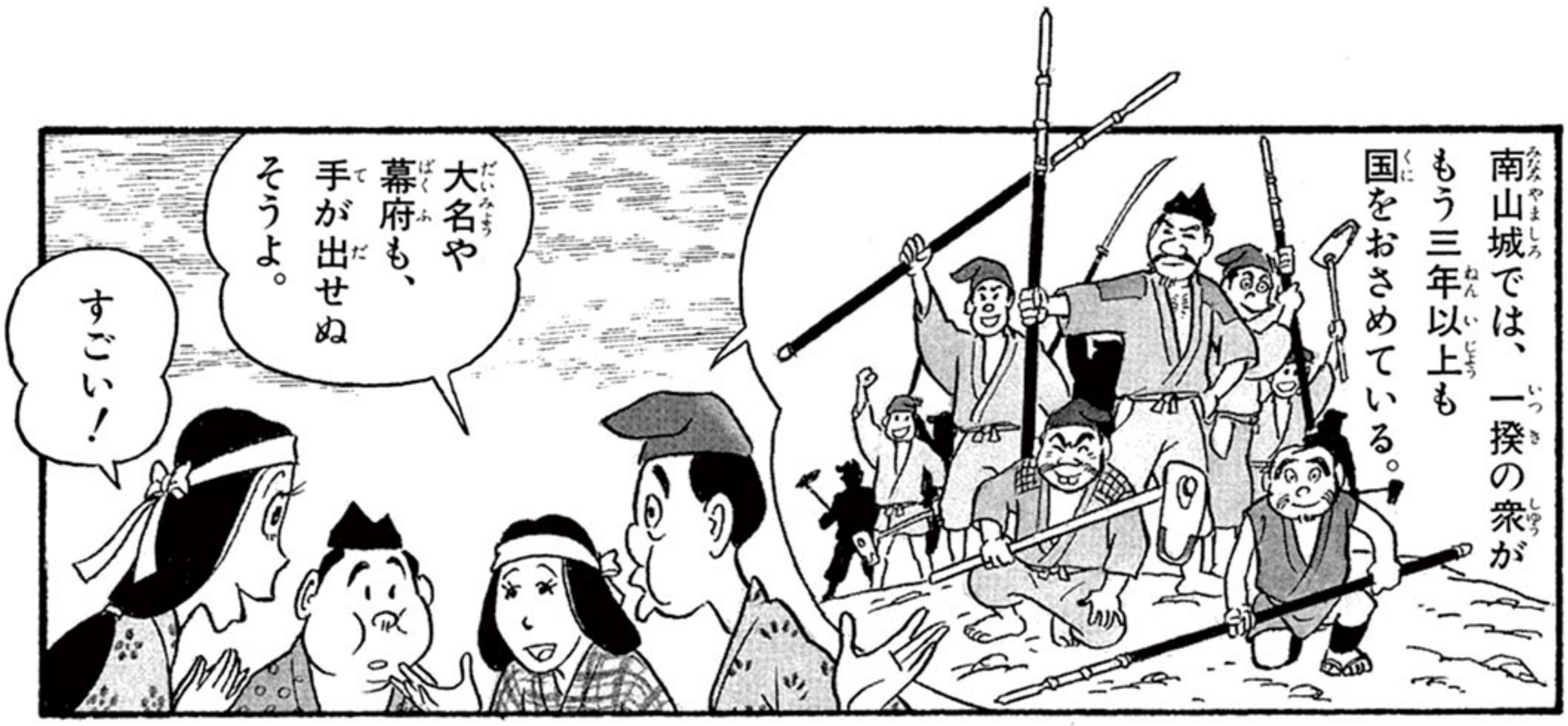
*山口…山口県山口市

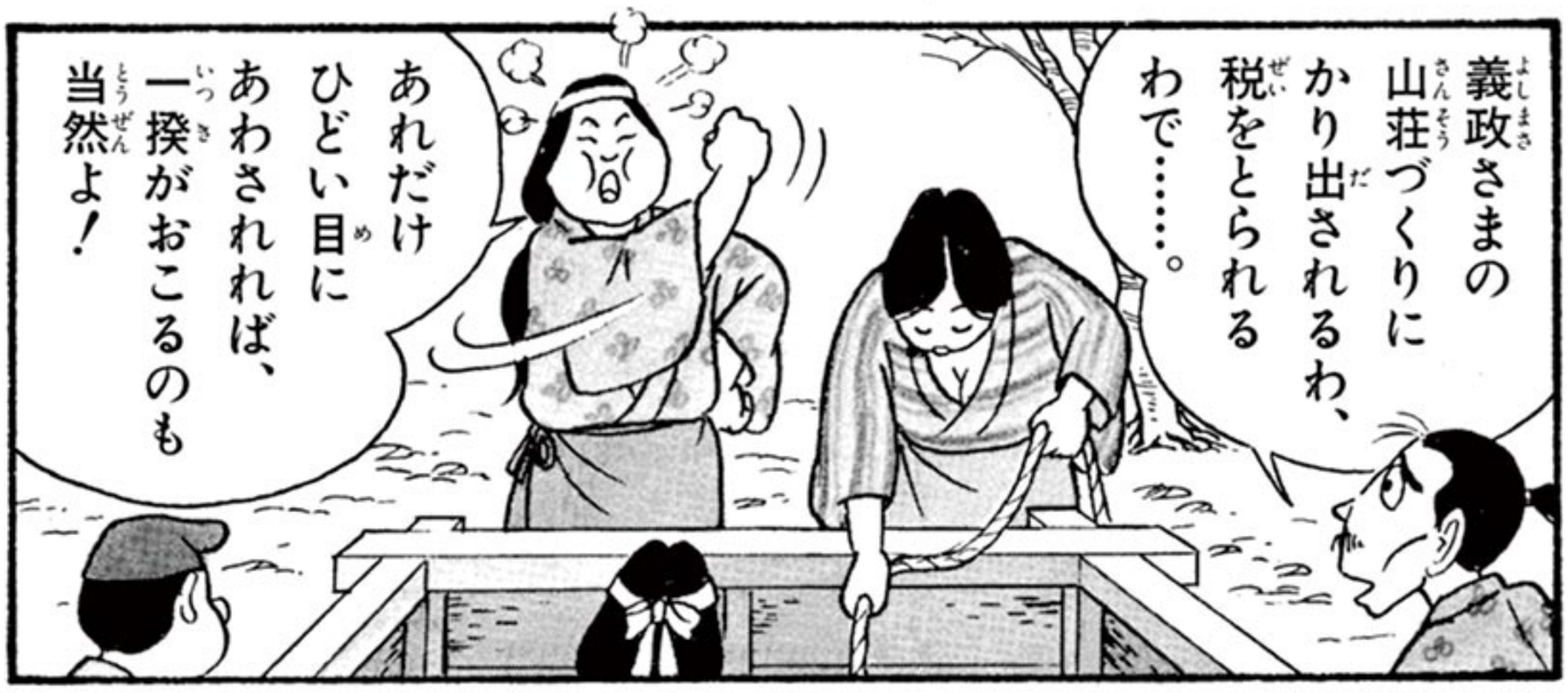
山口に腰をおちつけた雪舟は、さっそく大作「山水長巻」の制作にとりくみ、これを完成させました。絵にそそぐ雪舟の情熱は、年とともにますますさかんになり、八十歳をすぎてからえがいた「天橋立図」は、最高けっ作といわれています。

こうした間にも、義政は、禅僧の横川景三や同朋衆たちと相談しながら、東山山荘づくりをちゃくちゃくとすすめていきました。



*北山の舎利殿…今日の金閣のこと。第八巻第四章参照。





この一揆を「山城国一揆」とよんでいます。
一揆の衆たちによる南山城の自治は、この後さらに四年半もつづきました。

翌年の一四九〇年正月、義政は、この観音殿の完成をまだずに五十五歳で世をさりました。

この観音殿は、いつのころからか、「銀閣」とよばれています。これは義満のたてた「金閣」になぞらえたよび名です。

たびかさなる戦乱や一揆をよそにつづけられてきた東山山荘づくりも、義政の死とともに中止になりました。しかし、ここで花ひらいた新しい文化（東山文化）は、後の時代の日本人の生活にも、深いえいきょうをのこすことになりました。

義政の生きた時代は、応仁の乱・山城国一揆…と、戦乱につぐ戦乱の時代でしたが、これが前ぶれになって、いよいよ「戦国乱世」の時代がはじまるのです。京や堺など、各地で戦乱と一揆があいつぎ、関東地方では、いちはやく「戦国大名」が名のりをあげていきます。

これからの約百年間こそは、「天下統一」にむかう歴史の大きなうずまきに、人びとがまきこまれていく時代です。

小学館 eBooks

おうちの方へ

立ちあがる民衆

京都教育大学名誉教授　高山博之

守護大名の力に支えられていた室町幕府の権力は、常にゆらいでいました。三代将軍義満の死後も争いがたえず、幕府は衰退の道をたどりますが、その無力を決定づけたのが応仁の乱でした。

この戦乱は京都から全国へと拡大し、下剋上の風潮が広がって、やがて各地に新しい戦国大名の台頭をうながすのです。

一方、戦乱の中で民衆も団結して力を貯え、実力で土一揆をおこすようになります。

下剋上による社会の変動を多面的にとらえさせてください。また、今日の社会につながる東山文化の内容にも注目させたいと思います。

●第1章「ゆらぐ室町幕府」

父義満の政治を否定し、独自の政治を行おうとした四代将軍義持、専制政治を強行して殺害された六代将軍義教、二人が目ざしたのは、強い幕府、強い将軍でした。しかし、逆に幕府は衰退へと進むのです。東国の動乱、守護大名との抗争、土一揆などから将軍の権威が失墜していく過程をしっかりとらえさせたいものです。

章の冒頭の草戸千軒の町並みは、この時代を中心に栄えた集落を復元したものです。当時の人々の生活ぶり、使っていた道具、日明貿易にかかわる遺物などに注目させてください。京の鴨川の河原に群れる難民の姿、土一揆からも当時の民衆の様子を知ることができます。

●第2章「土一揆と民衆」

近畿各地に広がった正長の土一揆は、民衆の力を、支配者層にまざまざと見せつけた出来事でした。当時、先進地域では農業生産の拡大により農民の生活に幅が生まれ、惣という自治組

織が作られるようになりました。

やがて、彼らは荘園領主や守護大名らの圧迫に対し、団結して武力で対抗するようになり、同じ境遇の都市貧民とも結んで、徳政を求めて立ち上がりました。これが土一揆です。

民衆はどんな圧迫を受けていたのかを具体的に見せながら、力強く生きる民衆の姿をとらえさせてください。生産活動や田楽などの生活文化にも注目させたいものです。

●第3章「応仁の乱」

あいつぐ土一揆や強大な守護大名との対立などによって、幕府の衰えが一段と進む中、八代将軍となった足利義政は、幕政を顧みず、ぜいたくな生活を続けました。

このような折、将軍跡つぎ問題にからんだ幕府の二大実力者、細川勝元と山名宗全の抗争は、諸大名をまきこんで11年にも及ぶ応仁の乱をひきおこしました。

京都は焼野ヶ原となり、戦火は地方にも広がって下剋上の風潮が高まり、守護大名たちも幕府同様に没落し、新しい勢力が台頭してくるのです。乱は無意味な戦いでしたが、影響は甚大でした。その点をよく理解させてください。

●第4章「東山文化」

足利義政は、政治面ではダメ将軍でしたが、文化人としてはすぐれた資質の持ち主でした。

一揆や戦乱の続く中で、義政は東山山荘を造り、政治から逃れて静かな生活をおくろうとしました。ここを中心に花開いた文化は、東山文化とよばれ、後の日本人の生活に深い影響を残すことになります。

書院造りの様式、茶の湯や生け花、水墨画など日本文化の基盤になるものが、この時代に整えられます。

これら東山文化の内容をしっかり読みとらせるとともに、狩野正信、雪舟、宗祇などの文化人の活躍にも注目させましょう。義満の時代の北山文化との比較も大切です。

児玉幸多
Kouta Kodama

歴史を漫画で説明しようというのはかなり冒険である。しかし、文字で読んでも、耳から聞いても、人それぞれに頭の中ではその光景を絵に描いているのである。それが子供たちの頭の中で全くの絵空事にならないように、今の歴史研究の段階では、このくらいのところまでは漫画にすることができるのではないかという試みがこの企画である。

それぞれの専門研究家の指導によって一巻ごとの構成を決め、作図や文章表現も考慮しているので、誤った知識を得る恐れはないと思う。そして、多分、大人が読んでも、あるいは見ても、十分に楽しみながら日本歴史の学習ができるのではないかとも考えている。遺跡の発掘、奈良の大仏の鋳造、天守閣の構築、それらの一つ一つにも、専門家の新しい研究成果が判りやすく盛りこまれているからである。楽しみながら正確な知識が得られることを願う次第である。

小学館 eBooks
学習まんが　少年少女 日本の歴史　第９巻　立ちあがる民衆

2015 年 3 月 27 日　電子書籍版発行
監　修　児玉幸多
まんが　あおむら 純
発行人　伊藤 護
発行所　株式会社　小学館
〒101-8001
東京都千代田区一ツ橋 2-3-1
s-ebook@shogakukan.co.jp

底　本　2014 年 10 月 20 日　増補版第 21 刷発行

©SHOGAKUKAN 2015 ISBN978-4-09-298109-6

※ご注意
本作品の全部または一部を無断で複製、転載、改竄、公衆送信すること、および
有償無償にかかわらず、本データを第三者に譲渡することを禁じます。
個人利用の目的以外での複製など違法行為、もしくは第三者への譲渡をしますと
著作権法、その他関連法によって処罰されます。